

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第476集

に　　だい　なが　ね
二の台長根遺跡発掘調査報告書

国営いさわ南部農地整備事業関連遺跡発掘調査

2006

農林水産省東北農政局
いさわ南部農地整備事業所
(財) 岩手県文化振興事業団
埋 藏 文 化 財 センター

二の台長根遺跡発掘調査報告書

国営いさわ南部農地整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、国営農地再編整備事業いさわ南部地区に関連して平成16年度に発掘調査された胆沢町二の台長根遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では縄文時代の狩場として陥し穴状遺構が24基検出された他に、試掘調査で確認されなかった後期旧石器時代の石器集中区が検出され、胆沢町では上森遺跡に次いで2例目の旧石器時代の遺跡の調査となりました。胆沢扇状地は古くから大規模な開墾が行われていたところで、全般的に遺跡の保存が良くないにもかかわらず旧石器時代の石器集中区が確認されたことは非常に貴重なことです。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所、胆沢町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成18年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例　　言

1 本報告書は、岩手県胆沢郡胆沢町小山字二の台長根131-2他に所在する、二の台長根遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2 本遺跡の発掘調査は、国営いさわ南部農地整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3 本遺跡の成果は、平成16年度発掘調査概報に公表したが、本書を正式な報告とする。

4 岩手県遺跡登録台帳における番号と調査時の遺跡略号は、以下の通りである。

　　遺跡番号…………NE44-1312

　　遺跡略号…………NDN-04

5 調査期間・調査面積・調査担当者は以下のとおりである。

　　調査期間…………平成16年4月14日～9月10日

　　調査面積…………17,764 m²

　　調査担当者…………吉田 充・村木 敬・中村絵美・林 熱

6 室内整理期間と整理担当者は以下のとおりである。

　　室内整理期間…………平成16年11月1日～17年3月31日

　　整理担当者…………吉田 充

7 本報告書の執筆は、IV検出遺構を吉田 充・村木 敬・中村絵美・林 熱が、それ以外と編集を吉田 充が担当した。

8 分析鑑定及び委託業務は次の方々に依頼した（敬称略、順不同）。

　　石質鑑定　　花崗岩研究会

　　自然科学分析　（火山灰分析）　（株）京都フィッショントラック

　　（炭素年代測定）　　加速器分析研究所

　　土壤洗浄　　（旧石器時代遺物抽出）　（株）菊池技研

9 國土地理院発行の地図を複製したものは図中に図幅名と縮尺を記した。

10 遺構の埋土観察には、小山・竹原編「新版標準土色帖」を参考にした。なお、土層觀察は3人の調査員で行い、それぞれの調査者の表現では注記しているが、最終的には現場で觀察・対比を行っている。

11 本報告書の作成にあたり、次の方々からご指導とご教示をいただいた（敬称略、順不同）。

菊池強一（日本考古学協会員）、熊谷常正（盛岡大学）、柳田俊男（東北大学）、阿子島 香（東北大学）、鹿又喜隆（東北大学）、須田富士子（東北大学）、小野伸治（東北大学）、渋谷孝雄（財山形県埋蔵文化財センター）、松沢重生（元岩宿博物館長）、武田良夫（日本考古学協会員）、山田晃弘（東北歴史博物館）、佐々木郁子（胆沢町教育委員会）、伊藤スケオ（水沢市）、寺崎康史（今金町教育委員会）、畠 宏明（北海道教育庁）、長沼 孝（北海道教育庁）、宗像公司（北海道教育庁）

12 野外調査にあたっては、胆沢町の方々にご協力をいただいた。

13 本遺跡から出土した遺物及び調査にかかる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

目 次

I 調査に至る経過	1	(8) その 他	31
II 遺跡の位置と立地	1	3 接合資料	31
1 位置と環境	1	4 水洗洗浄により抽出した破片	36
2 地形・地質	3	(1) 方 法	36
(1) 地 形	3	(2) 抽出結果	36
(2) 地 質	3	(3) 破片の形状	36
3 基本土層	5	5 産状分析	40
4 周辺の遺跡	9	V 繩文時代以降	41
III 調査方法と室内整理	13	1 検出された遺構	41
1 調査経過	13	(1) 陥し穴状遺構	41
2 野外調査	15	(2) 土 坑	42
3 室内整理	16	(3) 掘立柱建物跡	42
IV 旧石器時代	19	(4) 溝 跡	48
1 概要	19	(5) 柱穴状遺構	51
(1) 位 置	19	VI 遺構外出土遺物	54
(2) 分布状況	19	1 土 器	54
(3) 石質別分布	19	2 石 器	54
(4) 石 材	19	VII まとめ	55
(5) 器 種	22	1 土 層	55
2 出土遺物	22	2 出土遺物	57
(1) 石質Aの石器	22	3 周辺の遺跡との比較	57
(2) 石質Bの石器	25	4 線刻状跡について	58
(3) 石質Cの石器	28	附編 自然科学分析	62
(4) 石質Dの石器	28	1 二の台長根遺跡の火山灰分析	62
(5) 石質Eの石器	28	2 二の台長根遺跡の年代測定	75
(6) 石質Fの石器	28	報告書抄録	107
(7) 石質Gの石器	31		

表 目 次

第1表 土層注記一覧表	7	第9表 土坑一覧表	42
第2表 周辺の遺跡一覧表(1)	10	第10表 溝跡一覧表	51
第3表 周辺の遺跡一覧表(2)	11	第11表 柱穴状遺構一覧表	52
第4表 周辺の遺跡一覧表(3)	12	第12表 石器観察表(1)	59
第5表 出土器種別・石質別点数一覧表	20	第13表 石器観察表(2)	60
第6表 接合石器一覧表(不掲載分)	36	第14表 石器観察表(3)	61
第7表 産状計測一覧表	40	第15表 炭化物片出土位置一覧表	61
第8表 陥し穴状遺構一覧表	41		

図版目次

第1図 遺跡位置図	2	接合資料(1)	34
第2図 地形図・地質図	4	第21図 接合資料(2)	35
第3図 土層断面図	6	第22図 接合資料(3)	37
第4図 基本土層	8	第23図 接合資料(4)	38
第5図 周辺の遺跡	10	第24図 抽出破片出土数量分布図	39
第6図 調査範囲・地形断面図	13	第25図 產状分布図	40
第7図 グリッド設定図	15	第26図 陥し穴状遺構(1)	43
第8図 遺構配置図	17	第27図 陥し穴状遺構(2)	44
第9図 石器集中区調査範囲図	19	第28図 陥し穴状遺構(3)	45
第10図 出物分布図	20	第29図 陥し穴状遺構(4)	46
第11図 器種別石器分布図	21	第30図 陥し穴状遺構(5)・土坑	47
第12図 出土遺物(1)	23	第31図 挖立柱建物跡	48
第13図 出土遺物(2)	24	第32図 溝跡(1)・柱穴状遺構(1)	49
第14図 出土遺物(3)	26	第33図 溝跡(2)・柱穴状遺構(2)	50
第15図 出土遺物(4)	27	第34図 溝跡出土遺物	51
第16図 出土遺物(5)	29	第35図 柱穴状遺構(3)	52
第17図 出土遺物(6)	30	第36図 柱穴状遺構(4)	53
第18図 石質別石器分布・接合分布図(1)	32	第37図 遺構外出土遺物	54
第19図 石質別石器分布・接合分布図(2)	33	第38図 旧石器時代出土遺物長幅比	56
第20図 石質別石器分布・接合分布図(3)		第39図 旧石器時代出土遺物集成図	56

写真図版目次

写真図版1 ナイフ形石器と線刻状縦縫	79	写真図版16 陥し穴状遺構(4)	94
写真図版2 空中写真	80	写真図版17 陥し穴状遺構(5)	95
写真図版3 土層断面1	81	写真図版18 陥し穴状遺構(6)・土坑(1)	96
写真図版4 土層断面2	82	写真図版19 土坑(2)・溝跡(1)	97
写真図版5 土層断面3	83	写真図版20 溝跡(2)	98
写真図版6 調査前・完掘(1)	84	写真図版21 溝跡(3)	99
写真図版7 調査前・完掘(2)	85	写真図版22 挖立柱建物跡	100
写真図版8 石器出土状況(1)	86	写真図版23 旧石器時代出土遺物(1)	101
写真図版9 石器出土状況(2)	87	写真図版24 旧石器時代出土遺物(2)	102
写真図版10 石器出土状況(3)	88	写真図版25 旧石器時代出土遺物(3)	103
写真図版11 石器出土状況(4)	89	写真図版26 旧石器時代出土遺物(4)	104
写真図版12 石器出土状況(5)	90	写真図版27 旧石器時代出土遺物(5)	105
写真図版13 陥し穴状遺構(1)	91	写真図版28 旧石器時代出土遺物(6)・ 遺構外出土遺物	106
写真図版14 陥し穴状遺構(2)	92		
写真図版15 陥し穴状遺構(3)	93		

I 調査に至る経過

国営いさわ南部農地整備事業実施地区は岩手県の南西部に位置し、胆沢川から北上川にかけての副主席地の右辺部にあり、標高110～210mの段丘地形を呈している。この地形のなかに位置する「二の台長根遺跡」は、「国営いさわ南部農地整備事業」の施行に伴って、その事業地区内に存することから試掘調査を実施し、その結果、縄文時代の陥穴状遺構などの遺構が検出されたことから記録保存調査を実施することとなったものである。

この地区的農業は、水田を主体とした経営により発展してきたものの、所有耕地が分散し区画形状は未整備もしくは昭和30年代に整備された10a区画がほとんどで、かんがい用水不足に加え用排水路も未整備なことから、農業の近代化が困難なまま生産性の低い農業経営を余儀なくされている。

このため、農用地の効率的利用と労働生産性の高い農業経営の展開が可能な生産基盤を形成するため、国営かんがい排水事業により基幹的な用排水施設を整備し、本事業では既耕地を再編整備する区画整理875haと地目変換による農地造成8haの地域を一体的に施工し、併せて担い手への農地利用の集積による経営規模の拡大と経営の合理化を図るとともに、土地利用の整序化を通じ農業の振興を基幹として本地域の活性化に資することを目的に、事業を進めている。

この地区的埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が平成8年度に分布調査を実施し、「上中沢I遺跡」ほか29遺跡が確認されている。その結果に基づいて岩手県教育委員会は東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所に対し事業について照会した。回答を受けた岩手県教育委員会は東北農政局胆沢猿ヶ石土地改良建設事業所いさわ南部農地整備事業所と協議を行ない、試掘調査を財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることにした。

これにより、岩手県教育委員会は平成15年度事業について、平成15年1月14日付け教文第1457号により財團法人岩手県文化振興事業団へ通知した。

これを受けて財團法人岩手県文化振興事業団は、「[「二の台長根遺跡」他8遺跡について東北農政局いさわ南部農地整備事業所と委託契約を締結のうえ試掘調査を実施し、前述の理由により「二の台長根遺跡」の記録保存調査を実施することとなったものである。

(農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所)

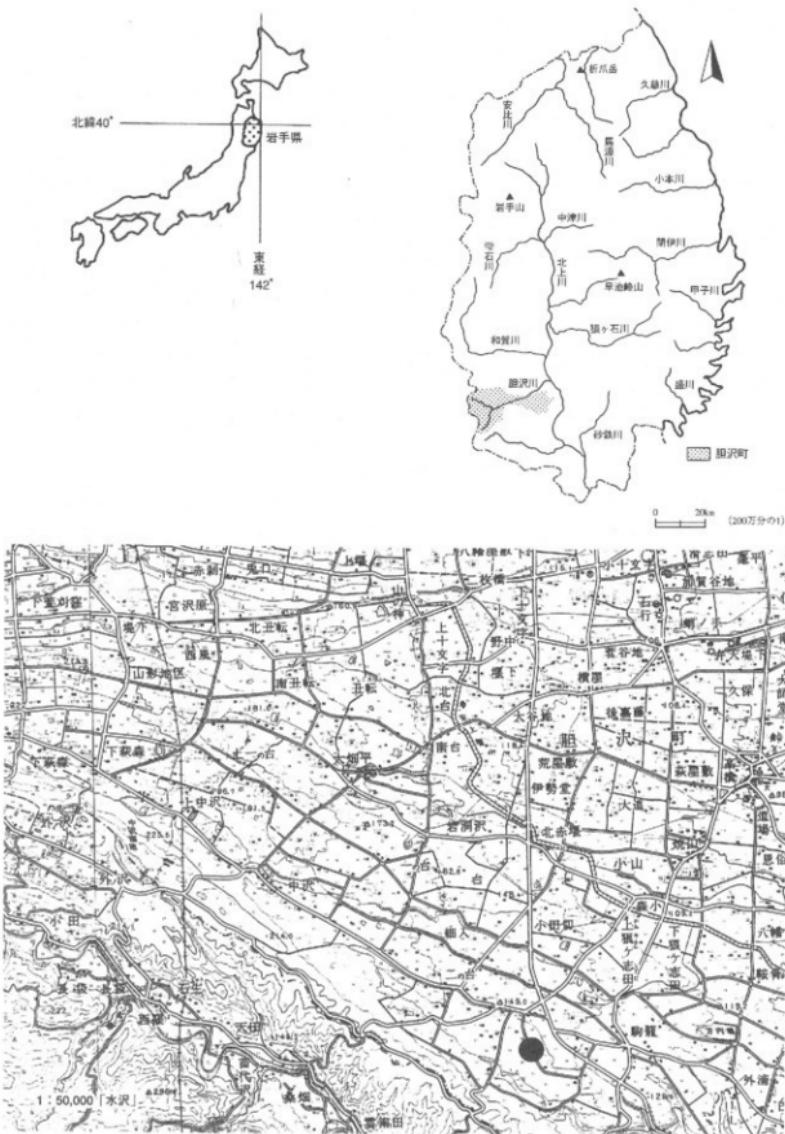
II 遺跡の位置と立地

1 位置と環境(第1図)

二の台長根遺跡は胆沢郡胆沢町にあり、JR東北本線前沢駅の約7km西方に位置する。国土地理院発行の5万分の1地形図「水沢」NJ-54-14-14(一関14号)の北緯39度4分10秒、東経141度3分16秒付近にあたる。所在地番は胆沢郡胆沢町小山字二の台長根131-2ほかである。

胆沢町は盛岡市の約65km南方に位置する。昭和30年に小山、南都田、若柳の三村が合併し、胆沢村となり、昭和42年胆沢町となる。面積は298.02km²、人口は17,500人である(2003年)。散居集落が広がる県内有数の穀倉地帯。良質な米と大豆の産地で、ビーマン生産量は全国有数である。

古くから北側の胆沢川周辺や扇央の湿地や湧水地では散居集落が面的に広がり、小規模ながら稻作が行われていた。一方、南寄りの高台など水の便が悪い地区の利便性を高めるため、近世から寿庵堰



第1図 遺跡位置図

などを完成させ、昭和28年に胆沢ダムが、さらに、多目的ダムがかかえる問題を解決すべく新ダムの建設が現在行われている。

2 地形・地質（第2図）

(1) 地形 発掘調査地域は北上高地と奥羽脊梁山脈に挟まれた地域で、北上川中流域で最も広大な扇状地地形発達する。これは水沢扇状地（東木1929）、胆沢扇状地（村田1939）などと呼ばれ、胆沢川と北股川～衣川に挟まれ、胆沢川上流市野々付近を扇頂として東方に広がり、最大20kmの長さを持つ。本扇状地は開析され、南から北に階段状に新期の段丘が配列し、齊藤（1978）は開析扇状地としている。これらの段丘は、村田（1939）、田山・土田（1939）、若生（1956）、Fujiwara（1959）、木野（1963）、中川他（1963）、齊藤（1978）、吉田・大上（1980）、大上・吉田（1983）、渡辺（1991）により区分されている。扇尖付近には撓曲構造が認められ、低位段丘を変位させている。

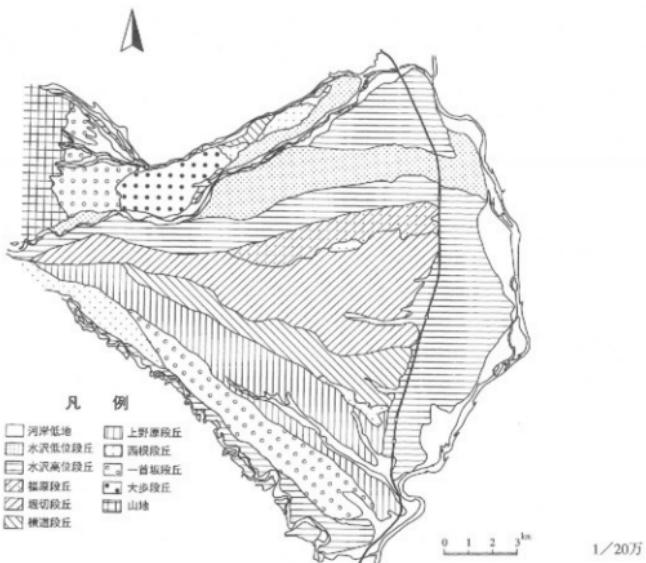
a) 河岸段丘 胆沢扇状地上に発達する河岸段丘は、高位より一首坂段丘、西根段丘、胆沢段丘、水沢段丘、河岸低地に区分され、火山灰層と密接な関係を持っている。一首坂段丘は扇状地南端に発達し、南東方向に150～220mと高度を減じ、5%で傾斜している。段丘面は開析された丘陵状を呈する。一首坂火山灰以上の火山灰層をのせる。上野原段丘（後述）とは約40mの比高を持つ。西根段丘は南端扇尖付近（180～190m）で一首坂段丘と交差したり、低位段丘内に残丘（110～140m）として分布している。東方に2%で傾斜している。段丘面は比較的開析されている。前沢火山灰以上の火山灰層をのせる。胆沢段丘は、さらに高位より上野原段丘（80～250m）、横道段丘（80～200m）、堀切段丘（70～240m）、福原段丘（60～130m）に細分される。上野原、堀切の各段丘は西方へ取れんし、横道は上野原段丘に、福原段丘は堀切段丘に取れんする。これらの段丘の中で堀切段丘が特に発達する。上野原段丘と横道段丘は10～20mの比高を持ち、扇端付近で差がなくなる。横道段丘と堀切段丘は10～15mの比高を持ち、扇端付近ほど不明瞭になる。堀切段丘と福原段丘は5～15mの比高を持ち、扇端付近ほど差が大きくなる。各段丘面は2～1%で東方に傾斜する。これらの段丘には前沢火山灰上部層以上の火山灰層をのせる。水沢段丘は扇状地北端に分布する。水沢高位段丘（40～190m）と水沢低位段丘（38～120m）に細分される。出店および水沢市街地で4～10mの比高を持ち、それら2点間では不明瞭になる。段丘面は東方に5～10%で傾斜する。水沢高位段丘には黒沢尻火山灰上部層をのせる。河岸低地は北上川とその支流の胆沢川や白鳥川沿いに分布する。

b) 撥曲構造 低位段丘を変位させている撓曲構造を、村田（1939）は出店撓曲線と、小野寺（1957）は南方の一閑市付近の研究より、胆沢扇状地と一閑市付近とを結ぶ撓曲構造を考え、中川他（1963）は胆沢～油島撓曲線と呼んでいる。さらに、中田・今泉（1980）は出店付近で観察される地形より出店断層という逆断層を推定している。

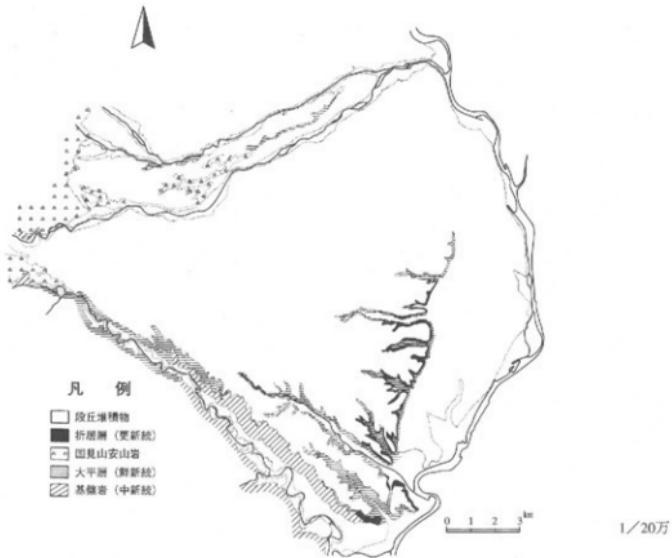
(2) 地質 北上低地帯は東西を先第三系からなる北上高地と新第三系中新統からなる奥羽脊梁山脈に挟まれた地域である。新第三系鮮新統は脊梁山脈の東縁から遺跡がのる段丘面の堆積物基盤として広く分布するが、扇状地南端の北股川～衣川沿いでは南上がりの基盤運動で中新統が分布する。新第三系鮮新統は大平層（北村他1952）からなり、衣川村大平を模式地とする。層厚は約200mである。中新統の瑞山層を不整合に覆い、上位の段丘堆積物に不整合に覆われている。岩質は塊状の凝灰質砂岩や凝灰質泥岩となり、礫岩や亜炭を挟む。ところにより凝灰質泥岩下部層にかき殻礁が観察される。本遺跡の約400m西方に位置する白鳥川では段丘疊層下位に大平層の塊状の凝灰岩が分布し、遺跡周辺の基盤にも広がっていると推測される。

段丘疊層上には奥羽脊梁山脈内に位置する焼石岳や栗駒山付近から供給された火山灰層が厚く堆積

地形図



地質図



第2図 地形図・地質図

している。下位より一首坂火山灰、前沢火山灰、黒沢尻火山灰層に区分される。一首坂火山灰層は褐色～赤褐色の細粒火山灰中に黄褐色～褐色をなす3枚の軽石層を挟在し、最下部層に白色細粒火山灰層で構成される火山灰層である。給源火山は不明である。前沢火山灰層は褐色～赤褐色の細粒火山灰層と6枚の軽石層と1枚の白色細粒火山灰層で構成される火山灰層である。軽石層の分布から栗駒山起源とされる。黒沢尻火山灰層は褐色細粒火山灰層と最下部の2枚の軽石層で構成される火山灰層である。軽石層の分布より焼石岳起源とされる。これらローカルな火山灰層に介在して広域火山灰(As0-4、Toya、KtA)が黒沢尻火山灰下部層で観察される。山体寄りの露頭でしか肉眼で確認できない。これらの火山灰と段丘の関係は前述したとおりである。

3 基本土層(第3・4図)

前項で述べたように遺跡がる上野原段丘面の段丘疊層上に、下位より前沢火山灰、黒沢尻火山灰層がこの順に堆積する。徴視的には同じ段丘面でも凹凸があり、堆積環境の違いで厚さは一様ではない。遺跡中央付近の尾根状部分が降下火山灰層を最も厚くのせ、東西両側に肩厚を減じながら沢状地形に緩く傾斜している。段丘疊層直上付近の堆積物は、高い調査区が酸化鉄の汚染を受けた明褐色粘土であるのに対し、低い部分は灰白粘土である。第3図で高い調査区の断面図は②A区上段、③C区、⑩D区、⑪E区南端、⑫D東区、⑬E区西端で、それ以外は低い調査区である。各断面の土層概要是次の通りである。なお、石器集中区では粗掘の過程で水田表土を剥離している。

C区(第3図③、以下同じ)：黒色土は過去の水田造成で削られ、現表土は水田表土とその上にのる道路盛土である。漸移層(土層断面3層—基本土層I 2層、以下同じ)下位の明褐色土(4—8層)中央部付近には上下位に比しやや白っぽく見える橙色土(6層—Ig層)が介在する。上層断面中央付近はやや暗く見える層(10—11層、IV層)で、非常に堅く、鉱物粒を多く含む。この直上に山形軽石(9層—IⅢ層、Yk-Y)が小塊状にのる。IV層下位には暗赤褐色土(12—13層、V層、前沢火山灰赤色風化帶)、さらに段丘疊層上に明黄褐色砂質土(VI層)が堆積する。

A区上段(②)：C区同様の堆積状況を示す。4層は5層を抉るように堆積し、I 1層に属する。7層はII層中で微妙に土色が異なり、かつ鉱物粒を多く含むことからIIg1層に対比された。石器等は出土していない。

D区(⑩)：えぐねがまわる民家が建っていた場所で、北側部分は水田表土上に1mを超える盛土(1層)がされていた。

D東区(⑪)：旧表土上(2層)に水田表土がのる。II層、IV層中には小動物等による搅乱とみられる小椿円形状の縦りの悪い層(7、9層)が確認される。

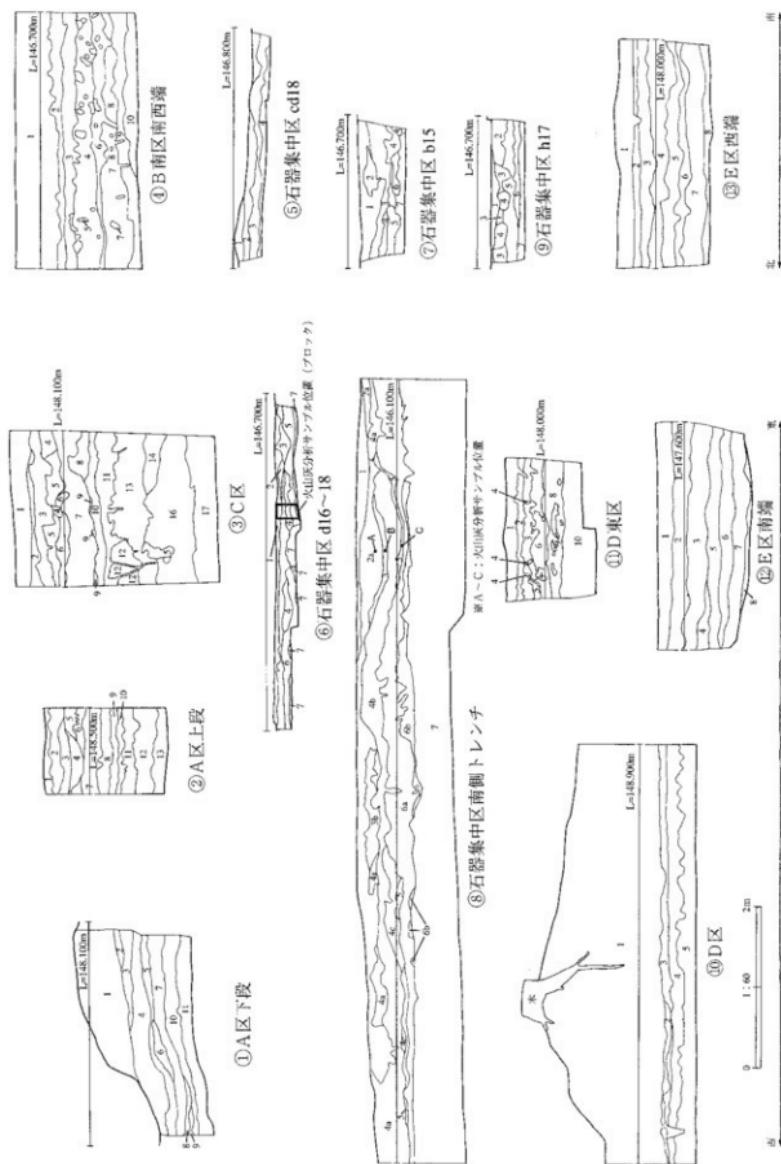
E区南端(⑫)：旧表土が削られ、褐色土直上に水田表土が堆積する。IV層は上位層より暗色を呈し、かつ縦りが良いことから容易に観察された(6層)。III層はIV層直上で黄白色軽石を含むことから対比された。

E区西端(⑬)：E区南端と同様にIV層は観察された。E区南端に比し、II層と区分された層数は異なるが、南端での特徴からIII層を対比した。

A区下段(①)：水田造成時に漸移層以上の層が削りとられている。8層から下位は水中堆積層であり、VI層に対比した。

B南区南西端(④)：黒色土は削られ、漸移層(2層—I 2層)上に水田表土、道路盛土がこの順にのる。II層は細分できなかった。粒状土で充填された椿円形状の層を多数確認された(土層断面5、7層)。動植物の生活痕跡と考えられる。

石器集中区cd18(⑤)：水田造成時に漸移層以上の層が削りとられている。IV層上(4層)にII層



第3図 土層断面図

第1表 土層記注一覧表

調査名	土質	基本十 箇目分
区分	土質	基本十 箇目分
A 区下段	1 10YR2/2シルト しまり悪い <水田土+> 10	
	2 10YR2/2シルト 小塊状	
	3 10YR2/2シルト 黄っぽい下層に優化粘土層	E0
	4 7.5YR4/6褐色粘土 やわらかいまる	E3
	5 7.5YR4/6褐色粘土上に10YR4/6灰白色(10%)混入 粘物粘やや多い やわらかいまる	E5
	6 上層は硬い	F1
	7 7.5YR4/4同色粘土に5%灰白色(5%)混入 粘物粘やや多い やわらかいまる	F2
	8 7.5YR4/4褐色粘土 全体的に酸化鉄の汚染をうける 下部岩盤に 酸化鉄が集中する	F3
	9 7.5YR4/4褐色粘土 10%灰白色(10%)混入 粘物粘やや多い 布面に堅くする	F4
	10 7.5YR4/6褐色粘土 物質多い 布面に堅くする	F5
	11 8層に巣が侵入する	
A 区上段	1 10YR2/2褐色粘土 質シルトに小塊状地(5%)混入 灰化物含 しまり悪い <褐鐵土、鐵瓦土>	I0
	2 10YR2/2褐色粘土 質シルトに小塊状地(3%)混入 灰化物含 やわらかいまる <旧木+、鐵瓦+>	I1
	3 10YR2/2褐色粘土 質シルトに小塊状地(10%)混入 やわらかいまる <舊木>	I2
	4 5. 6. 7.の岩盤を土中に埋め込ま 7.5YR3/4褐色色シルト粘土 やわらかいまる <蘇鐵樹>	I2
	6 10YR4/6褐色粘土 やわらかいまる	I3
	7 10YR4/6褐色粘土 粘物粘やや多い やわらかいまる	I4
	8 7.5YR4/6褐色粘土 布面に優しく、粘物粘やや多い やわらかいまる	I5
	9 7.5YR4/6褐色粘土(上)10YR4/6褐色粘土(下) 山形岩盤	I6
	10 7.5YR4/6褐色粘土に5%灰白色(10%)混入 粘物粘やや多い やわらかいまる	I7
	11 7.5YR4/6褐色粘土 上に8層巣が侵入 粘物粘多い しまる	I8
	12 7.5YR4/6褐色粘土 粘物粘多い しまる	I9
	13 7.5YR4/6褐色粘土 上に8層巣が侵入 布面に堅くしまる	I10
B 区	1 SYR5/6褐色色シルト 粘物粘多い <水田土+>	V1
	2 7.5YR5/6褐色色シルト しまる <水田土+>	V2
	3 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多く 布面に堅くしまる	V3
	4 7.5YR5/6褐色色シルト しまる <水田土+>	V4
	5 7.5YR5/6褐色色シルト クラックに巣が詰め込み しまる <蘇鐵樹>	V5
	6 7.5YR5/6褐色色シルトに4%鈍化物(5mm)混入 しまる	V6
	7.5YR5/6褐色色シルト しまる <蘇鐵樹>	V7
	8 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多い 布面に堅くしまる	V8
	9 7.5YR5/6褐色色シルト <蘇鐵樹> しまる <蘇鐵樹>	V9
	10 7.5YR5/6褐色色シルトに10YR4/6褐色粘土(20%)混入 粘物粘多く しまる <水田土+>	V10
	11 7.5YR5/6褐色色シルトに7.5YR6/6褐色粘土(20%)混入 粘物粘多く しまる <水田土+>	V11
	12 7.5YR5/6褐色色シルト(上)7.5YR6/6褐色粘土(20%)混入 粘物粘多く しまる <水田土+>	V12
B 区中段	1 7.5YR5/6褐色色シルト 混入 布面に堅くしまる	V13
	2 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多い 布面に堅くしまる	V14
	3 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多く 布面に堅くしまる	V15
	4 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多く 布面に堅くしまる	V16
	5 7.5YR5/6褐色色シルト しまる <水田土+>	V17
	6 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多く 布面に堅くしまる	V18
	7 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多く 布面に堅くしまる	V19
	8 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘多く 布面に堅くしまる	V20
	9 7.5YR5/6褐色色シルト しまる <水田土+>	V21
	10 7.5YR5/6褐色色シルト しまる <水田土+>	V22
	11 7.5YR5/6褐色色シルト 上層にマングの根発達 しまる <蘇鐵樹>	V23
	12 7.5YR5/6褐色色シルト 粘物粘やや多い <蘇鐵樹>	V24
C 区	1 10YR5/6褐色色粘土 粘物粘やや多い しまる	II0
	2 10YR5/6褐色色粘土 粘物粘やや多い しまる	II1
	3 10YR5/6褐色色粘土 粘物粘やや多い しまる	II2
	4 10YR5/6褐色色粘土 粘物粘やや多い しまる	II3
	5 10YR5/6褐色色粘土 粘物粘やや多い しまる	II4
	6 10YR5/6褐色色粘土 粘物粘やや多い しまる	II5
	7 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR4/6褐色粘土(10%)混入 粘物粘やや多い しまる	II6
	8 7.5YR4/6褐色粘土 上に7.5YR6/6褐色粘土(30%)混入 粘物粘やや多い しまる	II7
	9 7.5YR4/6褐色粘土 上に7.5YR6/6褐色粘土(30%)混入 粘物粘やや多い しまる	II8
	10 7.5YR4/6褐色粘土 上に7.5YR6/6褐色粘土(30%)混入 粘物粘やや多い しまる	II9
	11 7.5YR4/6褐色粘土 上に7.5YR6/6褐色粘土(30%)混入 粘物粘やや多い しまる	II10
	12 7.5YR4/6褐色粘土 上に7.5YR6/6褐色粘土(30%)混入 粘物粘やや多い しまる	II11
D 区東段	1 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III1
	2 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III2
	3 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III3
	4 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III4
	5 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III5
	6 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III6
	7 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III7
	8 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III8
	9 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III9
	10 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III10
	11 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III11
	12 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III12
	13 10YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	III13
E 区市浦	1 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV1
	2 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV2
	3 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV3
	4 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV4
	5 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV5
	6 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV6
	7 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV7
	8 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV8
	9 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV9
	10 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV10
	11 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV11
	12 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV12
	13 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV13
E 区西端	1 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV1
	2 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV2
	3 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV3
	4 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV4
	5 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV5
	6 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV6
	7 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV7
	8 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV8
	9 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV9
	10 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV10
	11 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV11
	12 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV12
	13 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV13
石若集 中区	1 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV1
	2 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV2
	3 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV3
	4 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV4
	5 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV5
	6 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV6
	7 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV7
	8 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV8
	9 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV9
	10 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV10
	11 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV11
	12 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV12
	13 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV13
d16 ~ d18	1 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV1
	2 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV2
	3 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV3
	4 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV4
	5 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV5
	6 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV6
	7 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV7
	8 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV8
	9 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV9
	10 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV10
	11 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV11
	12 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV12
	13 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV13
石若集 小區	1 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV1
	2 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV2
	3 7.5YR6/6褐色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV3
	4 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV4
	5 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV5
	6 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV6
	7 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV7
	8 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV8
	9 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV9
	10 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV10
	11 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV11
	12 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV12
	13 10YR5/6褐色色粘土(上)10YR7/6褐色色粘土(30%)混入 石砾含 しまる <鶴鳴>	IV13

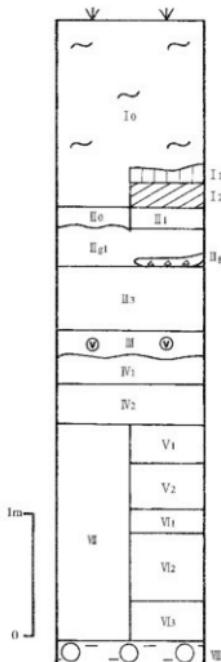
(1～3層) が約30cm堆積する。最上部は擾乱土 (1層・II0層) である。

石器集中区d16～18 (⑥) : 2m四方マスで精査し残ったベルトである。水田表土層直下のII層擾乱土 (1層・II0層) から下位層 (2～4層・II1～IIg層) にかけて石器が出土している。

石器集中区b15 (⑦) : 石器分布範囲の北側外縁部付近である。IV層 (6層) は明瞭に観察できるが、上位層は不明瞭な部分がある。

石器集中区h17 (⑨) : 石器部分布範囲の南側外縁部付近である。IV層 (5層) は明瞭に観察できるが、上位層は不明瞭な部分がある。

石器集中区南脇トレチ (⑧) : 断面図では確認できないが、段丘疊層 (クサレ安山岩) 上にVI層、IV層、III層、II層の順に堆積する。VI層は水中堆積の粘土層で、斜面上側の断面では本粘土層は明黄褐色粘土層を挟んで上下2枚に分かれ。III層とIV層の境界の凹凸は大きく、上位層も波状を呈する。IIg層は乾燥時にガラス質の部分は斑状に観察できる。水田造成時にII1とII2層は削り取られているが、石器の垂直出土分布図からこれらの層からも出土していたと推測される。調査範囲が広く、尾根状部と小谷状部では堆積環境が異なっている。第4図のように基本土層を考えた。



第4図 基本土層

I層は現表土の堆積物～漸移層である。

I0層 道路盛土、えぐねの盛土、水田表土で構成される。

道路盛土と水田表土は約20cm、えぐねの盛土は最大1.2mである。道路盛土は7.5YR4/4褐色粘土と3/3暗褐色シルト質粘土の混合土、水田表土は7.5YR4/2灰褐色シルト質粘土、えぐねの盛土は10YR2/2黒褐色粘土質シルト・3/4暗褐色粘土質シルト・4/6褐色粘土の混合土である。

I1層 旧表土。層厚12cm。10YR2/2黒褐色粘土質シルト。

開墾前の表土。A、D区の一部で確認される。

I2層 漸移層。層厚21cm。7.5YR3/4暗褐色シルト質粘土。

場所により褐色を呈するが、下位層よりは暗色。

II層は黒沢尻火山灰層の火山灰質粘土である。II0・I・2・g1・g2・3層に区分される。場所により細分できなかった。

II0層 石器集中区断面では水田表土との混合土層 (耕作時の搅乱)、D東区断面では小動物等の搅乱層である。

I1層 7.5YR5/6明褐色粘土～4/6褐色粘土または混合土。

層厚16cm。本来的には明褐色粘土層。部分的に上層との混合土。(石器包含層)

IIg1層 7.5YR6/6橙褐色粘土に10YR7/6明黄褐色粘土小塊状(1～2cm)混入。層厚28cm。(石器包含層)。乾燥時に白っぽく、火山ガラスを観察できる。

IIg2層 10YR6/6明黄褐色粘土 層厚8cm。鉱物粒多い。

局部的にレンズ状に堆積し、再堆積層と考えられる。

II3層 7.5YR5/6明褐色～10YR5/6黄褐色粘土。層厚49cm。

III層 黒沢尻火山灰最下位の山形軽石層。7.5YR6/8橙色軽石質粘土。粘土化が進んでいて粒径は不明。

軽石のほかに粘土化した石質岩片(赤褐色、青緑色)含む。層厚20cm。

IV層 本層より下位は前沢火山灰層で上位層との層界面は波状である。非常に堅くしまる。

IV層 10YR5/6黄褐色粘土。層厚22cm。下位層の風化が進んだ部分。鉱物粒と石質岩片を多く含み、移植べらで「シャリシャリ」と音をたてる。

IV2層 7.5YR5/6明黄褐色粘土に10YR6/6明黄褐色輕石質粘土粒（径1～2cm）混入。層厚32cm。

V層 前沢火山灰層最上部の赤色風化帯である。非常に堅くしまる。

V1層 5YR5/6暗赤褐色粘土に7.5YR6/6橙色粘土（20%）混入。層厚32cm。

V2層 5YR5/6暗赤褐色粘土。層厚34cm。

VI層 酸化鉄の汚染を受けている。季節的に帶水層になったと見られる。

VI1層 5YR5/8明黄褐色砂質粘土に7.5YR6/6橙色粘土がレンズ状(10%)に混入。層厚21cm。

VI2層 5YR5/6明黄褐色礫混砂質粘土に7.5YR6/6橙色粘土が小塊状に混入。層厚55cm。

VI3層 7.5YR5/8明褐色礫混砂質粘土に6/6橙色粘土が小塊状に混入。礫は粘土化し、スコップで容易に切断でき、いわゆるクサレ礫（径5～30cm）である。層厚31cm。

VII層 常時地下水を含む層で、還元域である。2.5Y8/1灰白粘土。上限に酸化鉄の汚染をうける部分がある。VI層とは同時異層で堆積環境が異なっていたと考えられる。

VIII層 段丘疊層。クサレ礫（径数十cm）。マトリックスは火山灰質粘土と小礫である。

4 周辺の遺跡（第5図）

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の遺跡登録台帳によれば、胆沢町内の遺跡は170ヶ所確認されている。胆沢扇状地上にのる胆沢町内の115ヶ所の遺跡を第5図に示した。

旧石器時代の遺跡は3遺跡ある。扇端付近の西根段丘上にのる上萩森遺跡、扇央付近の堀切段丘上にのる山神遺跡、扇端付近の上佐布遺跡であり、上萩森遺跡を除いて表探である。上萩森遺跡は昭和50年～52年にかけて3回の調査を行っている。2枚の文化層が確認され、Ⅱa層は石刃技法で、Ⅱb層は石刃技法以前の石器とされた。Ⅱb層からはベン先形ナイフや彫刻刃形石器などが出土し、今から2万7000年前に営まれたとされた。

縄文時代早期の遺跡は主に若柳と南都田周辺に分布し、14遺跡が知られている。上萩森遺跡、大清水上遺跡、萩森西遺跡は扇頂付近にあり、前者は西根段丘上（高位面）に、後の2者は上野原段丘（中位面）上にある。上萩森遺跡では押型文土器の小片が出土している。大清水上遺跡では胎土に繊維を含まない貝殻压痕文の土器片や繊維を含む条痕压痕文の土器片が出土している。扇央付近の福原段丘（中位面）と水沢高位段丘（低位面）上には9遺跡がのる。漆町遺跡では蛇王堂Ⅱ式の土器片が、尼坂遺跡では楕木下層式・上層式、上川名下層式などの土器片が出土している。

縄文時代前期の遺跡は早期の2地区の他に南側の小山地区でも分布する。27遺跡知られている。扇頂付近の上野原段丘上に5遺跡、堀切段丘（中位面）で4遺跡、水沢高位段丘上で1遺跡、扇央付近の上野原段丘上に2遺跡、福原段丘上に2遺跡、水沢高位段丘上に3遺跡、扇端付近の横道段丘（中位面）上に3遺跡、堀切段丘上に3遺跡、福原段丘上に4遺跡である。大木1式の土器片が浅野、大清水上、小田切、南笠森の各遺跡で、大木2式の土器片は西方の宮沢原A、E遺跡で出土している。大木4～5式の土器片は緋谷田、萱刈窪、宮沢原E、恩俗長根、片子沢、浅野遺跡で出土している。

縄文時代中期の遺跡は25遺跡ある。扇頂付近では上野原段丘上に4遺跡、堀切段丘上に7遺跡、扇央付近では上野原段丘上に2遺跡、横道段丘上では4遺跡、水沢高位段丘上で1遺跡、扇端付近では横道段丘上で1遺跡、堀切段丘上で4遺跡、福原段丘上で1遺跡である。中期初めの土器は明山遺跡、恩俗長根、浅野遺跡で出土しているが、浅野遺跡は中期中頃の大木8bで集落が途絶えたらしい。

宮沢原A・D・E・E東遺跡ではこの頃のキャリバー形の土器片が出土している。中期後半には宮沢原E、



第2表 周辺の遺跡一覧表(1)

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地
1	大清水上	集落跡	縄文・弥生	縄文土器(早・前・後・晩期)石頭、埴、ほか	碧海字愛存
2	横穴墓	新石器	縄文	縄文土器	云廟字横穴墓
3	窓塗	新石器	縄文	縄文土器(後晩期)、石頭	若柳字塗坂
4	三本塙	新石器	縄文	縄文土器(後・晩期)、土陶	碧海字林尻
5	猪の鼻鉢(宋の筆記)	城址跡	近世	二郭、空堀、土堤	名古屋市野々
6	横穴墓田	新石器	縄文	縄文土器	碧海字横穴墓
7	横穴墓II	新石器	縄文	縄文土器	云廟字横穴墓II
8	大清水下	新石器	縄文	縄文土器(早・前・後・晩期)石頭、槍、ほか	碧海字愛存
9	上愛弓塚	新石器	縄文・弥生	縄文土器(後・晩期)、弥生土器、石頭、石碑	碧海字上愛弓
10	宮沢遺跡II	新石器	縄文	縄文土器	云廟字横穴墓
11	横穴墓IV	新石器	縄文	縄文土器	碧海字横穴墓
12	愛弓塚II	新石器	縄文	縄文土器	碧海字愛弓塚
13	上横穴墓	新石器	縄文	縄文土器(後・晩期)、土偶	名古屋市上横穴墓
14	上森	新石器	旧・縄・弥	ナメイフ形石器、フクレーバー石核、弥生土器	碧海字上森
15	萩森北	新石器	縄文・弥生	縄文土器(前・中期)、石頭、石頭、弥生土器	云廟字上萩森
16	前萩森	新石器	縄文	縄文土器(前・中期)、石斧、石頭、鉈具	碧海字中萩森
17	愛宕森下	新石器	縄文	石頭	碧海字愛石
18	かどしじ	新石器	縄文・古代	縄文土器、土頭器	名古屋字愛石
19	宮沢廻A	散在地	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器	碧海字宮沢廻372

第5図 周辺の遺跡

第3表 周辺の遺跡一覧表(2)

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地
20	若沢窯B	敷石地	縄文	縄文土器、石器	若柳字宮沢原371番外
21	若沢窯C	敷石地	縄文	縄文土器、石器	若柳字宮沢原106番
22	若沢窯D	敷石地	縄文	縄文土器、石器	若柳字宮沢原106番
23	若沢窯E	敷石地	縄文	縄文土器、石器	若柳字宮沢原386番外
24	若沢窯E裏	敷石地	縄文	縄文土器、石器	若柳字宮沢原地内
25	雪川窯	敷石地	縄文前期	縄文土器(前)、石器、石斧、石錐、棒、劍、鉈	若柳字雪川窯
26	門ヶ城	城郭跡	中世	三箭	若柳字愛宕
27	元次東	敷石地	縄文	縄文土器(前・中期)、石器、石斧	若柳字元次
28	十ノ井	敷石地	縄文	縄文土器(中)、石器	若柳字横川窓
29	赤堀東	敷石地	縄文	縄文土器、石器、石錐	若柳字赤堀
30	赤堀西	敷石地	縄文	縄文土器(後・晚期)、石器、石錐	若柳字赤堀
31	吉沢下	敷石地	縄文	縄文土器(早)、石器、石錐、石斧	若柳字吉沢下
32	下原窯	敷石地	古代	土師器	若柳字窯場
33	明神下	敷石地	古代	土師器、須恵器	若柳字明神
34	山神	敷石地	古・純・古	縄文土器(早・中期)、弥生土器、土師器、石斧	若柳字山の森
35	一の台	敷石地	縄文・古代	縄文土器(中)、石器、土師器	小山字一の台
36	五反町	敷石地	縄文	縄文土器	小山字二の台、五反町
37	二の台	敷石地	縄文	縄文土器、石器、土師器	小山字二の台
38	北赤塚	敷石地	縄文・古代	縄文土器(中)、石器、土師器	小山字北赤塚
39	付1	敷石地	縄文	縄文土器	小山字台
40	付1	敷石地	縄文	縄文土器、フレーク	小山字台、小田切
41	香取根原	城郭跡	中世	土器、壙	若柳字新里
42	中井	敷石地	平安	須恵器	南都田字中井
43	寺尾跡	城郭跡	平安	土師器、須恵器、壙	若柳字鳥塚
44	山田城	城跡	中世	土器、壙	若柳字明神下
45	井の腰	敷石地	古文・平安	縄文土器(前・中)、石器、土師器	若柳字井の森
46	十文字	敷石地	古文・古代	縄文土器(早)、土師器、石器、石錐	小山字上十文字
47	小十文字	集落跡	古文・古代	縄文土器(前)、土師器(平安)	豊川町南都田字小十文字
48	石行	敷石地	古文	土師器、須恵器	南都田字石行
49	今木塚	敷石地	縄文	縄文土器(中)	小山字北赤塚
50	明山	敷石地	縄文	縄文土器、石器	小山字明山
51	邑治長根	敷石地	縄文	縄文土器(中)、石器	小山字邑治長根
52	上原原	敷石地	縄文	縄文土器(前・中期)	小山字上原原
53	小田切	敷石地	縄文	縄文土器(鉱削)、須生土器、石斧	小山字小田切
54	上須ヶ赤田	敷石地	縄文	フレーク	小山字上須ヶ赤田
55	上野谷地	敷石地	縄文	縄文土器	小山字上野谷地
56	鶴見三塚	敷石地	縄文	フレーク	小山字鶴見
57	細入	敷石地	古文・奈良	縄文土器、土師器	小山字細入
58	竹子	敷石地	縄文	縄文土器	小山字竹子、竹込
59	鈎込	敷石地	縄文	縄文土器	小山字新田
60	二の沢	敷石地	縄文	縄文土器(早・新期)	小山字二の沢
61	鶴伏美	敷石地	縄文	縄文土器	小山字二の台
62	二の台長根	敷石地	縄文	石器	小山字屋敷、二の台長根
63	屋敷	敷石地	縄文	フレーク、石器	小山字屋敷
64	西風	敷石地	縄文	縄文土器(前)、石器、石錐、石斧、石斧	小山字西風
65	渡入	敷石地	縄文	フレーク	小山字二の段原
66	大野骨	敷石地	古代	土師器	小山字上稲荷
67	猿投谷	敷石地	古代?	縄文土器、石器	小山字後八幡谷
68	八幡堂	敷石地	古代	土師器	小山字八幡堂
69	田中	敷石地	古文・古代	古文土器(初期)、石ベラ、土師器	小山字田中
70	田中日	敷石地	古文	縄文土器	小山字田中
71	上佐布	敷石地	縄文	縄文土器	小山字上佐布
72	鶴谷	敷石地	縄文	縄文土器	小山字上鶴谷
73	外浦	敷石地	縄文	縄文土器、石斧、石錐、砾石	小山字外浦
74	休場	敷石地	縄文	縄文土器、石器	小山字外浦
75	二の渡口	敷石地	縄文	フレーク	小山字二の渡
76	二の沢沢	敷石地	縄文	フレーク	小山字二の沢
77	津井下	敷石地	弥生・古墳	弥生土器、古墳早期土器片、石包丁、土師器	南都田字津井下
78	二本木	敷石地	良・平安	土師器、須恵器	南都田字清水下
79	漆町	敷石地	良・平安	土師器、須恵器、文興草斯土器片	南都田字漆町
80	川瀬	敷石地	平安	土師器	南都田字大瀬
81	広沢跡(新潟原)	城郭跡	中世	二重塗、土器	南都田字国分
82	国分	敷石地	古代・近世	土師器、須恵器、石錐、石錐、石斧	南都田字国分
83	八重龜	祭祀跡・集落跡	古代	土師器、土器、土師器、須恵器	南都田字作延敷
84	引月野	敷石地	古文	土師器、土器、土師器、須恵器	南都田字引月野
85	尼坂	敷石地・集落跡	古文・古代	古文土器(早・前期)、石器、裝飾貝、土師器	南都田字尼坂
86	森下1	敷石地	古文	土師器	南都田字森下
87	雨姫ノ手	敷石地	古文	縄文土器	小山字雨姫の手
88	上野	敷石地	古文	縄文土器	小山字神
89	小山万八丁鋤	城郭跡	中世・近世	安土城、鉄製	小山字万八丁
90	大堀	敷石地	縄文	縄文土器(前・中期)、石器	小山字前大堀
91	御大畠	敷石地	縄文	縄文土器(中)、石器	小山字後大畠
92	鷲芦	敷石地	縄文	縄文土器(中)、石斧、石錐、石斧	小山字宇舟
93	蟹山	敷石地	古文	縄文土器、土師器、須恵器	小山字蟹山
94	油池	敷石地	古文	縄文土器(中)、石斧、土師器	小山字西油池
95	小谷寺	敷石地	平安	土師器	小山字上中谷寺
96	四ツ塚	敷石地	平安	土師器	小山字下中谷寺
97	小山沢田	敷石地	平安	土師器	小山字沢田
98	豊吳港古墳	古墳	無良	土師器、須恵器、マウンド	南都田字鉢塚

第4表 周辺の遺跡一覧表(3)

No	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地
99	畠田	散布地	平安	土師器	南都田子井田
100	該會	散布地	奈良・早安	土師器	南都田子該會
101	机地(盛興館)	城跡跡	中世	水槽	南都田子机地
102	机地	散布地	奈良・早安	土師器	南都田子机地
103	沢田	散布地	奈良・早安	土師器	南都田子沢田
104	石田 I・II	散布地	平安	土師器、須恵器	南都田子石田
105	要衝(山々井跡)	散布地・城跡跡	平安・近世	土師器、須恵器、土壺	南都田子要衝
106	角塚古墳	古墳	古墳時代	埴輪	南都田子角塚
107	鷺田古墳群	古墳群	古代		南都田子鷺田
108	鷺田 I・II	散布地	縄文・平安	陶文土器、土師器、須恵器	南都田子鷺田
109	湊野前	集落跡	縄文・古代	陶文土器(前・中期)、酒漿器、土師器	南都田子湊野
110	湊野	散布地	縄文・古代	陶文土器(前・中期)、土師器、須恵器、土偶、弥生土器	南都田子湊野
111	祇谷田	散布地	縄文・古代	陶文土器(前期)、土師器	南都田子祇谷田
112	片子沢	散布地	縄文・古代	陶文土器、土師器、須恵器、フレーク	南都田子片子沢
113	濱川	集落跡	縄文・平安	陶文土器(前・晚期)、土師器、須恵器	南都田子濱川
114	合野	散布地	縄文・古代	陶文土器(前・中期)、石頭	南都田子合野
115	中島	散布地	縄文・古代	陶文土器(前・中期)、石器、埴輪瓦、土師器	小山字大津沢
116	解野森	散布地	縄文・中世	陶文土器、陶瓶器	小山字解野森

E東、F遺跡で9・10式の土器片が出土している。大木10式土器は多様化した器形と著しく肩消縄文の技法が発達している。

縄文時代後期の遺跡は12遺跡ある。扇頂付近で営まれており、上野原段丘上で1遺跡、堀切段丘上で4遺跡、水沢高位段丘上で7遺跡である。この時期には低位段丘面でも多く集落が営まれるようになる。赤剥遺跡では後期を通して営まれ、関東地方の称名寺~堀之内I・II式、加曾利B I式併行期、安行I式併行期の土器片が出土している。

縄文時代晩期の遺跡は13遺跡ある。扇頂付近では上野原段丘上で1遺跡、堀切段丘上で1遺跡、水沢高位段丘上では5遺跡、扇央付近では西根段丘上で1遺跡、水沢高位段丘上で2遺跡、扇端付近では上野原段丘上で1遺跡、横道段丘上で1遺跡、福原段丘上で1遺跡である。赤剥遺跡では大洞B、BC、C1、C2式の土器片が出土している。大洞A、A'式の土器片は大清水下遺跡から出土している。弥生時代の遺跡は10遺跡ある。扇頂付近では西根段丘上に1遺跡、上野原段丘上に2遺跡、堀切段丘上で2遺跡、扇央付近では上野原段丘上に1遺跡、福原段丘上に1遺跡、水沢高位段丘上に2遺跡、水沢低位段丘上に1遺跡である。清水下遺跡では稻の穂を摘む道具として使われたとみられる石包丁が出土している。

古墳時代の遺跡は15遺跡である。扇頂付近の上野原段丘上で1遺跡、扇央付近の福原段丘上で1遺跡、水沢高位段丘上で2遺跡、水沢低位段丘上で1遺跡、扇端付近の福原段丘の残丘で1遺跡、堀切段丘上で2遺跡、福原段丘上で1遺跡、水沢高位段丘上で5遺跡、水沢低位段丘で1遺跡である。角塚古墳は本州最北の前方後円墳であり、昭和49・50年、平成10~12年の調査で規模・構造・円筒・形象埴輪による築造年代が明らかになってきた。

古代の遺跡は57遺跡である。扇頂付近では西根段丘上で1遺跡、上野原段丘上で1遺跡、堀切段丘上で2遺跡、扇央付近では上野原段丘上では1遺跡、福原段丘上では3遺跡、水沢高位段丘上では8遺跡、水沢低位段丘上では5遺跡、扇端付近では上野原段丘上で4遺跡、横道段丘上では4遺跡、堀切段丘上では4遺跡、福原段丘上では7遺跡、水沢高位段丘上では9遺跡、水沢低位段丘上では8遺跡である。扇端付近で低い段丘上の遺跡が多い。

III 調査方法と室内整理

1 調査経過

調査区内で掘削土を処理するため、重機の経済的・効率的運用と捨て場となる調査区の組み合わせを考えながら、10ヶ所に分けた調査区（第7図参照）内の数ヶ所を隨時捨て場として調査をすすめた。したがって、重機の粗掘が済んでも人力検出・精査をしばらく実施できない調査区も生じたが、重機粗掘でもある程度は検出ができ大凡の作業の見通しを持つことができた。調査開始時は調査員4名と40名の作業員で実施され、3ヶ月日からは調査員2名と約30名の作業員で調査は継続された。

4月14日 事務所開設。器材運搬前に2チームに分かれてB北区西水田（1182m²、BF0.7CD8）とE区（3408m²、BF0.45CD7）の粗掘を行う。B北区排土はB南区東水田上に、E区排土は調査区外休耕田に仮置きする。※BF：バックフォー CD：キャブラン

4月15日 B北区粗掘終了、午後からA区（1287m²）の粗掘開始。排土はB南区東水田へ。

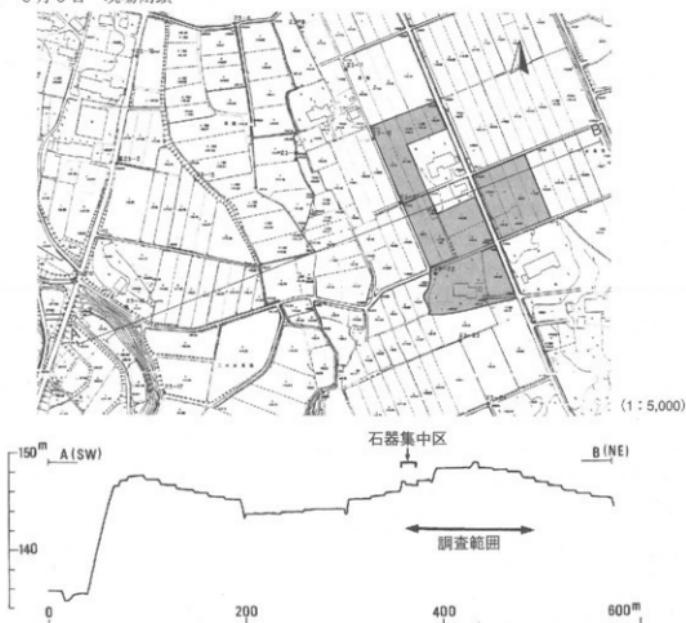
4月19日 A区粗掘終了、C区南水田（933m²）粗掘開始。調査区内民家への騒音対策で隔週でしか重機を使用できることになり、今日以降今週は稼動できず。

4月20日 B北区西水田の精査開始。1箇所で土器片少量出土。遺構状の溝り数ヶ所検出。

4月21日 E区粗掘終了。

4月26日 B北区西水田精査完了、遺構無。土捨て場とする。C区南水田粗掘再開（BF0.7CD8）し、終了する。C区北水田（1060m²、BF0.45CD7）粗掘開始（1日のみ）。

4月29日～5月5日 現場閉鎖



第6図 調査範囲・地形断面図

- 5月6日 A区遺構状の染みを多数検出し、精査に入る。
- 5月11日 C区北水田粗掘再開（～12日）。
- 5月12日 B南区西水田（1029m²）粗掘開始。排土はB南区東水田へ。
- 5月13日 B北区東水田（1060m²）の粗掘開始。排土はB北区西水田に置く。
- 5月18日 B南区西水田は昨日から人力検出を行った。水田造成時斜面上側をやや多めに削り斜面下側にそろえるような設計にされていたため、1回目の粗掘だけでは斜面下側の剥土量が少ないことが判明し、後日再粗掘をすることにした。遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。
- 5月25日 D区西側は先月末によく民家が撤去されたため、粗掘に先立ち2m四方のマスを4ヶ所設定し、試掘をする（～27日）。
- 5月27日 B南区西水田の斜面下側の再粗掘を行った。この際北側で暗褐色土から剥片1点が出土し、旧石器時代の遺構遺物が想定された。D区東側は試掘のため数ヶ所で水田表土を重機で剥ぎとり、検出開始。
- 5月28日 E区調査終了。
- 5月31日 B南区西水田で旧石器時代の遺構遺物の精査を開始した。予定外の調査で他の調査区の作業を優先していたため、作業員2人による調査となった。
- 6月4日 B北区東水田検出開始。
- 6月7日 D区東側は調査区内で排土を処理することにし、重機粗掘をする。
- 6月8日 D区西側の北側にはえぐねによる雑物が多くあり、撤去をする。
- 6月9日 D区内排水溝下の調査について委託者の亀山氏と現地で協議し、調査しないことで確認する。
- 6月11日 A区精査終了。結局、陥し穴状遺構1基、柱穴6基、風倒木跡十数ヶ所。
- 6月14日 A区旧石器時代の遺構確認のため数ヶ所で試掘始める。B南区西水田で旧石器時代の遺構を検出したことから、北側への広がりを確認するためにB北区西水田の排土を一部移動し、旧石器時代の遺構確認のための試掘を6月21日まで行った。遺構・遺物ともに検出されず。
- 6月21日 D区西側の粗掘開始。排土場所がなくなり、調査区内の反転とする（～24日）。
- 6月22日 台風6号の影響でB区西側水田2枚が冠水する。水が引けず24日まで作業を中断する。
- 6月23日 A区調査終了。今日までB南区東水田は土捨て場となる。
- 6月24日 B南区東水田の排土をB北区西水田へ移動開始（～7月2日）。
- 6月25日 C区は部分終了確認後D区西側から排土を搬入し、土捨て場とする。
- 6月29日 D区東側の北側部分の捨て土をC区へ移動し、粗掘をする。
- 6月30日 D区西側は残りの部分の粗掘を再開する（～7月2日）。
- 7月5日 B南区東水田（943m²）の重機粗掘開始（～7月7日）。D区東側の南側の部分終了確認。
- 7月13日 B北区東水田調査終了（旧石器時代の遺構検出含む）。
- 7月15日 大雨でB南区西水田冠水する。D区侵入路（187m²）の重機粗掘をする。菊池強一先生に調査についての指導を受ける。
- 7月16日 B南区東水田調査終了。
- 7月20日 胆沢町役場岩城助役と教育委員会佐々木主事が見学に来られる。
- 7月30日 D区東側の北側部分調査終了。
- 8月2日 胆江地区社会科教員が遺跡見学。
- 8月4日 7日の空撮に向けて遺跡内の環境整備を並行して開始する。

- 8月7日 正午頃に空撮を実施、午後1時から現地説明会を行う。約80名参加する。
- 8月10日 B南区西水田の石器集中区間に段丘疊層に到達する東西方向のトレンチを重機で掘削する。
- 8月12~16日 現場閉鎖（蓋休み）
- 8月20日 D区西側と侵入路の調査終了。
- 9月10日 B南区西水田の石器集中区調査が終了し、撤収する。

2 野外調査

(1) 調査区の設定 調査区内は、東西南北方向に約200mの距離があり、南北方向に走る県道を頂点としてその両側に緩く傾斜する。このため見通しが悪く最大約2mの標高差があることなどから、区画設定は任意の基準点2点と補点4点を設置し、同一方向にのる2点を結ぶ直線と基準点に直交する直線を座標の基準線とした。各基準点の平面直角座標標第X系（世界測地系）による成果は次の通りである。

基準点1 (K1)	X=-102860.000,	Y=18800.000,	H=148.131m
基準点2 (K2)	X=-103048.000,	Y=18832.000,	H=148.543m
補点1 (S1)	X=-102943.000,	Y=18800.000,	H=147.441m
補点2 (S2)	X=-102908.000,	Y=18900.000,	H=147.983m
補点3 (S3)	X=-102964.000,	Y=18900.000,	H=148.533m
補点4 (S4)	X=-103048.000,	Y=18876.000,	H=148.758m

これらの座標値をもとに遺跡全体を100×100mの大区画に設定し、さらに4×4mの小区画に細分

し、東西にI~III、1~25の数字を、南北にA~C、a~yのアルファベットを付した。調査区の名称はアルファベット・数字の組み合わせでA I a 1、B I b 1というように呼称した。

(2) 粗掘り・遺構検出
調査区内は民家敷地部分を除きそのほとんどが水田であるため、昨年度行われた試掘情報をもとに水田表土を重機で剥ぎ取り、その後人力による検出・精査を行った。民家敷地内は風除けのためのえぐね伐採による伐根や雑草類が生い茂っていたため、その撤去から始めた。



第7図 グリッド設定図

(3) 遺構の命名 次のように遺構の命名を行った。 種別 遺構名(登録数)

陥し穴状遺構: SKT (24) 土坑: SK (4) 掘立柱建物跡: SB (1)

溝跡: SD (7) 柱穴状遺構: SKP (80)

(4) 遺構精査と実測・遺物の取り上げ 検出された遺構は、陥し穴状遺構・土坑は2分法を原則として精査を行った。遺構の記録は主に実測図作成と写真撮影により行い、実測図に表現できないものはフィールドノートに記録した。作図は座標系にあわせた1mメッシュを基本とする簡易造方測量で行った。

(5) 写真撮影 野外調査での写真撮影は、 6×7 cm判カメラ(モノクロ)と35mm判カメラ(モノクロとカラーリバーサル)を使用し、この他にデジタルカメラ1台をメモ的な用途として使用した。撮影にあたっては、撮影内容を記載した「撮影カード」を事前に写し、整理がしやすいようにした。また、調査終了間近に小型飛行機による空中写真的撮影を実施した。

(6) 遺物の取り上げ 旧石器時代の遺物は、出土位置・層位等の記録をし、遺物番号を付して取り上げた。出土位置は測量機械により3次元座標値を測り、野帳に記録した。測量日ごとに表計算ソフトエクセルで入力し、作図しながら人為的ミスの確認を行った。測量条件(基準点、設定機械高等)はできるかぎり同一にした。

縄文時代～近現代の遺物は、遺構内遺物は埋土上部、下部、底面に分けて、遺構外遺物は小グリッドで層位別に取り上げた。

3 室内整理

図面の点検・遺物の洗浄・写真的整理は原則的に現場で野外調査と平行して行うこととしたが、後半は毎日の調査整理を重点的に行つたため一部は野外調査終了後に行った。旧石器時代の石器集中区土壤洗浄は調査終了後に行った。

(1) 遺構 実測してきた図面の座標、セクションポイントの位置、基準などを点検しながら第2原図を作成し、トレースを行つた。図版の縮尺は、陥し穴状遺構1/60、土坑1/40、掘立柱建物跡1/50、溝跡1/150～1/250、柱穴1/80～1/150とした。なお、個々の図版にはスケールを付してある。

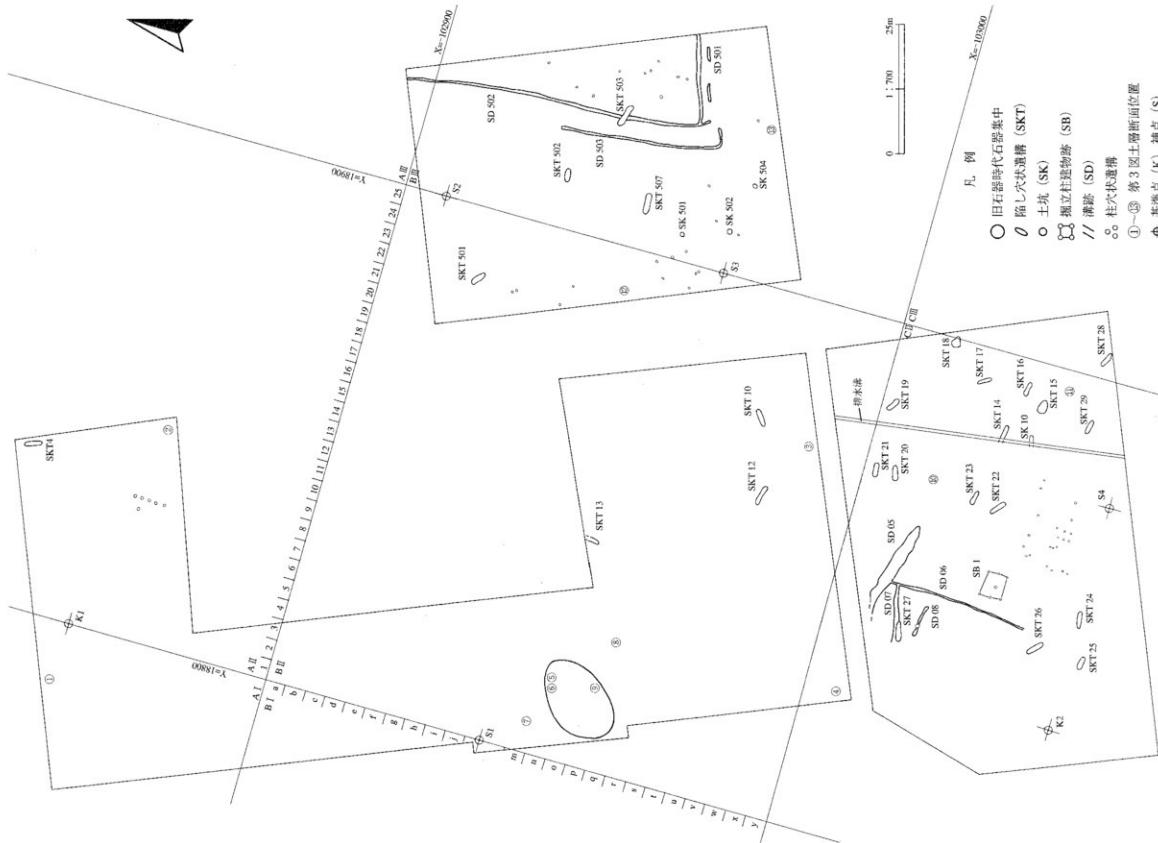
(2) 遺物 遺物は洗浄後実測や拓本の必要なものを選択し、遺構内外に分け登録し、注記・接合・復元を行つた。報告書に掲載した遺物は、登録した中からさらに選択して実測・トレース・写真撮影・図版作成と作業を進めた。

報告書に掲載した遺物の選択基準は、土器は接合復元できたもののがなく、できるだけ文様モチーフの明瞭な破片を選んだ。石器は旧石器時代のものを除き、少量であることから欠損の有無に拘らず全点実測した。陶磁器片は産地ごとに特徴ある文様のものを選んだ。旧石器時代の遺物は、整理条件(整理作業員、整理期間など)から全数の約1/3を掲載することにした。

挿図中の縮尺は、旧石器時代の剥片石器類が2/3、台石が1/4、接合資料が1/2、縄文時代の土器が1/3、剥片石器が1/2、陶磁器片が1/3を原則としている。なお、個々の図版にはスケールを付してある。

(3) 写真 野外調査中に撮影した写真は、フィルム規格ごとにモノクロはネガアルバムに、リバーサルフィルムはスライドファイルに整理した。いずれも撮影順に整理して台帳に記載した。遺物は登録したものを遺構内外の別なく35mmフィルムで撮影し整理した。

なお、遺物の撮影は当センターの写真技師が行つた。



第6図 遺構配置図

IV 旧石器時代

1 概 要

(1) 位 置

上野原段丘を削る沢状の凹部に面する南西斜面上にある（第6図）。B II o 3区を中心に北東南西方向に主軸を持つ梢円形状の範囲A（14.8×10.6m）とB I m25～B II q 2区にかけての北西南東方向に走る農道の範囲B（23×4.2m）にある。

(2) 分 布 状 況（第10図）

遺物の平面分布と出土層位からは本来的には梢円形状の範囲に集中して分布していたと考えられ、農道下の部分は昭和25年頃からの開墾時に動かされた可能性がある。また梢円形状の範囲も二分するように見えるが、開墾時剥土や調査時の掘削で削平を受けていることも考えられる。石器は合計219点出土している。これは純粹に発掘時に出土した点数だけで土壤洗浄により抽出したものは含まれていない。分布図でみるとB II n 3～4区（集中1、以下同じ）で特に集中して出土している。さらに垂直分布でみると、東西断面の投影はB II n 3～o 4列区部分にまとまった出土状況を示す。これに対してo 1～q 2列区は出土点数が少ないものもあるが、散在的な状況を示している。出土上下幅は約20cmで、上限がきれいな一直線上になるのは過去の水田造成時の削平面を示していると考えられる（石器検出面は水田表土直下である）。出土層はII層上部（II 1～II g 1層）の出土量が多い。なお、B II o 4～2, 3～o 5～1, 2にかけて円形の風割木痕が確認された。

(3) 石 質 別 分 布

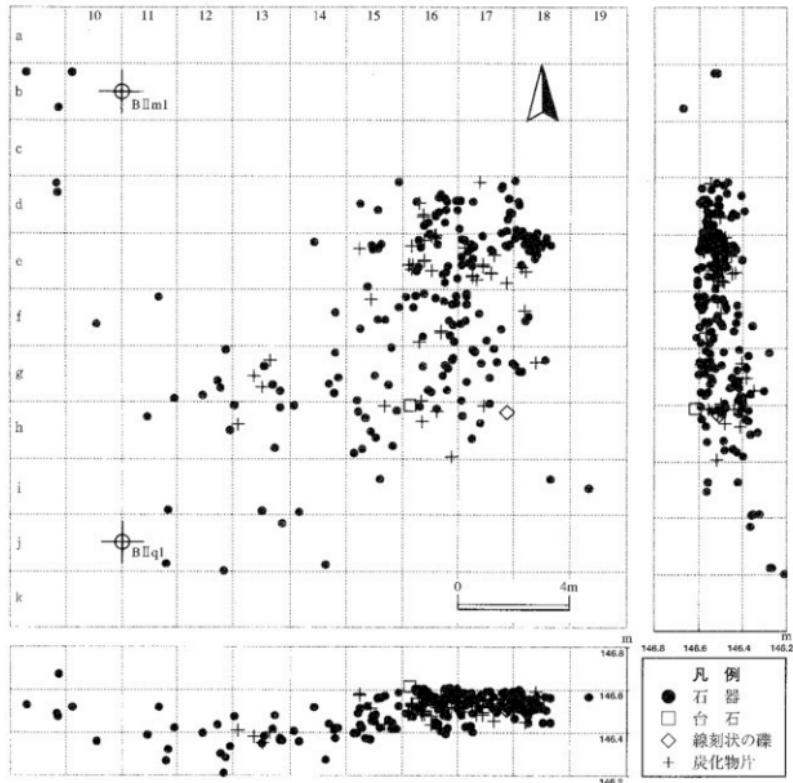
剥片・破片は頁岩で8種類、礫は2種類で安山岩と凝灰岩である。第18図～第20図に石質別平面分布図を示している。石質BはB II n 3～4区とo 3区を中心とした北東南西方向に長軸を持つ梢円形状（12.4×6.5m）に分布し、第10図の東西断面（以下同じ）では中部から上部にかけての出土が多い。最深点出土石器は322である。石質Cは全域に散在している。断面では中部から上部で出土する。石質Dは石質Bと同様な範囲で梢円形状（9.7×6m）に分布する。断面では下部から上部で出土し、最深点は317（小剥片、不掲載）である。石質FはB II n 3～4区に梢円形状（5.9×4.3m）に分布する。断面では中部から上部にかけて出土し、最深点は202（小剥片、不掲載）である。石質GはB II p 2区から北東に直線状にn 4区まで分布する。断面では中部から上部にかけて出土し、最深点は286（小剥片、不掲載）である。石質AはB II n 4区周辺からとくに集中して出土している。断面では中部から上部にかけて出土し、最深点は321（小剥片、不掲載）である。

(4) 石 材

頁岩は石質Aが106点、石質Bが23点、石質Cが17点、石質Dが30点、石質Eが4点、石質Fが12点、石質Gが24点、石質Hが1点。安山岩は2点、凝灰岩が1点である。石質Aは主に黄白色の頁岩で、時に微細な石英結晶脈をもつ。頁岩の風化部分とも考えられるが、ナイフ形石器などの道具類を作っていることから一石質として区分した。石質Bは黒色で、



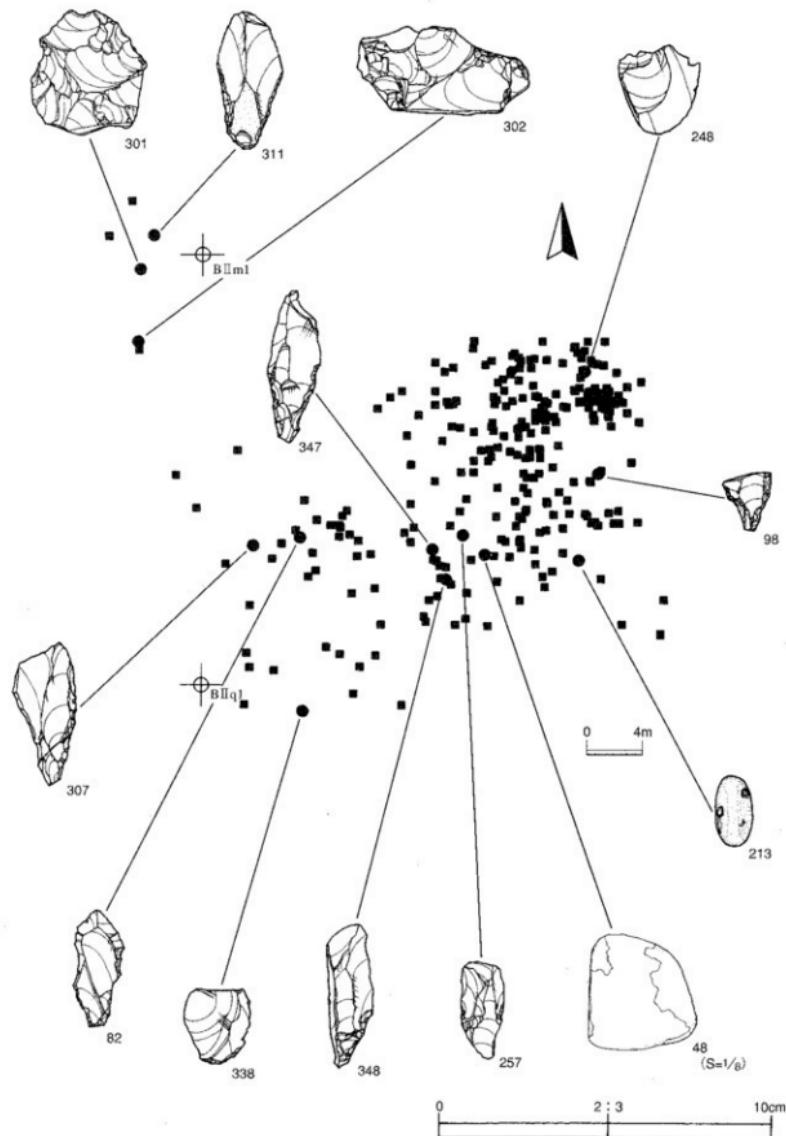
第9図 石器集中区調査範囲図



第10図 遺物分布図

第5表 出土器種別・石質別点数一覧表

	ナイフ形石器	台形様石器	微細剥離のある削片	使用痕のある削片	石刃	剥片	破片	石核	台石	線刻状礫	塊	合計
石質A	3					78	23	2				106
石質B		3				11	8	1				23
石質C	3					1	12	1				17
石質D						22	6					28
石質E						2						2
石質F						3	1					4
石質G						8	4					12
石質H						17	7					24
石質I	1											1
安山岩									1	1	2	
凝灰岩										1	1	
合計	7	3	0		0	1	153	50	3	1	1	220



第11図 器種別石器分布図

やや凝灰質である。石質Cは主に暗灰黄色の珪質頁岩である。石質Dは褐色斑状の珪質頁岩である。石質Eは灰色の頁岩である。石質Fは暗褐色を呈する珪質頁岩である。石質Gは極暗赤褐色を呈する珪質頁岩である。

(5) 器種

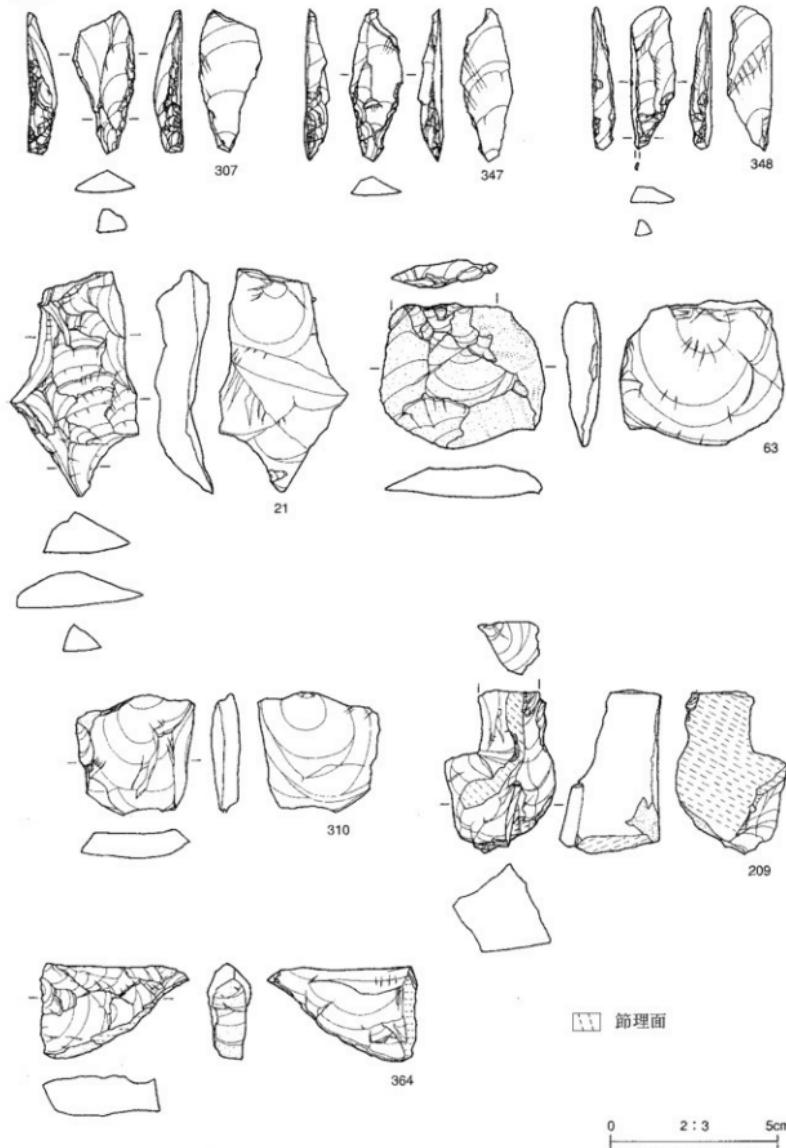
ナイフ形石器7点、台形様石器3点、微細剥離のある剥片11点、使用痕のある剥片15点、剥片・破片184点、石核3点、搬入縁2点である。

2 出土遺物

(1) 石質Aの石器(第12~15図)

307・347・348はナイフ形石器である。307は綫長剥片を素材とし、打面が除去されている。先端部に発掘時のガジリ痕がある。基部中央付近に小石英脈が入り込み良好な素材ではない。打面側を基部とし、その稜線を剥ぎ取った後に両側縁の腹面側から急角度の調整が施される。とくに左側は素材を大きく変形させるように、抉られている。基部側の稜線はその作業前に削りとられている。347は綫長剥片を素材とし、打面が除去されている。先端部に発掘時のガジリ痕がある。打面側を基部とし、その稜線を剥ぎ取った後に両側縁の腹面側から急角度の調整が施される。348は綫長剥片を素材とする。右刃部腹面側に発掘時のガジリ痕、基部端に発掘時の折れがある。打面側を基部とし、腹面側から急角度の調整が施されるが、素材の時点で左側片が急角度であったためかほとんど調整されていない。21は幅広の剥片である。打面が残り、打面付近に原石面の一部が残る。背面に見られる剥離の方向から剥片剥離の比較的初期段階に作出された剥片とみられる。63は片面に原石面を残し、剥片剥離の初期段階に作出された剥片である。310は表面にネガ面が残り、同一方向から連続的に作出された剥片である。主要剥離面の末端はヒンジ・フラクチュア気味となる。右側縁から先端にかけて使用痕が認められる。209は石核である。表面の一部と裏面に節理面、先端に原石面の一部が残る。右側表面は節理面を除くために浅い剥離を作出したが、左側は深めの不規則な剥離となっている。364は剥片である。先端に原石面、左側面と表面の一部に節理面が残る。表面上位は小さい剥離で打面を除去している。340は幅広の剥片である。表面に見られる剥離からそれまで作出していた打面を時計と反対周りに約40度回転して打面を変えている。先端部には微細な剥離と使用痕が、左側縁に使用痕が認められる。275は幅広の剥片である。打面側は剥離後に切断されている。表面は密集した微細な石英結晶で構成される石英脈でヤスリ状である。末端部はヒンジ・フラクチュアぎみである。305は厚めの剥片である。右側面に原石面が残る。表面の剥離と主要剥離面の方向は同一である。打面は除去されている。261は幅広の剥片である。表面の剥離と主要剥離面の方向は同一である。先端の一部に原石面が残る。先端に使用痕が認められる。345は厚めの剥片である。表面の剥離と主要剥離面の方向が同一であり、連続的に剥ぎ取られた剥片の一つである。打面の平坦面が広く残る。末端はヒンジ・フラクチュアぎみである。339は石核調整段階の剥片である。表面全体が原石面で、打面は節理にそった割れでなくなっている。277は剥片である。表面にみられる剥離と主要剥離面の剥離方向が90度異なり、石核成形のための剥片の可能性がある。306は打面調整の剥片とみられる。45は剥片である。表面の稜線左右面の剥離方向が異なり、石核成形のための剥片の可能性がある。打面がなく上面が節理面であることから、作出時の衝撃で割れたのかもしれない。324は表面に原石面を残し、3剥離面の方向がそれぞれ異なる。石核調整段階の剥片とみられる。93は打面調整のための剥片とみられる。右側縁に使用痕が認められる。318は原石面を打面とする剥片である。先端は節理面にそって切断されている。剥片剥離工程の比較的初期段階に作出されたとみられる。126は短形の剥片である。

石質 A



第12図 出土遺物 (1)

石質 A



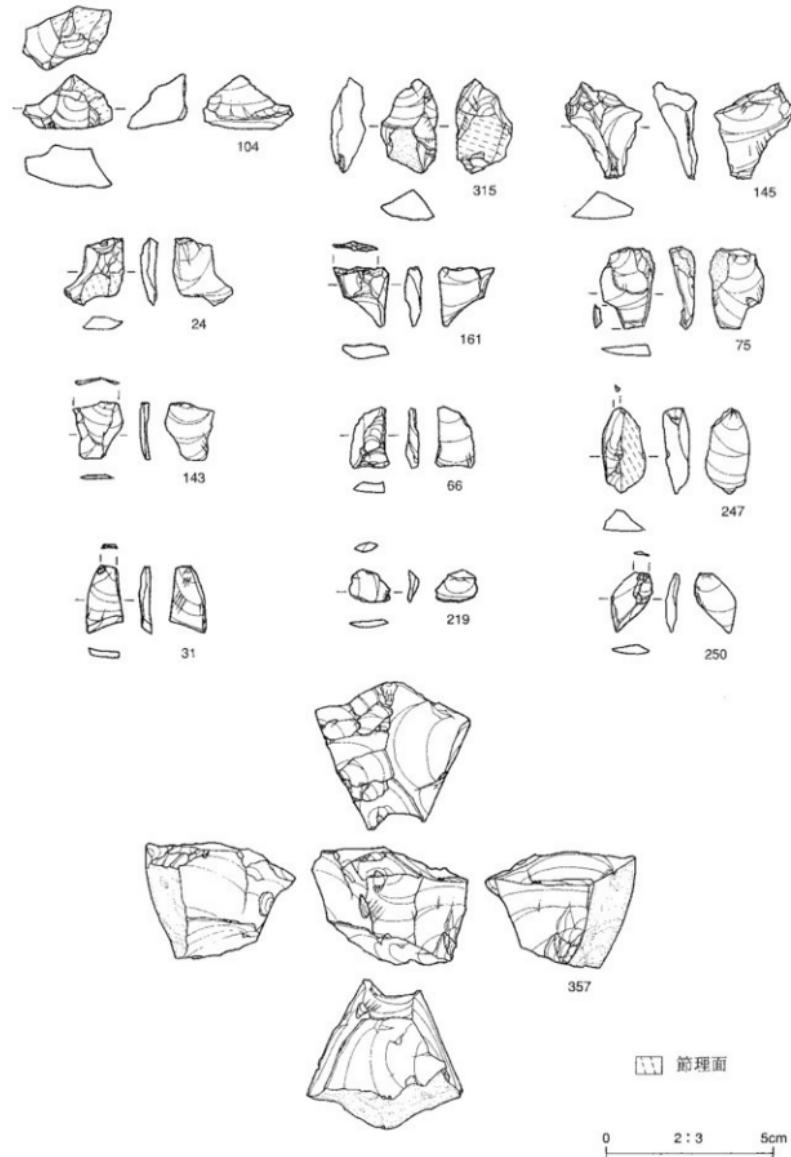
第13図 出土遺物 (2)

打面側を切断し、除去している。表面の一部に原石面が残り、末端はヒンジ・フラクチュアぎみである。342は核を除去し石核整形のための剥離により作出されたものとみられる。表面と打面側に原石面が残る。剥片剥離工程の初期段階とされる。86は石核整形のための剥片である。打面は除去され、先端部は切断されている。104は不定形な剥片である。裏面はやや大きめのフラットな剥離面をきる主要剥離面があり、その主要剥離面は打面を除去する際に大きく剥がされ、表面は筋理面に沿って剥離されている。315は剥片である。主要剥離面が筋理面に沿って剥がれたために打面位置が不明であるが、表面の剥離方向と同じと推測される。その後筋理面を2ヶ所から剥がそうとしているが、部分的にしかできなかったようである。表面の一部に原石面が残る。石核整形を目的としているとみられる。145は石核の稜を除去する石核整形のために作出された剥片である。打面は除去されている。24は表面の剥離方向が90度異なるものがあり、石核成形時の剥片とみられる。161は不定形な剥片である。打面が除去されている。石核成形時の剥片とみられる。75は剥片である。裏面の左側に疊風化面があり、これを除去するための剥離とみられる。143は剥片である。打面が除去されている。左側縁に使用痕が認められる。石核成形時の剥片とみられる。66は剥片である。打面が除去されている。右側縁に筋理面が残る。表面は熱を受け指円形状にはじけている部分がある。247は石核の稜を除去するために作出されたとみられる。表面に筋理面がみられる。打面は一部のみ残る。先端はヒンジ・フラクチュアぎみである。31は調整剥片とみられるが、両側が切断されている。219は表面と主要剥離面の剥離方向が90度異なり、石核成形のための調整剥片と思われる。250は調整剥片である。357は石核である。裏面に原石面が残る。左右の側面から大きめの剥片を剥ぎ取り、それら剥片の打面を除去している（下面）。上下を逆にし左右側面でできる稜線を除去し（正面）、その剥離面の打面を除去しながら小さな剥片を連続して剥離している（上面）。302は石核である。下面に平らな原石面が残る。原石から本石核を剥離したときに筋理面があったと推測され（上面）、周辺からこの筋理面を除去している。左側面中央付近の平らな面が古い面で、これから不定形な剥片が剥ぎ取られている。上面の剥離面の打面を除去しながら小さな剥片を剥離している（正面）。

（2）石質Bの石器（第15図）

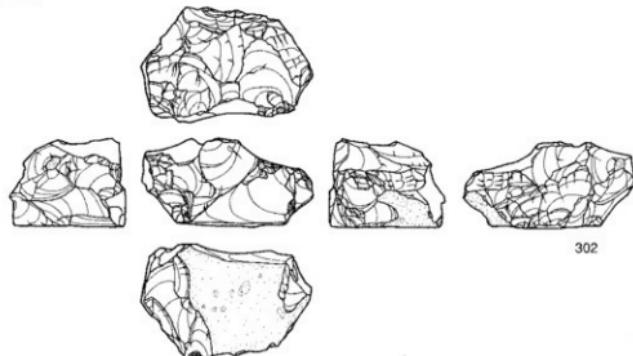
243・338・22は同じ方法で剥離された小形の台形様の剥片である。
 243は打面が残る。表面右側には平らな石核面が、その左側には直前の剥離痕が残る。表面の平らな石核面と裏面主要剥離面で鋭い縁辺が形成され、この縁辺に使用痕とみられる微細な刃こぼれが認められる。裏面の末端右側はヒンジ・フラクチャーで終る。338は243と同様な形態であるが、打面と相対する末端と打面側左側縁に2次加工が加えられている。打面上にも微細な剥離がみられるが、前述の2ヶ所に比べ粗雑である。打面は平坦打面である。22も243と同様な形態である。打面と相対する末端がヒンジ・フラクチャーで終る。表面の平らな石核面と裏面主要剥離面で形成される鋭い縁辺に使用痕がみられる。打面は平坦打面である。366は243に類似はするものの、使用痕が残る鋭利な縁辺が左側辺にみられる。打面と相対する末端と右側面の交点付近に平らな小石核面が残るだけで、本小剥片が剥がされる前に周囲の石核面は剥がされているようである。打面に相対する末端に若干2次加工が加えられ、打面上右側に小さな剥離がみられる。打面は平坦打面である。236は366と同様に右側辺付近に平らな小石核面が残る。打面を除いた3辺は鋭利な縁辺を持ち、使用痕が認められる。とくに打面に相対する末端は微細な刃こぼれ状となっている。288は打面が除去されているが、打面に相対する末端は平坦な石核面で、これと主要剥離面とで形成される鋭い縁辺には使用痕が認められる。322は打面調整剥片とみられる。打面は切断されている。左右側辺に使用痕が認められる。146は打面再生剥片とみられ、表面の剥離方向はそれぞれ異なる。打面は除去されている。表面には被熱ではじけた

石質A

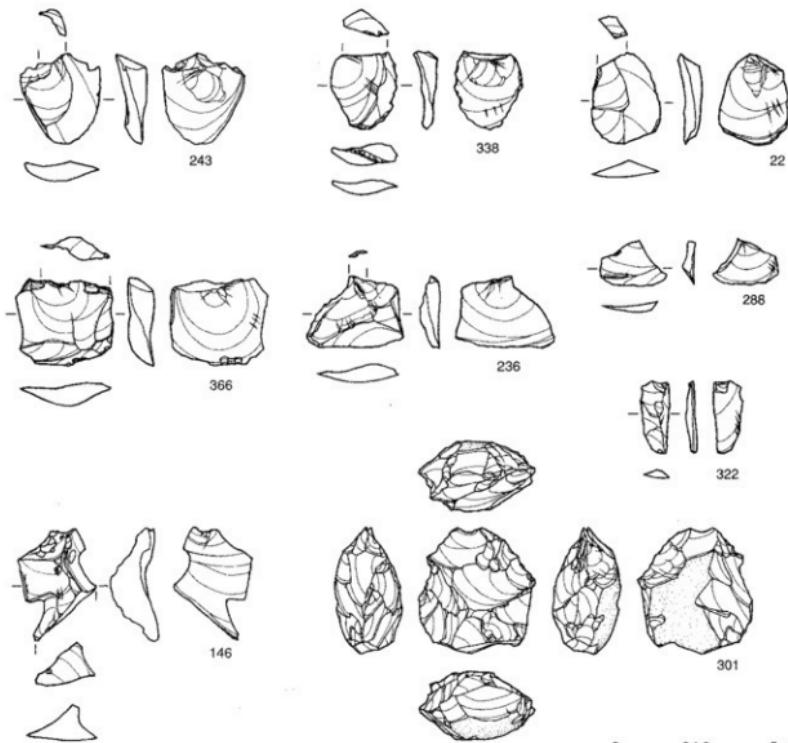


第14図 出土遺物 (3)

石質 A (302)



石質 B



第15図 出土遺物 (4)

ところがある。301は亀甲状の石核である。寸詰まりの小剥片を求心的に剥離している。裏面は原石面が残る。

(3) 石質 C の石器 (第16図)

311・82・98はナイフ形石器である。311は綫長剥片を素材とし、打面が除去されている。表面基部側は原石面が残る。打面側を基部とし、両側縁の腹面側から急角度の調整が施される。先端部と基部ともに欠損している。82は素材表面の長軸に対して斜めに整形されたものの、打面側を基部として作出される。打面が除去されている。刃部左側は発掘時のキズが、右側は刃こぼれがみられる。98は刃部側が欠損している。打面側を基部とし、左側が比較的大きく抉られている。打面が残る。303は綫長剥片である。ナイフ形石器の素材剥片とみられる。平坦打面である。先端に発掘時のキズが残る。2は綫長剥片の先端部分を切断した小剥片である。表面に見られる剥離の方向から同一方向の打面から連続的に作出された剥片である。両側縁に微細な剥落痕がみられる。左側上部を薄くするような調整を加えている。304は大き目の剥片を打面方向に2分割し、さらに打面側半分を除去している。右側縁に微細な調整が施されている。先端と左側縁腹面側に発掘時のキズがついている。38は寸詰まりの剥片である。先端右側を切断し、さらに打面側右側表面を剥ぎ取り、刃部のような銳利な偶縁を作出している。この部分には使用痕が認められる。平坦打面である。116は石核調整剥片とみられる。表面に原石面が残る。先端の銳利な部分に使用痕が認められる。

(4) 石質 D の石器 (第16図)

すべて使用痕が認められる剥片である。71は不定形な剥片である。表面に原石面を残し、石核調整剥片とみられるが、左側縁の銳利な部分に使用痕が認められる。135は表裏面とともにボジ面で横長剥片の左側が切断されている。先端はヒンジ・フラクチュアぎみである。打面を除く周囲に微細な剥落痕がみられる。256・34・218は寸詰まりの剥片である。256は先端部のヒンジ・フラクチュア部分を除き、周囲に微細な剥落痕がみられる。34は先端部分が切断されている。左側縁に微細な剥落痕がみられる。平坦打面であり、剥片の大きさの割に打面が広い。218は先端が切断されている。ヒンジ・フラクチュアぎみである。左右側縁に微細な剥落痕がみられる。36は右側半分を折り取っている。

左側縁の銳利な部分の打面側に腹面側からプランティングが施され、先端側には微細な剥落痕がみられる。

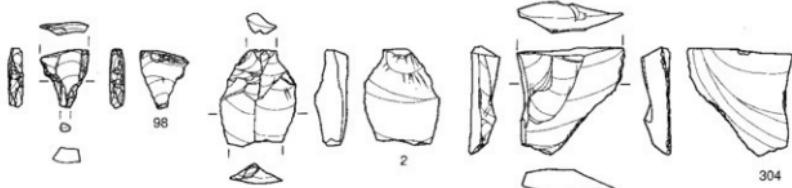
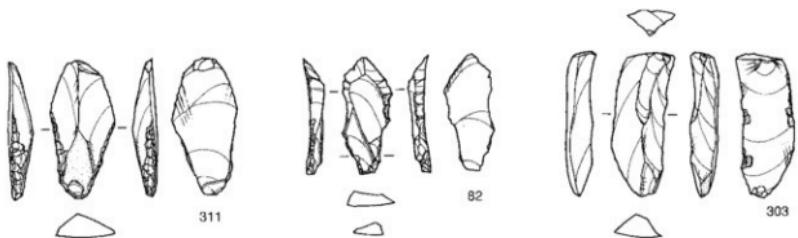
(5) 石質 E の石器 (第17図)

40は剥片である。原面打面である。左側先端腹面側に微細な剥離痕が不明瞭ながらみられる。表面の剥離方向と主要剥離面の方向が異なり、石核成形の剥片とみられる。296は寸詰まりの剥片である。表面にみられる剥離から同一方向から連続的に作出された剥片の一つとみられる。157は不定形な剥片である。打面側が切断されている。46は綫長剥片である。表面にみられる剥離の方向から、上下両端に打面をもつ石核から作出している。打面右側に微細な剥離が、右側縁に微細な剥落痕がみられる。左側辺は簡面で、一部剥離している。

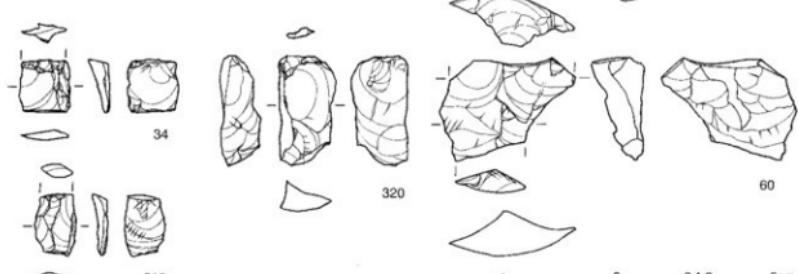
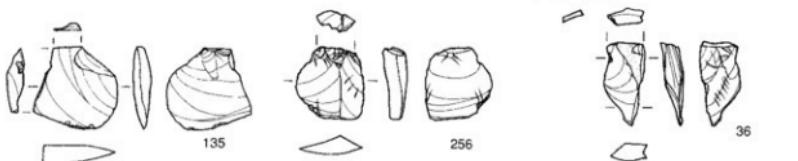
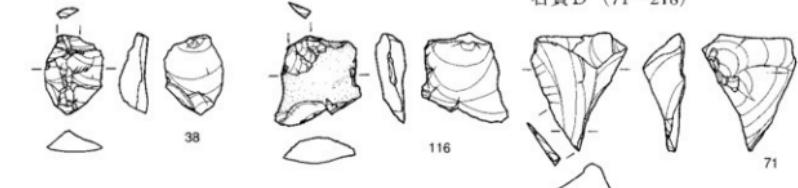
(6) 石質 F の石器 (第17図)

30は表面に原石面が残り、剥片剥離工程の初期段階に作出された剥片とみられる。150は寸詰まりの剥片である。表面の剥離は主要剥離面と同方向のものもあるが、180度方向を変えているものもあり、上下両端に打面を持つ石核から作出されている。打面を除く周縁に微細な剥落痕がみられる。

石質C (311~116)



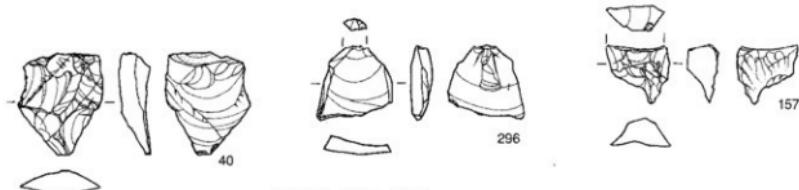
石質D (71~218)



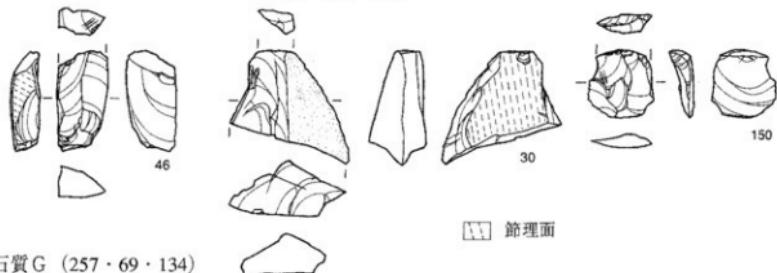
0 2:3 5cm

第16図 出土遺物 (5)

石質 E (40~46)

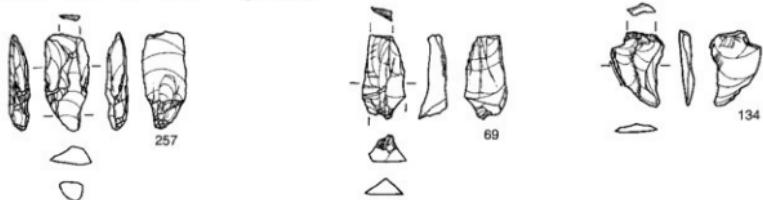


石質 F (30・150)

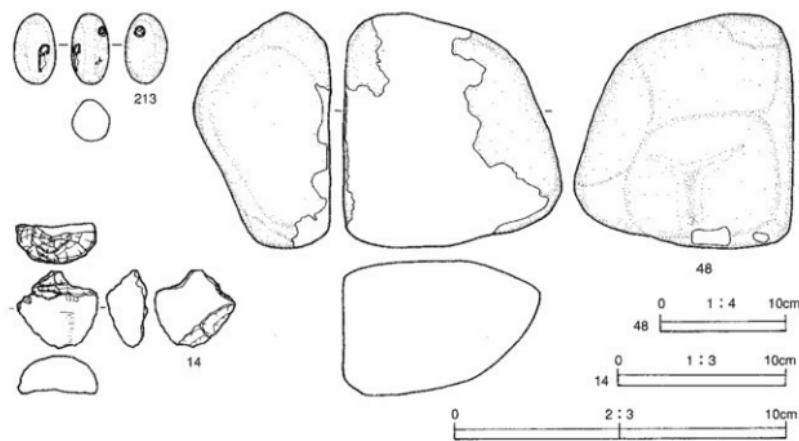


■ 節理面

石質 G (257・69・134)



その他



第17図 出土遺物 (6)

(7) 石質 G の石器 (第17図)

69は剥片である。打面が除去されている。表面の剥離から上下両端に打面を持つ石核から作出されている。先端中央に突起があり、その周辺に小剥離や微細な剥落痕がみられる。134は不定形な剥片である。左側縁上半に微細な剥離が、右側縁には微細な剥落痕がみられる。

257はナイフ形石器で、縱長剥片を素材とする。基部と刃部先端には風化面が残る。打面側を基部とし、両側縁の腹面側から急角度の調整が施される。

(8) その他の (第17図)

213は円形の線刻状の礫である。遺跡周辺の基盤岩に由来する凝灰岩質の円礫である。長さ2cm、幅1.2cm、厚さ1cm。礫の表裏面に円形～楕円形の線状痕がある。線幅が約0.5mmで、刺突されたように線状痕底面に時々針で刺したような点を観察できる。表裏の線状痕は対称な位置ではない。48は安山岩である。表面は粗摺時の傷が残り本来の状況は不明である。裏面は中央付近に凹部があり、その周辺も他の部分に比して小さな凹凸が多くみられる。水田表土直下で出土し、火山灰質土には含まれないもので台石と考えられる。14も安山岩である。原石を1/4割したその一つである。上面の断面に突起がみられる。先端や突起のある断面には剥離痕が認められるが、不明瞭である。

3 接合資料

接合資料は17点で、9点のみ掲載している。石質別分布の項で述べたようにそれぞれ密集している範囲での接合関係である。石器製作技術を復元できるほどには接合できなかった。

掲載された資料についてそれぞれ述べる。

接合16 (221+239、石質A、第20図、写真図版27)

2点の剥片が接合する。239を石核から剥離した後に打面を除去するための1剥片として221が剥がされている。

接合4 (29+276、石質A、第20・21図、写真図版27)

2点の剥片が接合する。節理面などに沿って酸化鉄の汚染を受けるなど母岩の状況が良くない。29を石核から剥離した後に276を切断している。29からは石質の比較的良い部分から剥片を剥離している。

接合1 (13+266、石質A、第20・21図、写真図版27)

2点の剥片が接合する。石核調整段階の剥片で2点とも厚く、表面に原石面を残し裏面は石英の微小結晶を持つ節理面である。原打面で剥離された後、13は熱を受けて赤色に変質し、裏面の微小石英結晶間にタール状の黒色の物質が付着している。

接合17 (332+346、石質A、第20・21図、写真図版27)

剥片素材の石核に剥片が接合する。表面に原石面、裏面に節理面を残す四角形状剥片346の原石面を打面として寸詰まりの剥片332を剥離している。

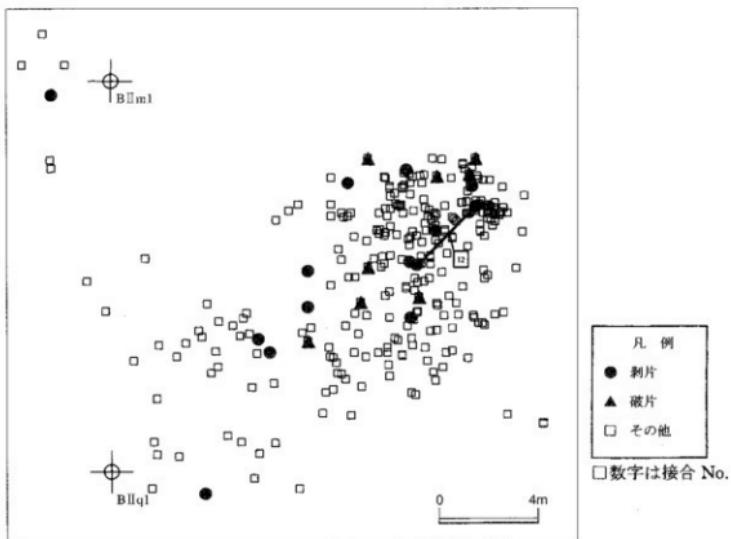
接合2 (27+89+252、石質A、第20・22図、写真図版27)

原石から剥がされた厚い剥片から小剥片が2点剥がされている。厚い剥片27が剥がされた段階で熱を受けて赤色に変色している。27裏面の節理面を剥がすように89が、表面の原石面を剥がした後の面を調整するために252が剥がされている。

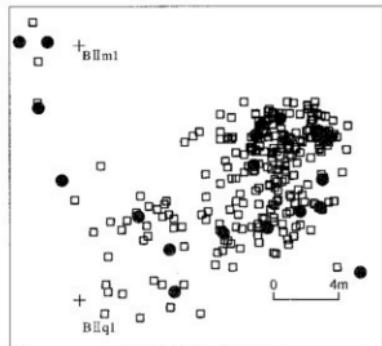
接合3 (28+274、石質A、第20・22図、写真図版28)

2点の剥片が接合する。石核調整段階の不定形な剥片で、切断前には熱を受けて原石面側が赤く変色している。

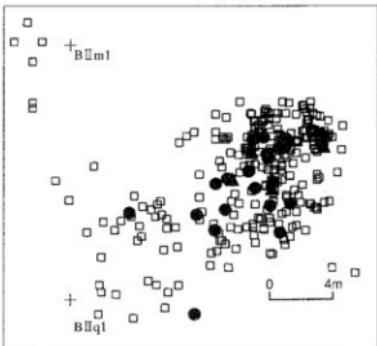
石質B



石質C

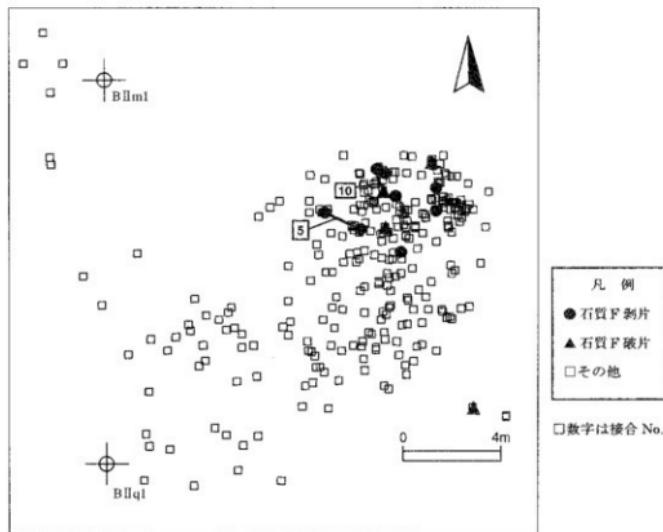


石質D

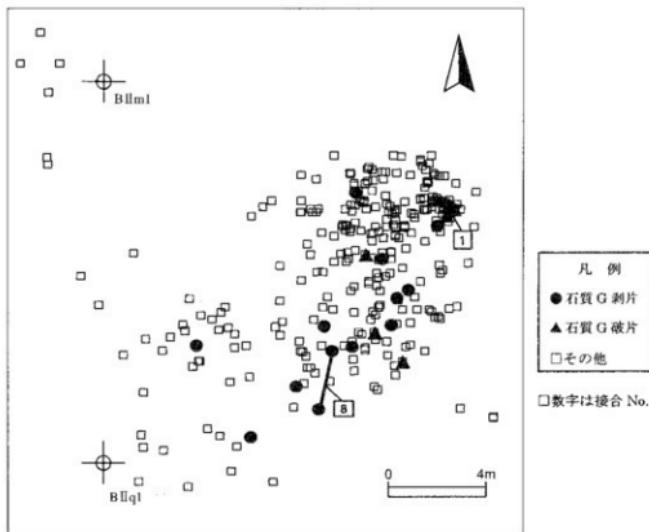


第18図 石質別石器分布・接合分布図(1)

石質 F

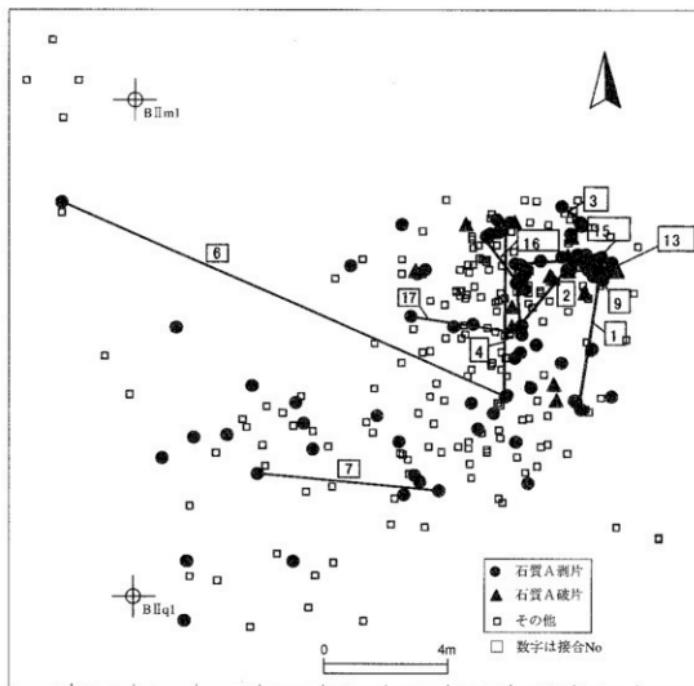


石質 G、H

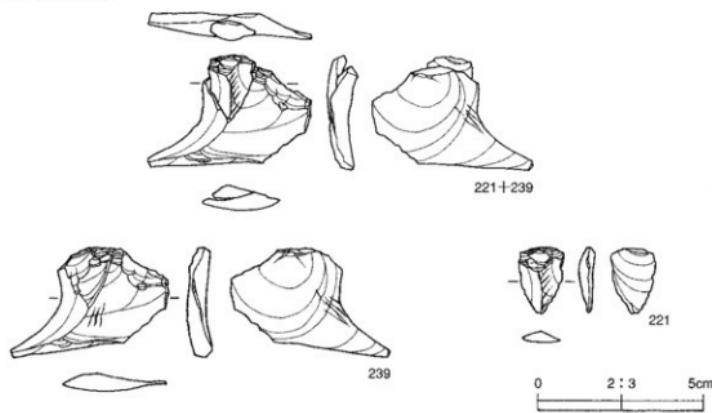


第19図 石質別石器分布・接合分布図(2)

石質 A



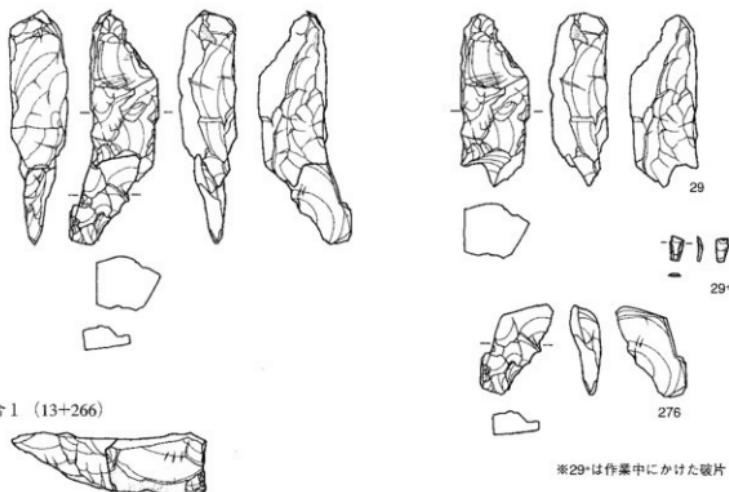
接合16 (221+239)



第20図 石質別石器分布・接合分布図(3)・接合資料(1)

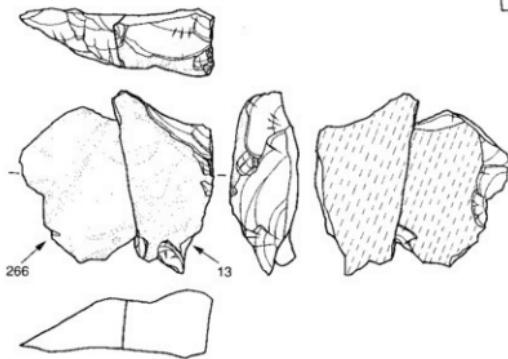
石質A

接合4 (29+276)

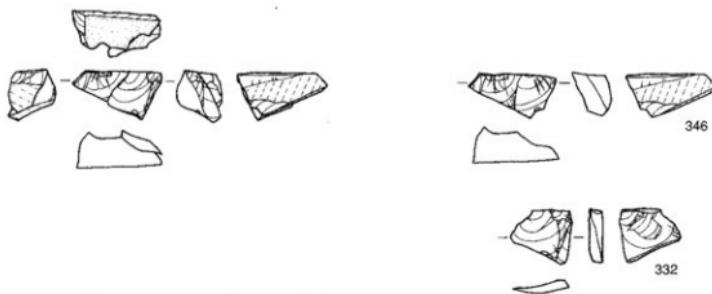


※29は作業中にかけた破片

接合1 (13+266)



接合17 (332+346)



0 2:3 5cm

第21図 接合資料 (2)

4 水洗洗浄により抽出した破片

接合12 (166+267、石質B、第18・23図、写真図版28)

2点の剥片が接合する。267は243などの台形様石器と類似する形状で、石核からの末端的な剥離とみられる。

接合7 (65+334、石質A、第20・23図、写真図版28)

2点の剥片が接合する。65を剥離後に打面調整のために334を剥離したとみられる。

接合5 (35+50、石質F、第19・23図、写真図版28)

2点の剥片が接合する。石核から剥がされた後に剥片中央付近で切断された。35に平坦打面が、50表面先端に原石面が残る。

その他 掲載されなかった接合を次表にあげる。

第6表 接合石器一覧表 (不掲載分)

接合名	No.	器種	No.	器種	石質	備考
接合06	302	剥片	44	破片	A	切断
接合08	68	小剥片	167	小剥片	G	切断
接合09	88	小剥片	92	小剥片	A	切断
接合10	202	剥片	138	小剥片	F	切断、No.202原打面
接合11	153	小剥片	361	小剥片	G	切断
接合13	176	剥片	212	小剥片	A	切断、2片とも原石面残
接合14	177	小剥片	210	破片	G	切断
接合15	244	剥片	207	小剥片	A	切断

※No. 361は出土位置不明

4 水洗洗浄により抽出した破片

(1) 方 法

重機粗掘検出面から約5cm掘り下げた時点から土嚢袋に人力掘削土を採取した。2m四方の29マス(第24図破片分布図)で総数357袋を、また、出土石器をのせた鳥状土をA4版サイズのビニール袋(9号)に総数93袋採取した。これらを調査終了後に水洗洗浄し、①1.7mm以上 ②1.0mm以上1.7mm未満 ③0.5mm以上1.0mm未満(③は9号ビニール袋試料のみ)に篩い分けした。採取土壤の総重量は4.36tであり、抽出した破片の重量はその1%にも満たない。整理時間の制約上、①についてのみスタンドルーベ(2.3倍)で抽出した後、双眼実体顕微鏡(10倍)で再観察し破片のみを抽出した。採取土壤は火山灰質粘土で、粘土化した火山灰のほかに鉱物(石英、磁鉄鉱、輝石など)や石質岩片で構成されているため、鋭利な刃を持つ破片は容易に識別できる。

(2) 抽 出 結 果

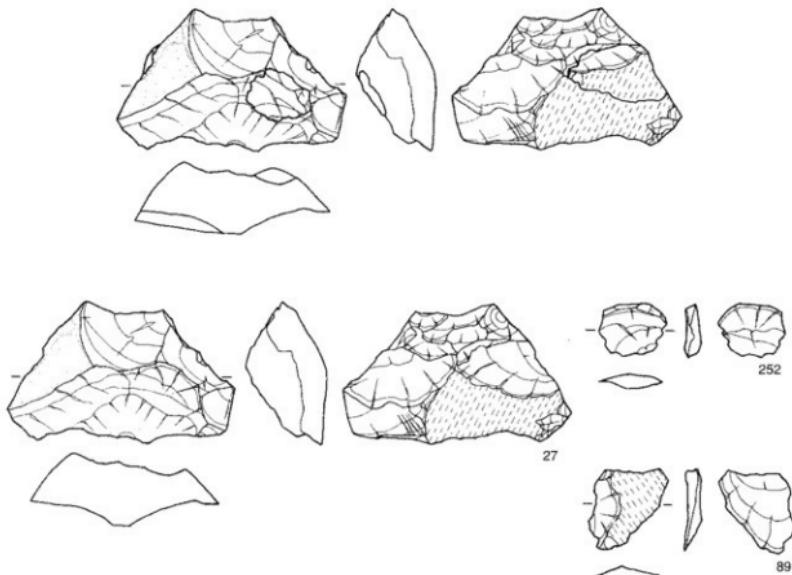
石器集中区区画のマスごとに①サイズの破片の個数を調べ、第24図のように点の濃淡で表した。第24図破片出土数量分布図の全破片出土分布図は第10図遺物分布図に対応することがわかる。とくにd16~18(石器集中区区画)の出土数量が多い。石質ごとの分布を見ても同様な傾向を示す。第20図石質A接合分布図B II m 4区周辺で密集して出土しているが、第24図石質A破片分布図もd17~18区の出土量が多く同じ傾向を示す。

(3) 破 片 の 形 状

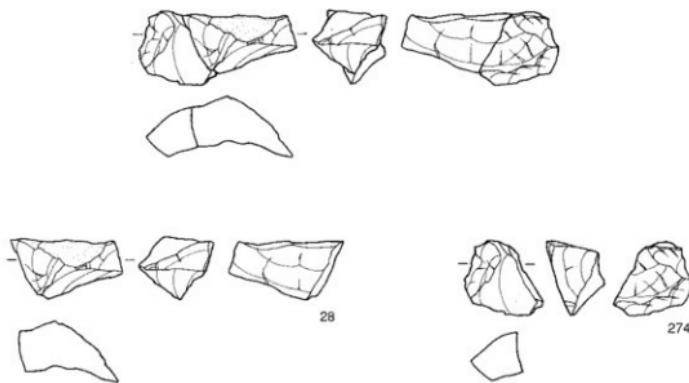
双眼実体顕微鏡で破片の形状を観察すると、貝殻の形状のように表裏面に稜が無くながらかで周縁が薄く鋭利なもの、裏面が平で表面に1~2つの稜をもつもの、多面体状のもの、多角柱状に長いものなどに分けられる。

石質 A

接合 2 (27+89+252)



接合 3 (28+274)

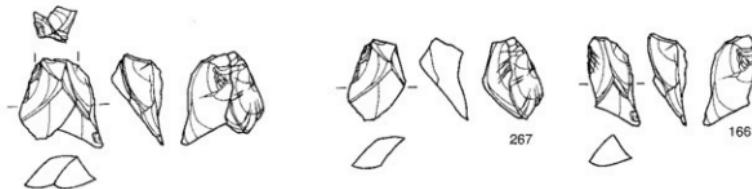


第22図 接合資料 (3)

4 水洗洗浄により抽出した破片

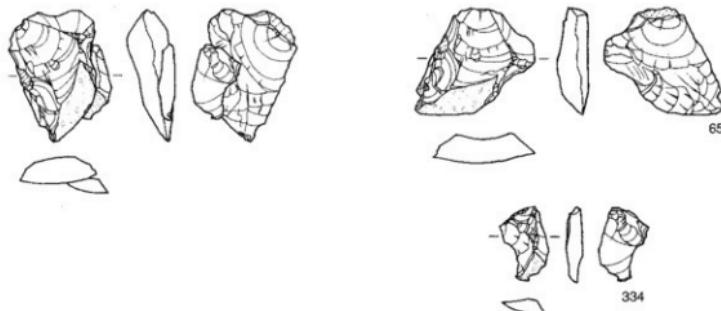
石質B

接合12 (166+267)



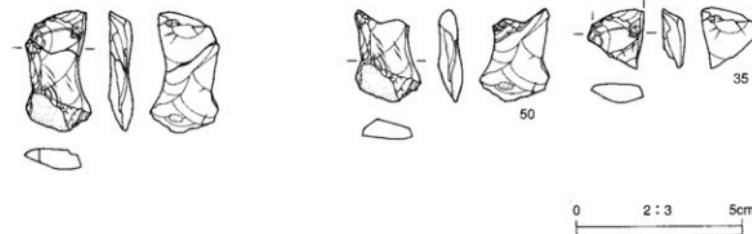
石質A

接合7 (65+334)



石質F

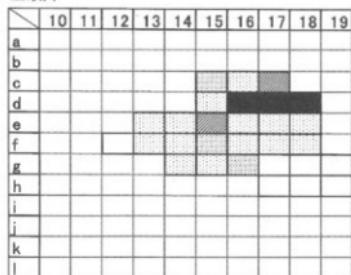
接合5 (35+50)



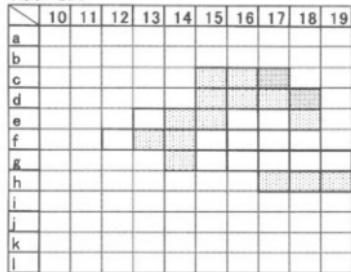
0 2:3 5cm

第23図 接合資料 (4)

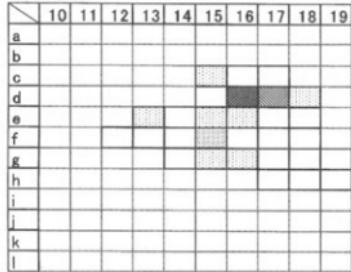
全破片



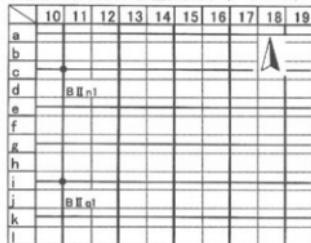
石質B破片



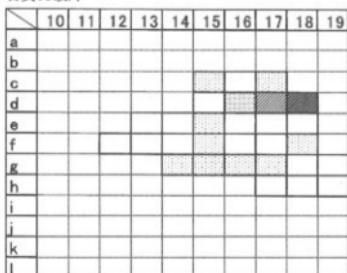
石質D破片



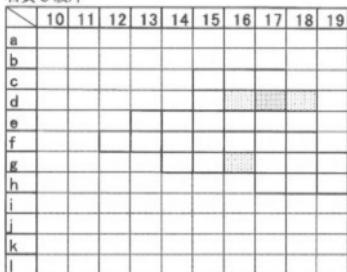
石器集中区区画と調査区区画（グリッド）との関係



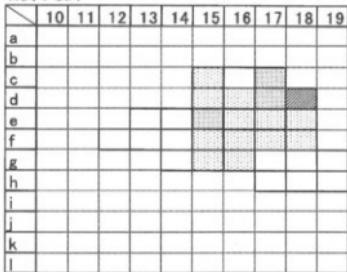
石質A破片



石質C破片



石質G破片



凡

1~5点
6~10点
11~15点
16~20点
21~25点
26~30点
31~35点
36~40点
41~45点
46~50点
50点以上

例

□ は土壤採取区画
2×2m

第24図 抽出破片出土数量分布図

5 産 状 分 析

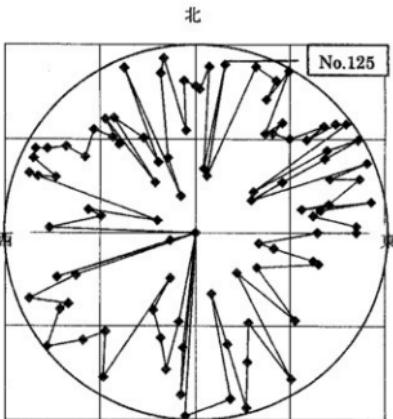
出土遺物が二次的な自然の営力を受けているかどうかを判定するために、遺物の取り上げ時にその印象の走向・傾斜を測定し、各々の遺物が定形的な配列を示すかどうか調べた。計測の際には菊池強一氏の指導により計測を行ったが、出土石器の主軸方向は全点計測していなかったため出土遺物の走向傾斜で図に表した。測定器にはクリノメーターを使用し、全点数222点中106点を測定し、第7表と第25図に表した。

取り上げ時の観察で、48点は腹面（主要剥離面）を底面とし、10点は背面を底面としていた。遺物の走向方向は北西—南東方向（NW系）と北東—南西方向（NE系）に大きく分けることができるが、その出現頻度に定向配列をしめす傾向はみられない。第25図の各点は石器の走向・傾斜を平面に投影したもので、走向は各点と中心を結ぶ線に直角に交わる線の方向で表される。傾斜は点の位置で示され、その方向は円周付近の方位で、その角度は中心が90度、円周が0度として円周に近づくほど小さくなる。図中No.125は走向がN80Wで、北に25度傾斜していることを示している。NW系走向の平均値は45度、NE系走向は46度、NW系走向の北傾斜の平均値は38度、南傾斜は43度、NE系走向の北傾斜の平均値は43度、南傾斜は50度である。

これらの結果から、①印象面は北側傾斜が南側傾斜（地形面傾斜方向）のものより多いこと、②南東傾斜（地形面傾斜面に直方方向）のものは比較的急角度であるものが多いことがわかる。河床礫が上流方向に傾斜する覆互構造を示すことは知られているが、この産状分析の結果からは自然の営力による影響を強く受けているかを判断できるほど特徴ある傾向を示しているとは考えられない。

遺物番号	走行	傾斜	主軸方向	遺物番号	走行	傾斜	主軸方向
10	N30W	355	222	116W	24NE	N90W	
13	H12E	655	224	N22E	38W		
14	N57W	225	226	N67S	18W		
20	H45E	694	227	N45W	40E		
23	N80W	635	240	N10E	42S		
32	N12W	696	244	N65W	37E		
38	N10W	20E	247	N82W	70N		
29	N44W	345	249	N25	18NW	N90W	
30	N44W	355	250	N45W	52S		
31	EW	28N	252	N45E	72S		
35	N80E	20N	256	N10E	60W		
37	N55E	42N	257	N87W	12S		
40	H74E	145	261	N55E	57W		
44	N10W	20N	262	N10E	17E		
47	N20E	26N	263	N60E	56S		
48	N32W	38E	270	N45W	45S		
50	N82W	62S	274	N45W	45N		
55	N75E	70S	275	N35E	45N		
60	N63E	65N	276	N70E	30S		
65	N30W	20N	277	N20E	20NW	N90E	
87	N20W	V	285	N22W	12SE	N70E	
89	N40W	40N	281	N30W	8N	N40E	
92	N20W	45S	282	N45E	36S		
93	N30W	20N	284	N45E	45NW	N90E	
95	N80W	V	288	N10E	70N		
98	N10W	40E	291	N65W	24NE	N90W	
97	N50E	52N	292	N20W	33NE	N90W	
98	N35W	65N	293	N70W	72S	N70E	
122	N80W	74S	295	N55E	70N	N20W	
125	N80W	25N	298	N55W	48N	N40W	
128	NS	30E	299	N40W	20NE	N40W	
134	NS	65S	302	N20W	20S		
135	N12W	44N	303	N34E	35N		
136	N45W	35S	304	N20W	20N		
146	N25W	26S	305	N30W	20N		
183	N20E	28N	307	N55W	50S		
192	N10W	40S	310	N35W	10W		
195	N12E	55W	311	N15E	48S		
188	N45W	V	315	N20E	40N	N90E	
174	N30W	38N	317	N20E	55S		
176	N20W	91S	319	N60E	42S		
197	N30S	65S	319	N74E	52S		
195	N88W	40N	320	N10E	70E		
208	N40W	40N	332	N30W	58N		
	N10E	20S	333	N45W	52S		
209	N05W	V	339	N45E	45S		
215	N05W	V	340	N10W	20W		
219	N60W	98E	342	N60E	70N		
221	N60W	42N	347	N50E	48W		
		348	N30W	40W			

第7表 産状計測一覧表



第25図 産状分布図

V 繩文時代以降

1 検出された遺構

本時期に所属する遺構は、陥し穴状遺構、土坑、掘立柱建物跡、溝跡、柱穴である。溝跡を除いて遺物は出土せず、その形状と埋土から時期を推定している。他の遺構と同様に昭和30年代の大規模な開墾で遺構上部は削平を受けているため、全体像は不明である。

(1) 陥し穴状遺構（第8表、第26~30図、写真図版13~18）

獲物を捕獲するためにつくられたと考えられる土坑を陥し穴状遺構とした。A区1基、C区3基、D区16基、E区4基で合計24基検出されている。いずれも高い調査区に分布している。遺物は出土せず、その形状と類例から繩文時代に属するものと判断した。

(形状) 平面形は溝状の形がほとんどである。楕円形～円形状が各1基（15・18号）である。削平を受けているが、開口部はほとんどの遺構がものと形状を保っているとみられる。一部崩落によりやや幅広になっていると推測されるものがある（16・25・502号）。下半部は前沢火山灰層の硬い粘土層に到達していることから残存状況が良好である。縦断面形状は両端の下半が張り出すものが約6割である。

(規模) 溝状のもの開口部長軸長は最大416cm、最小222cm、中央値319cm、平均値313cm、幅は最大87cm、最小45cm、中央値66cm、平均値68cmである。底部長軸長は最大430cm、最小194cm、中央値307cm、平均

第8表 陥し穴状遺構一覧表

遺構名	位置 地番/図	複数発見 数	形状	面積 (cm)		主軸方向	埋土	底面	備考
				平面	面高 (縦/横)				
4号陥し穴 E1層	-	1	溝状	方形状	352X72	325X16	88	N25W	赤褐色土と褐色土の混合層主体 下部は褐色土と白色土の混合層 底下部にルースな泥炭層+ 明褐色土と褐色土の混合層主体
10号陥し穴 E1層	-	1	溝状	台形状 V字形	375X55	413X23	97	N62E	赤褐色土と褐色土の混合層主体 底下部にルースな泥炭層+ 明褐色土と褐色土の混合層主体
12号陥し穴 E1層	-	1	溝状	奇形状 V字形	360X72	387X23	95	S67E	赤褐色土と褐色土の混合層主体
13号陥し穴 E1層	-	1	溝状	台形状 V字形	193X30	200X20	76	N13E	明褐色土と褐色土の混合層主体
14号陥し穴 E1層	-	1	溝状	奇形状 V字形	198以上	X50	205	N60W	褐色土と明褐色土との混合層主体 (平底)
15号陥し穴 C1層	-	1	楕円形状	楕円形 V字形	256X148	175X70	108	N68W	上部明褐色土、下部褐色土主体
16号陥し穴 C1層	-	1	溝状	奇形状 V字形	304X67	284X22	132	N62W	上部明褐色土、下部褐色土主体
17号陥し穴 C1層	-	1	溝状	台形状 V字形	222X50	273X22	93	N34W	明褐色土と褐色土の混合層主体
C1-225 E1層	-	1	円形状	V字形	155X150	68X36	133	S85E	上部明褐色土、下部褐色土主体
19号陥し穴 E1層	-	1	溝状	奇形状 V字形	257X47	302X25	78	N52W	明褐色土と褐色土の混合層主体 底下部にルースな泥炭層+明褐色土
20号陥し穴 E1層	-	1	溝状	方形状 V字形	252X56	265X23	85	S21W	明褐色土と明褐色土の混合層主体
C1-216 E1層	-	1	溝状	逆L形状 V字形	235X62	284X22	95	W	上部明褐色土と褐色土の混合層 下部褐色土と明褐色土の混合層
22号陥し穴 C1層	-	1	溝状	方形状 V字形	370X68	357X23	108	N52W	明褐色土と褐色土の混合層主体 底下部にルースな泥炭層
C1-18 E1層	-	1	溝状	方形状 V字形	275X80	278X26	90	N78W	明褐色土と褐色土の混合層主体
C1-14 E1層	-	1	溝状	奇形状 V字形	343X60	320X20	100	S68W	褐色土と明褐色土との混合層主体 下部褐色土+ルースな泥炭層
25号陥し穴 C1-12 E1層	-	1	溝状	逆L形状 V字形	227X73	194X18	88	N75W	褐色土主体、下部褐色+ルースな 泥炭層
C1-12 E1層	-	1	溝状	方形状 V字形	380X78	355X22	100	N49W	褐色土と褐色土の混合層主体
C1-011 SD07C E1層	-	1	溝状	奇形状 V字形	416X60	430X26	90	S77W	褐色土と褐色土の混合層主体 下部褐色土+ルースな泥炭層
C1-2 E1層	埋められ	1	溝状	方形状 V字形	318X52	318X16	100	N56W	上部褐色土+明褐色土と桃山の泥 合層、下部褐色土+ルースな泥炭層
C1-22 E1層	-	1	溝状	台形状 V字形	235X72	290X22	113	N76W	明褐色土+土砂層、下部褐色粘土層 入、下部褐色土+明褐色土
501号陥し穴 B1層	-	1	溝状	方形状 V字形	320X68	344X10	118	N53W	上部褐色土+土砂層、下部は褐色粘土層 底層同様に張り出
B1X3 E1層	-	1	溝状	方形状 V字形	274X80	227X16	140	N85W	褐色土主体で、上部は明褐色土 底層同様に張り出
B1X6 SD05C E1層	埋められ	1	溝状	方形状 V字形	370X50	370X10	123	N78W	上部明褐色土主体、下部に少い 褐色土+土砂層
507号陥し穴 B1層	-	1	溝状	台形状 V字形	362X80	364X17	103	S85W	下部にトネを含む明褐色土 底層同様に張り出

1 検出された遺構

310cm、幅は最大28cm、最小10cm、中央値20cm、平均22cmである。深さは最大140cm、最小78cm、中央値102cm、平均99cmであるが、削平されているため元の深さより最大40cm浅いとみられる。

(堆積土) 最下部層にルーズな黒褐色土～暗褐色土が堆積し、その上位に上部壁面から崩落した褐色～黄褐色土の混合土が、最上位層はほぼ黒褐色土がのっている。

(配置) 遺構は尾根状の微高地に分布する。微高地はほぼ南北方向に伸び、その東西両側に緩く傾斜し沢状の凹部につながる。長軸方向で配置を見ると、約2/3が東西～北西南東方向を示す。これはおよそ尾根状の連なりに対して直交する。

(2) 土 坑 (第9表、第30図、写真図版18)

陥し穴状遺構を除いた土坑検出数は4基と少なく、D区1基とE区3基である。過去の開墾で旧表土が削平されているためすべてII層が検出面である。構築時期を特定できる遺物は出土していない。時期、用途ともに形状や埋土から判断せざる終えないが、不明な点が多い。SK504は陥し穴状遺構の埋土と比較して縄文時代に属する可能性がある。SK10は底部付近まで暗褐色埋土が堆積することから風倒木等の自然作用による成因も考えられるが、調査区内で検出される多くの風倒木痕の特徴（平面形がドーナツ状やC字状を呈し、片側に黒褐色埋土が斜めに堆積する）からは積極的に断定できない。埋土からは近世以前と考えられる。SK501・504は黒褐色土や灰黄褐色土の埋土が溝跡の埋土に類似することから近世～近代に属すると考えられる。504は窪んだにぶい黄褐色土上に焼土粒を含む灰黄褐色土が堆積している。二次堆積焼土層の可能性が大きい。501には50～60cmの炭化木が出土した。

第9表 土坑一覧表

遺構名	位置	重複関係	平面形	長軸×短軸 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
SK10	CⅡh22	—	楕円形	188以上×150	70以上	暗褐色土と褐色土の混合土主体	西側の一帯が排水溝に延びているため調査できません
SK501	BⅡn2	—	楕円形	103×68	13	黒色粘土質シルト主体	底面で50～60cm長の炭化木出土
SK502	BⅡp2	—	円形	154×135	174	上部黒褐色土と暗褐色土主体 下部 褐色土主体 最下部裏塗地土	
SK504	BⅡq5	—	楕円形	143×100	45	にぶい黄褐色土～灰黄褐色土に炭化 物片・焼土粒混入	

(3) 掘立柱建物跡

D区の民家跡下から1棟検出された。本建物跡東側周辺では多数の柱穴が検出され、他の建物跡が存在していた可能性がある。なお、規模、柱穴間距離は柱痕跡中心間、もしくは柱穴中心間の測定値で表した。

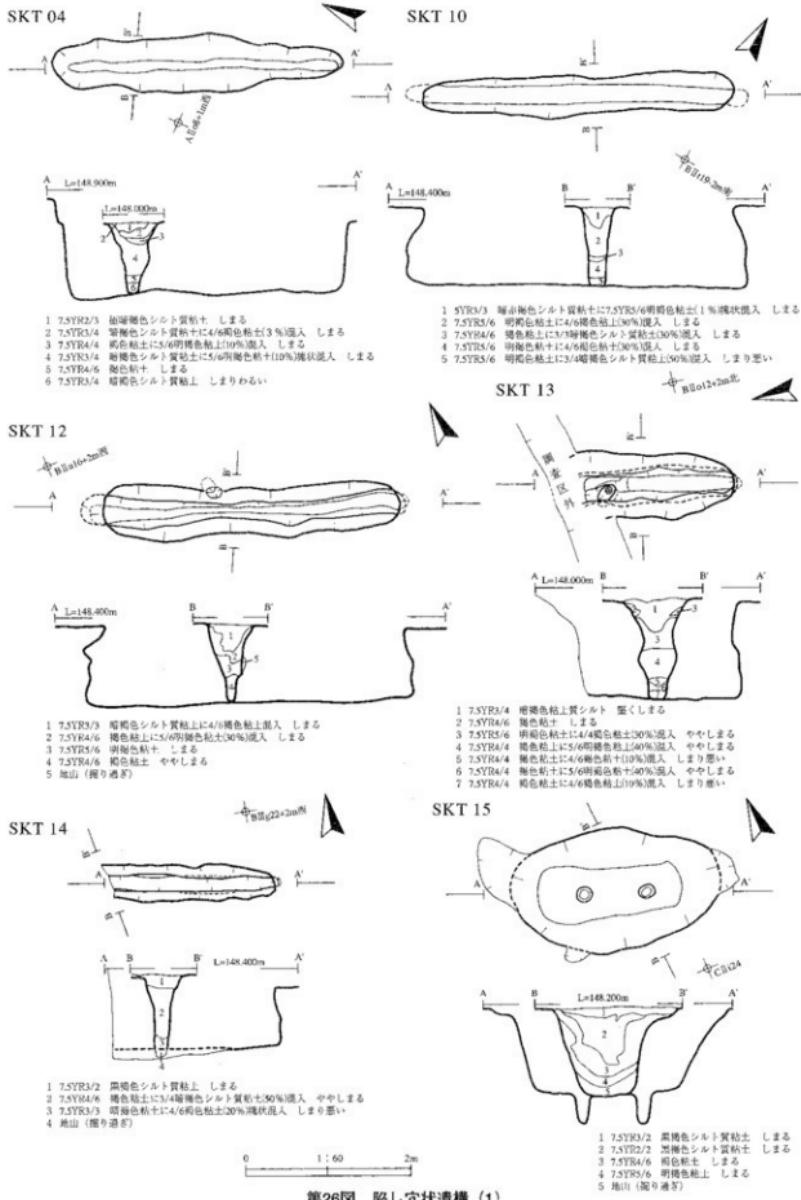
SB01掘立柱建物跡

遺構 (第31図、写真図版22)

[位置] 南側調査区(D区)のCⅡh14区付近に位置する。検出面はII層上面である。桁行が南北方向に延びるSD06に並行する。

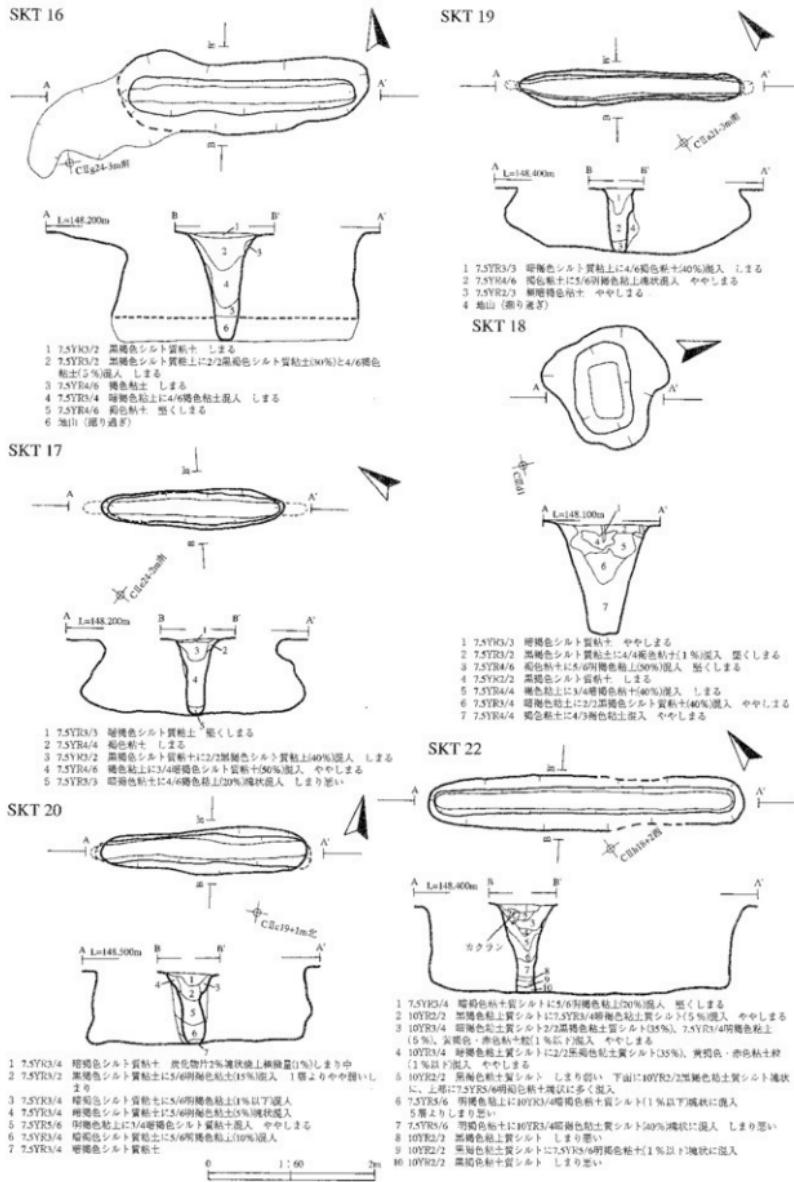
[平面形式・規模] 南北2間、東西1間の南北棟建物跡である。南北柱列は西側、東側とともに中央の柱穴が外側にずれ、さらに西側柱列が東側柱列より長く、全体として歪んだ形状となる。規模は南北柱列総長3.7～4.3m、東西柱列総長4.44～4.54mである。軸方位はほぼ南北。南北柱列の柱間は1.7～2.3mである。

[柱穴] 掘り方は円形ないし隅丸方形で、径32～49cm、深さ10～42cmの規模である。p2とp4で12～14

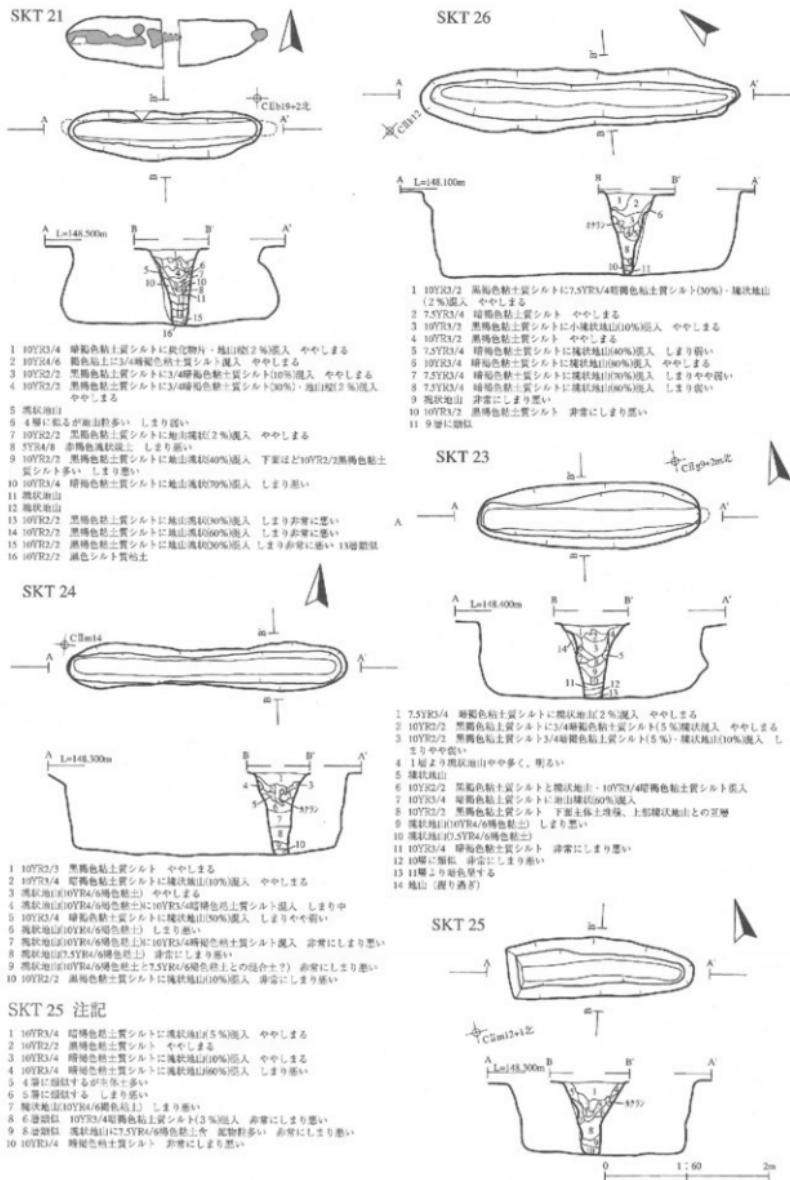


第26図 附し穴状遺構 (1)

1 検出された遺構

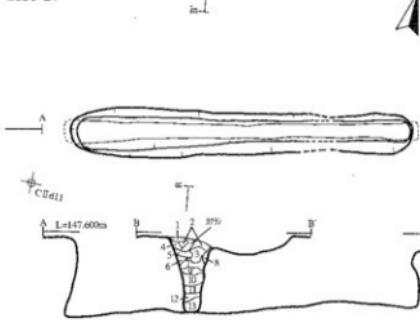


第27図 陥穴状遺構 (2)



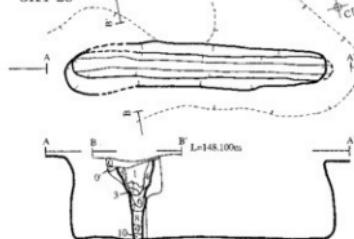
第28図 脇穴状遺構 (3)

SKT 27



- 1 7SYR4/4 黄褐色粘土 ややしまる
- 2 7SYR3/4 黑褐色粘土質粘土に7SYR4/4(褐色粘土15%)塊状混入 ややしまる
- 3 10YR2/2 黑褐色粘土質粘土に7SYR3/4(褐色粘土質粘土15%) 地山粒混状混入 ややしまる
- 4 混状地山 ややしまる
- 5 10YR2/4 黑褐色粘土質シルトに4/4(褐色粘土15%)混入 ややしまる
- 6 10YR2/4 黑褐色粘土質シルトに4/4(褐色粘土15%)混入 ややしまる
- 7 10YR3/4 黑褐色粘土質シルトに4/4(褐色粘土15%)混入 ややしまる
- 8 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに4/4(褐色粘土15%)混入 ややしまる
- 9 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに4/4(褐色粘土15%)混入 下部に炭化物層(しまり非常に悪い)
- 10 魔状地山(10YR4/6(褐色粘土)) しまり非常に悪い
- 11 魔状地山(10YR4/6(褐色粘土)) しまり非常に悪い
- 12 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト しまり非常に悪い
- 13 滅状地山(10YR4/6(褐色粘土) + 10YR4/6(褐色粘土)) しまる

SKT 28

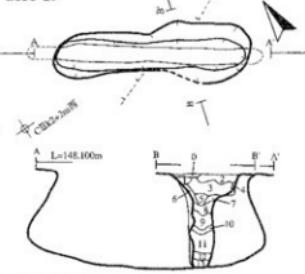


- 0 暗色粘土 a 下部至表面に炭化物層
- 0 暗色粘土
- 1 10YR2/4 黑褐色粘土質シルトに地山(10%)混入 ややしまる
- 2 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに地山(2%)塊状混入 ややしまる
- 3 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに地山(80%)混入 ややしまる
- 4 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに地山(80%)混入 ややしまる
- 5 10YR3/4 黑褐色粘土質シルトに魔状地山(80%)混入 ややしまる
- 6 魔状地山(10YR4/6(褐色粘土)) しまり非常に悪い
- 7 魔状地山(10YR4/6(褐色粘土)) しまり非常に悪い
- 8 魔状地山(10YR4/6(褐色粘土) + 7SYR4/6(褐色粘土)) しまり非常に悪い
- 9 魔状地山(7SYR4/6(褐色粘土) + 10YR4/6(褐色粘土)) しまり非常に悪い
- 10 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト しまり非常に悪い

SKT 502 注記

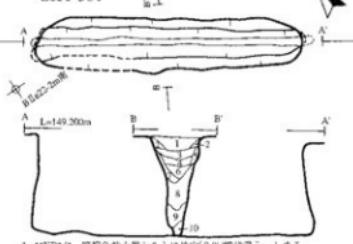
- 1 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに地山(1%魔状混入 ややしまる
- 2 10YR4/6 黑褐色粘土質シルト ややしまる
- 3 10YR4/6 黑褐色シルト しまる
- 4 10YR4/6 黑褐色粘土に地山(3%魔状混入 しまる
- 5 10YR4/6 黑褐色粘土上に地山(5%魔状混入 しまる
- 6 10YR4/6 黑褐色粘土 しまる
- 7 10YR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 8 7SYR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 9 10YR2/2 黑褐色粘土シルトに地山(3%魔状混入 しまる
- 10 7SYR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 11 10YR3/4 黑褐色粘土質シルト ややしまる
- 12 7SYR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 13 10YR2/1 黑褐色粘土シルトに地山(無地土3%魔状混入 ややしまる
- 14 10YR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 15 10YR5/6 黄褐色粘土 しまる 地山無地土
- 16 10YR4/4 黄褐色粘土 ややしまる 地山無地土
- 17 10YR4/4 黄褐色粘土 しまる 地山無地土

SKT 29



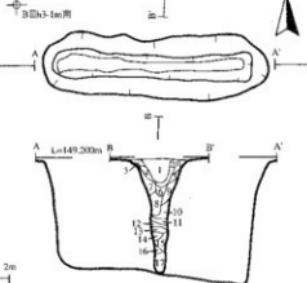
- 0 突起部 下部至表面に炭化物層
- 1 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに地山(2%)塊状混入 しまる
- 2 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに3/4(褐色粘土質シルト30%) 地山粉・地
下級混入 ややしまる
- 3 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに地山(2%)塊状混入 ややしまる
- 4 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに地山(90%)塊状混入 ややしまる
- 5 10YR2/2 黑褐色粘土質シルトに3/4(褐色粘土質シルト・地山連続混入
- 6 10YR4/6 黑褐色粘土質シルトに地山(80%)混入 ややしまる
- 7 10YR4/6 黑褐色粘土質シルトに地山(80%)混入 ややしまる
- 8 10YR4/6 黑褐色粘土質シルトに地山(80%)混入 ややしまる
- 9 10YR4/6 黑褐色粘土質シルト しまる
- 10 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト しまる
- 11 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト しまり非常に悪い
- 12 魔状地山 11番より褐色を呈する しまり非常に悪い
- 13 10YR2/2 黑褐色粘土質シルト しまり非常に悪い

SKT 501



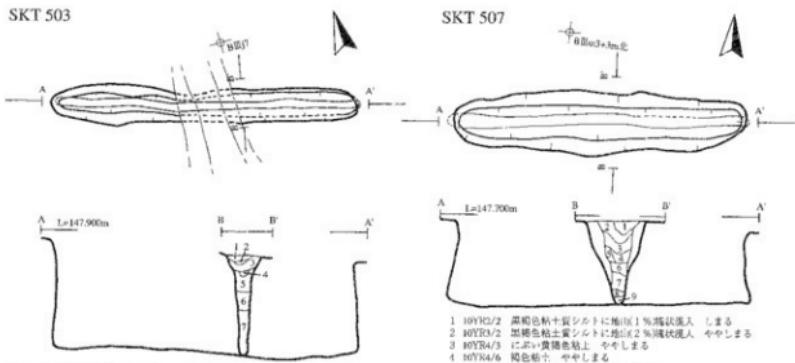
- 1 10YR3/2 同褐色粘土質シルトに地山(2%魔状混入 しまる
- 2 10YR3/2 にじむ黒褐色粘土上に地山(1%魔状混入 しまる
- 3 10YR3/4 黑褐色粘土上に地山(1%魔状混入 しまる
- 4 10YR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 5 10YR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 6 10YR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 7 10YR3/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 8 10YR4/6 黑褐色粘土 しまる 地山無地土
- 9 10YR4/6 にじむ黒褐色粘土 ややしまる 地山無地土
- 10 10YR3/3 疎離地盤に地山(無地土5%魔状混入 しまる

SKT 502

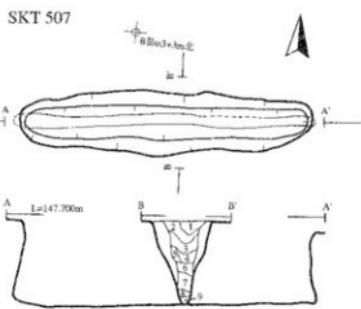


第29図 脱し穴状遺構(4)

SKT 503



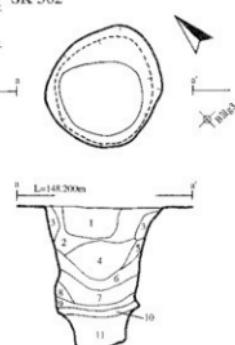
SKT 507



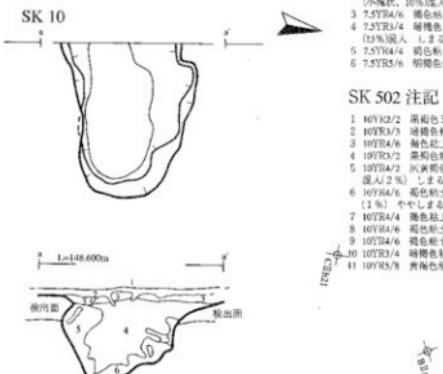
SK 10 注記

- 1 7.5YR3/3 黄褐色シルト質粘土に5%明褐色粘土
2 黄褐色粘土質シルト 壊くしまる 水面下
- 2 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土に4%明褐色粘土
(小塊状) 10%混入 壊くしまる 掘乱土
- 3 7.5YR4/6 黄褐色粘土 しる
4 7.5YR4/6 黄褐色シルト質粘土に4%明褐色粘土
(15%混入) しる
5 7.5YR4/4 黄褐色粘土 しる
6 7.5YR5/6 明褐色粘土 壊くしまる 地山

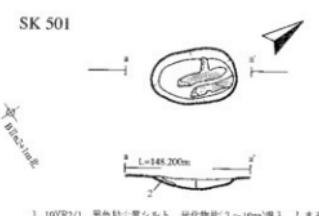
SK 502



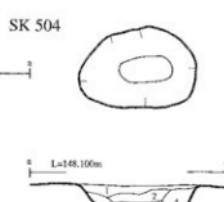
SK 10



SK 501

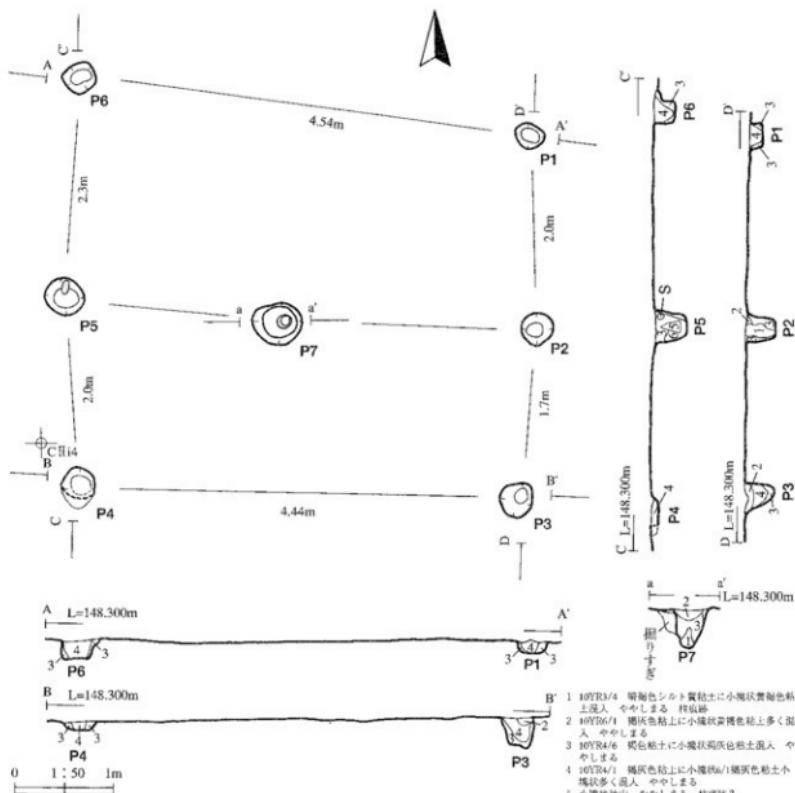


SK 504



0 1 : 60 2m

第30図 脱穴状遺構(5)・土坑



第31図 挖立柱建物跡

cmの暗褐色土ないし褐灰色土からなる柱痕跡が確認された。埋土は黄褐色土を含む褐灰色土である。

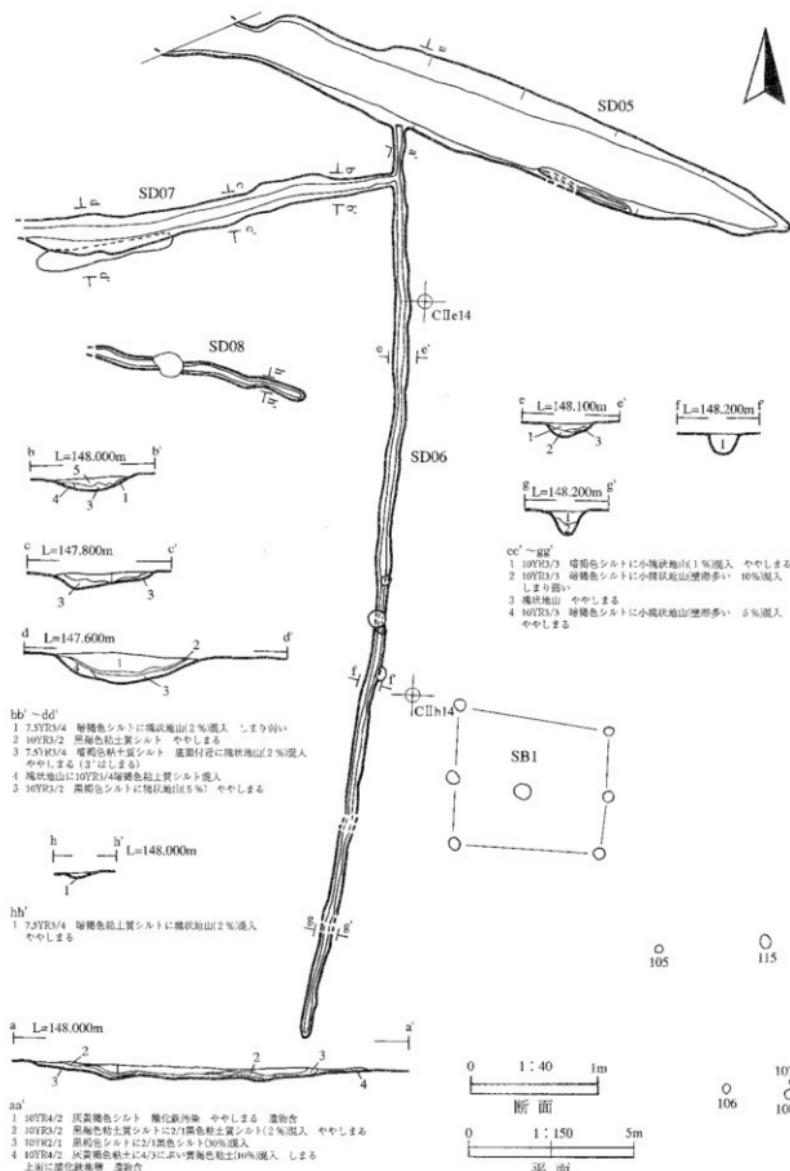
[遺物] 出土していない。

[時期] 近世の遺物を出土するSD05と同様の埋土を持つSD06に並行することから、同様な時期に属する可能性がある。

(4) 溝 跡

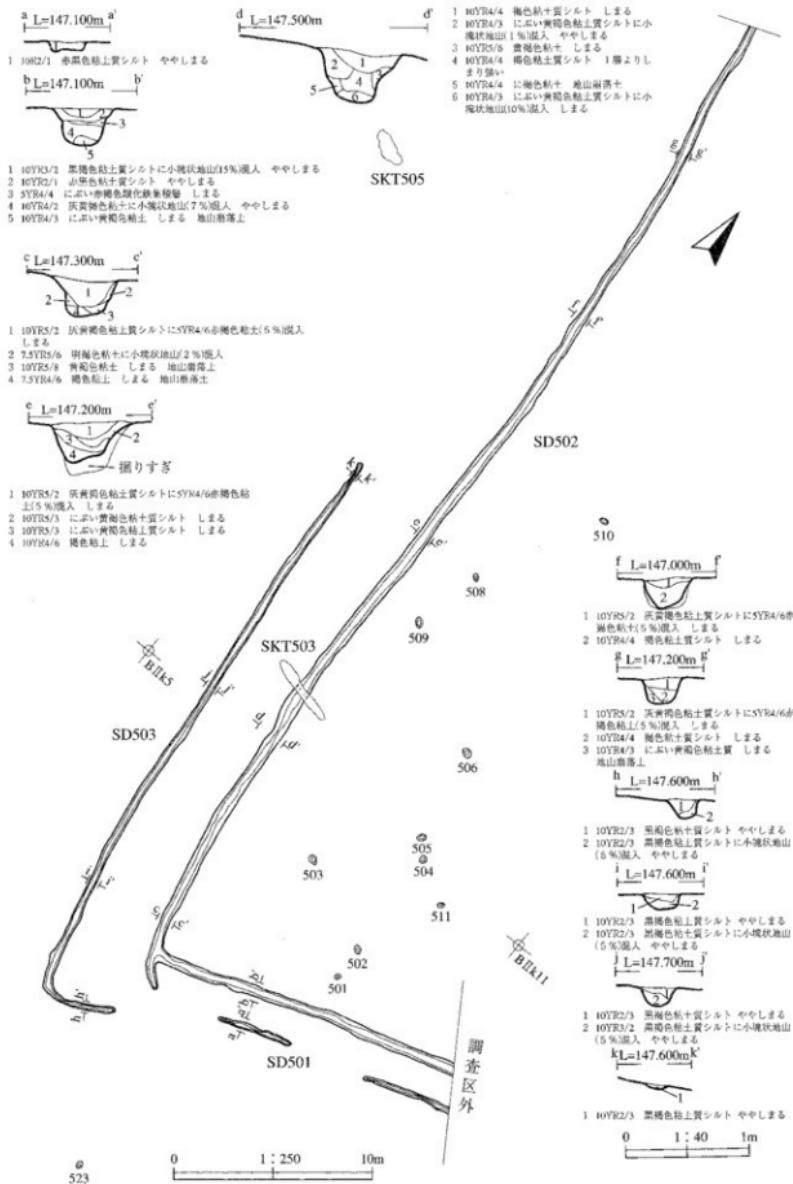
遺構（第32・33図、写真図版19～21）

D区ではSD05～08の4条の溝が検出された。SD05は幅が広く浅い。南東側に細くなり消失している。検出面の傾斜に従い東から西に向かって緩く傾斜している。SD06はSD05から分岐し、さらにSD07がSD06から分岐する。SD05から陶磁器片が出土した。他の溝からは出土していない。SD06の東側からは掘立柱建物跡や柱穴が検出されているが、その西側からは陥し穴状遺構以外検出されていない。

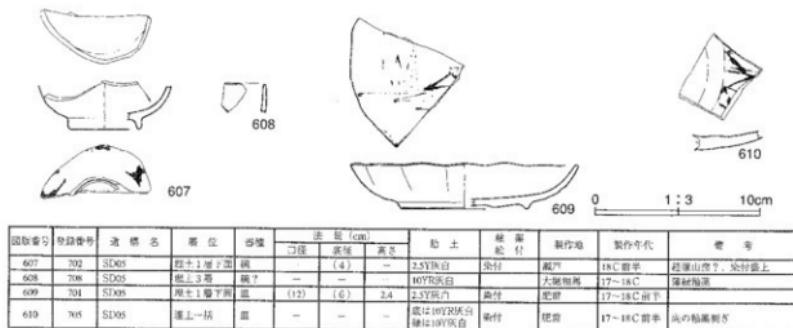


第32図 满跡(1)・柱穴状遺構(1)

1 検出された地層



第33図 溝跡(2)・柱穴状地層(2)



第34図 溝跡出土遺物

寸()欠損長

E区ではSD501~503の3条の溝跡が検出されている。検出面は過去の開墾で階段状に水田が造成されている部分であるが、東側の沢状の凹部に緩く傾斜している。SD502は開墾による消失を免れたが、SD503は北側で消失している。溝は北から南へ、さらに東へと傾斜する。SD502は不整な方形の区画がされていた可能性がある。この溝跡の東側で検出された柱穴状遺構と溝跡とのかかわりは不明である。SD503はSD502に併走しているが関係は不明である。いずれの溝跡からも遺物は出土していない。

遺物 (第34図、写真図版28)

SD505溝跡から4点の磁器片が出土している。702は磁器染付碗で、焼きが良くない。染付が盛り上る。705は磁器染付皿で、底の釉薬を丸く剥ぐ特徴がある。4点とも近世後半頃と考えられる。

第10表 溝跡一覧表

遺構名	調査区	走向	延長(m)	幅(m)	深さ(cm)	堆积土	埋積關係	時代	備考
SD505	D区	東西	18.45	2.25	9	上部灰褐色土、酵化鐵汚染 下部黑色土	SD506と同時期?	近世~近代	北西側調査区外に延びる 堆積中付近からSD506が南へ延びる
SD506	D区	南北	29.20	0.45	14	暗褐色土主体、小塊状地山混入	P101~104に切られる SD507と同時期?	近世~近代?	北側からSD507が西へ延びる
SD507	D区	東西	11.10	0.96	16	暗褐色土主体、小塊状地山混入	27号施し穴を切る	近世~近代?	SD506から延びる
SD508	D区	東西	6.45	0.38	7	暗褐色土主体、小塊状地山混入		近世~近代?	中央付近で伐採による擾乱受けける
SD501	E区	東西	8.75	0.30	7	赤紫色土		近世~近代?	SD502の突き出た部分に黒がると考えられる
SD502	E区	東西、南北	73.40	0.40	38	上部灰褐色土、下部に多い黄褐色土+粘土	503号施し穴に切られる	近世~近代?	区画溝か?
SD503	E区	東西、南北	35.60	0.20	15	黑褐色土主体、小塊状地山混入		近世~近代?	区画溝か?

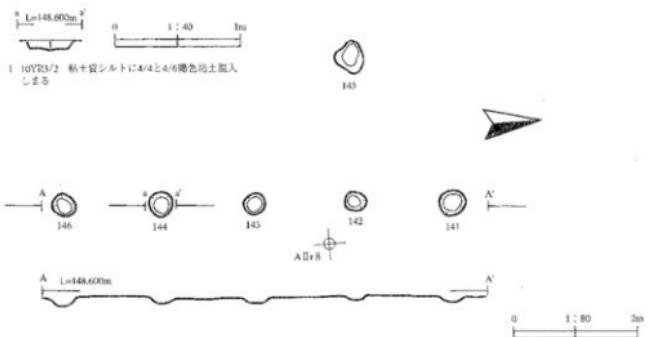
(5) 柱穴状遺構 (第11表、第32・33・35・36図、写真図版2)

直径が15~60cmの小土坑を柱穴状遺構として合計70個を登録した。建物跡として組めなかったが、柱穴と判断できるものの他に、柱穴以外の搅乱を誤認したものもあるかもしれない。時期を特定できるような遺物は出土していない。第11表に一覧を示した。

溝跡を検出したD区とE区で多く検出された。溝跡がつくられた時期と同じ可能性がある。A区の柱穴状遺構は南北棟の掘立柱建物跡の可能性があるが、西側の並びが後世の搅乱で消失したと見られ、全体像が不明であることから断定できなかった。

埋土はA: 黒褐色土に塊状地山が少量含 B: 黑褐色土、検出面に径数cmの礫、その下位に埋土数cm C: 黑褐色土に塊状地山微量含 D: 黑褐色土に塊状地山極微量含 E: 黑褐色土+暗褐色土に塊状地山(不鮮明) 少量含 木痕? F: 黑褐色土に塊状地山多量含 G: 黑褐色土 H: 黑色土に塊状地山少量混入 に区別している。

1 検出された遺構



第35図 柱穴状遺構 (3)

第11表 柱穴状遺構一覧表

No	調査区	規模(cm) 長軸 短軸	深さ (cm)	底部標高 (m)	埋土	備考	No	調査区	規模(cm) 長軸 短軸	深さ (cm)	底部標高 (m)	埋土	備考
101	D	30 28	187	186.6	A		136	D	24	24	162		A
102	D	49 46	180	180.3	A		137	D	29	23	162		C
103	D	55 28	194	193.6	F		138	D	25	22	154		A
104	D	41 34	188	188.1	F		140	D	24	24	145.5		A
105	D	24 22	151	151.0	A		141	A	42	37	123		B
106	D	30 25			B		142	A	35	30	114		C
107	D	19 18			B		143	A	39	34	120		D
108	D	29 27			B		144	A	40	36	120		E
109	D	25 24			B		145	A	53	43	129		F
110	D	17 16			B		146	A	40	36	10		G
111	D	20 19			B		501	E	68	44	116		H
112	D	29 29	167	166.5	C		502	E					I
113	D	24 11	142	142.0	A		503	E	40	37	228		J
114	D	20 19			D		504	E	36	28	250		K
115	D	49 40	142	141.6	B		505	E	36	32	268		L
116	D	35 33	146	146.0	E		506	E	50	39	245		M
117	D	26 21	139	139.1	D		507	E	48	30	238		N
118	D	38 34	161	160.6	A		508	E	34	24	224		O
119	D	28 26	147	148.5	A		510	E	37	22			P
120	D	33 26	160	160.0	A		511	E	36	23	252		Q
121	D	32 24	149	149.0	A		512	E	40	34	116		R
122	D	27 26	150	150.0	A		513	E	52	36	103		S
123	D	47 36	151	150.5	C		514	E	41	28	103		T
124	D	36 32	168	168.0	A		515	E	41	33	126		U
125	D	31 27	151	151.0	A		516	E	28	20	110		V
126	D	30 28	176	176.0	A		517	E	30	22	99		W
127	D	28 27	156	156.0	C		518	E	60	30	97		X
128	D	20 19	144	143.5	A		519	E	50	30	100		Y
129	D	15 13	146	145.5	A		520	E	34	22	102		Z
130	D	26 18	148	148.0	A		521	E	25	24	131		
131	D	30 20	165	164.5	A		522	E	49	38	148		
131'	D	32 25	149	149.0	A		523	E	35	27	198		
132	D	28 27	160	160.0	F		525	E	60	36	131		
133	D	28 24	166	166.0	F		526	E	39	26	99		
134	D	24 23	163	162.5	A		527	E	39	16	102		
135	D	30 25	163	163.2	D								



第36図 柱穴状遺構 (4)

VI 遺構外出土遺物

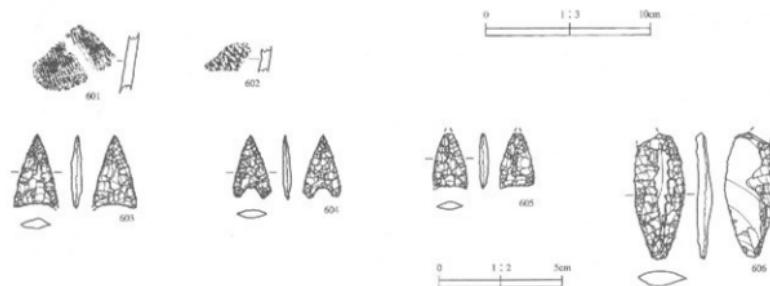
約18,000m²を調査したにもかかわらず遺物はほとんど出土しないに等しい。約8割が水田であるが、残り2割の民家敷地であっても人の手が加わっていることから、元位置を留めず盛土内に混入または離れた場所に運ばれた可能性が大きい。試掘や粗掘で盛土から出土した遺物は土器片が7点、石器が4点、検出・精査で出土した遺物は風倒木埋土の黒褐色土から出土した土器片が10点だけである。土器片はいずれも表面の風化がすんでいて鮮明に文様が見えるものが少ない。土器片は大きさや風化の度合いから掲載できるものはわずかに数点である。

1 土 器 (第37図、写真図版28)

601・602ともに斜縄文の土器片である。602は胎土に植物纖維を含む。所属時期は、601は文様が不鮮明なため、その胎土と焼成状況から縄文時代後晩期頃と、602は胎土に植物纖維を含むこと、器厚がやや厚いことから縄文時代前期頃と考えられる。

2 石 器 (第37図、写真図版28)

石器は4点のみ出土した。603～605は石鏨で、604は基部の抉りが大きい。石質はすべて頁岩である。606は摘み部が欠損しているが、形状と調整方法から鍛型の石匙と考えられる。石質は頁岩である。



団体番号	登録番号	出土地点	層位	形種	部位	外觀文様	内部構造	器厚mm	備考
601	500 ALK	試削木	胎土上部	直鉢	側	BL? 不鮮明	++	7	
602	501 CER	風倒木	胎土上部	直鉢	側	BL?	++	8	植物纖維混入
603	600	石鏨	C地区	10	30 (18)	4	1.58	頁岩	石体茎冠欠損
604	601	石鏨	D/S	10	25.5	15	3	0.83	頁岩
605	602	石鏨	B市區西水田	10	(22) (14)	3.5	1.01	頁岩	先端部、左側基部欠損
606	603	石匙	D/S	10	(51.5)	21	6	0.14	頁岩 抜み形、体部先端欠損

* () 欠損長

第37図 遺構外出土遺物

VII まとめ

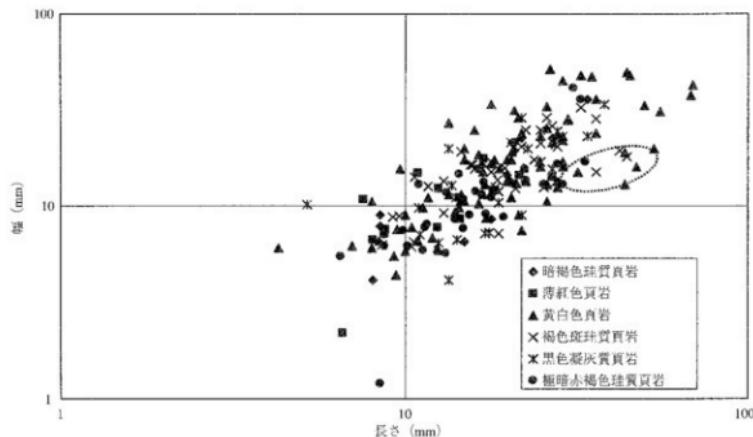
調査結果から本遺跡は後期旧石器時代、縄文時代、近世頃の生活の痕跡を残す場所であることが明らかとなった。以下に旧石器時代についてのみ若干のまとめを行った。

1 土層

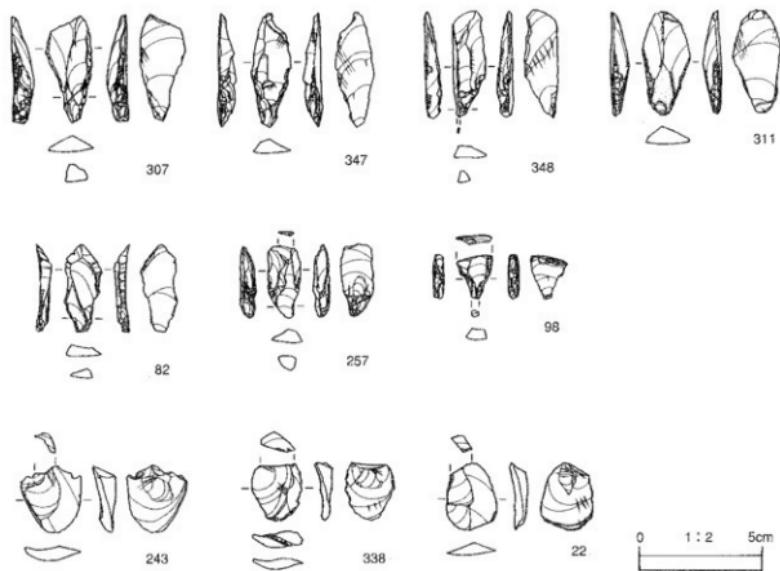
胆沢扇状地上には降下火山灰が堆積し、遺跡がのる上野原段丘上には前沢火山灰上部層と黒沢尻火山灰層が堆積していることがこれまでの調査で明らかにされている。西側に位置する上萩森遺跡付近、大清水上遺跡から本遺跡周辺の小田切にかけて土層対比を行い（写真図版3）、旧石器時代の遺物出土層位が明らかに黒沢尻火山灰層上部層であることが確認された。また、2つの火山灰層の斜交関係を確認し、前沢火山灰層上部層との層界直上にのる小塊状の山形軽石層を層位的にとらえることができた（第3図③-9層、⑧-5層、写真図版3）。西方の露頭では広域火山灰や前沢火山灰中部～下部層にかけての鎌火山灰層を肉眼でも確認できるが（写真図版3）、本遺跡周辺では明瞭には確認できない。石器集中区南端脇に東西方向のトレーナーをあけ、灰白粘土直上（水中堆積）の褐色火山灰質土から遺物検出面にかけて出土層位を観察した（第3図⑥、写真図版5）。前沢火山灰層と黒沢尻火山灰層との斜交関係が確認され、斜交の大きい窪みに山形軽石層（5層）の薄層が確認された。その上位の火山灰層では火山ガラス質な部分をわずかに観察できるだけで肉眼ではそれ以上の特徴を確認できないため、第3図⑥（サンプルA～C）と石器集中区内d18付近から20cm四方の柱状試料を採取し、京都フィッシュショントラックで分析した。附編のように分析項目は全鉱物組成、重鉱物組成、火山ガラス形態分類、火山ガラス屈折率、斜方輝石の屈折率の5分析である。第4図基本土層区分では試料CがⅢ層、試料BがⅡg2層、試料Aと下部ブロックがⅡg1層、上部ブロックがⅡ1層である。これらの試料から同定された火山灰は、北原火山灰（Kth）？、鳴子荷坂火山灰（Nr-N）？、鳴子柳沢火山灰（Nr-Y）？、焼石村崎野輕石（Yk-M）？、焼石山形軽石（Yk-Y、50～60Ka）？、十和田八戸火山灰（To-H、15Ka）？である。Kth、Nr-N、Nr-Y、Yk-Mは全試料から検出され、Yk-YはⅡg2層以上で、To-HはⅡg1層以上で検出された。このことからYk-YはⅡg2層に、To-HはⅡg1層に包含される可能性が高いとされた。

石器検出初期と最後期に石器包含層で出土した炭化物片の年代測定（AMS測定）を行った。試料採取時は汚染等を考慮して、明らかに表土からの染み込みとみられるものは除外して行った。附編の測定一覧表より#599-1は検出初期にg15付近で、残りは最後期にd17付近で採取したものである。前者よりは後者の採取深度は深い。結果は#599-1が約7,800年前BP、#705-1と#705-2が約3,500年前BPと約2,200年前BPである。

これらの分析結果は、野外における上層対比から同定される鎌火山灰層層準や後述する出土石器から推定される年代とは調和的ではなく、単純に出土石器の所属時期を決定できない。分析値は試料に対して正直な値であるから、他の判断材料とあわせて妥当な解釈が必要とされる。出土石器は主に明褐色土中からまとめて出土している。水田表土直下が検出面で、垂直分布図でみると上限がきれいな直線であり、開墾時の削平状況を表していると考えられる。出土層は火山灰質土であり、乾燥時には亀甲状の割れ目が生じている。この割れ目から客土などが混入することは十分に考えられることで、採取にあたり十分に注意したつもりでも炭素年代が若く出た理由がここにあるのかもしれない。前述したことは現代の擾乱等による汚染であるが、石器が放棄される以前、以後の自然作用や人為的な作用による擾乱・汚染は、現時点では証明できないものの十分に考えられることである。



第38図 旧石器時代出土遺物長幅比



第39図 旧石器時代出土遺物集成図

2 出土遺物

観察表に掲載された石器計測値の平均は、長さ20.2mm、幅15.8mm、厚さ6.78mmで寸詰まりの剥片が多い。第38図は長さと幅の関係をしたもの（対数目盛）である。約87%の石器が長さ30mm内に納まり、長さと幅の差はそれほどない。点線の楕円中にはナイフ形石器が多く、縦長素材を使用していることが分かる。この縦長剥片はナイフ形石器以外にその素材となりうる剥片が1点出土したのみで、遺跡外から持ち込んだ可能性が大きい。石材は良質な頁岩は少なく、遺跡周辺に分布する中新統～鮮新・更新統が露出する河川沿い露頭の転石や河床礫を使用している可能性が大きい。第38図を石質ごとに見ると、石質A（黄白色頁岩）がやや分散傾向にあるが、他の石質とほとんど同じ長幅比である。石器の組成はナイフ形石器、台形様石器、微細剥離のある剥片、使用痕のある剥片で構成される。第39図はナイフ形石器と台形様石器の集成図である。ナイフ形石器は縦長剥片を素材としている。腹面の剥離方向に対して背面の剥離方向は斜交するものが多い。打面側を基部とし、打面を残すものは2点だけである。基部側が括れ、腹面から急斜度の調整が施されている。長さは29～47mm、幅は13～20mm、厚さは4.5～7.5mmである。台形様石器は表面の平らな石核面と裏面主要剥離面で鋭い縁辺が形成され、その縁辺には使用痕と見られる微細な刃こぼれが認められる。同様な形態を持つ剥片間で接合はしなかった。338には打面と対応する末端に2次加工が加えられている。遺跡内から出土している残核は3点のみであり、いずれの石核にも剥片が接合しなかった。これらの残核からは同一方向に剥離するのではなく、第14図357、第15図302は打面を90度転位し、第15図301では求心的な剥離を行っている。

3 周辺の遺跡との比較

本遺跡周辺では同町内の上萩森遺跡、近隣の金ヶ崎町柏山館跡や湯田町峰山IA遺跡などで同様な形態的特長をもつ石器が出土している。上萩森遺跡では淡黄褐色ガラス質火山灰層（IIb層）で小形の幅広な剥片が、ペン先状ナイフ形石器、台形様石器、搔器、打製石斧とともに出土している。IIb層は黒褐色土I層と山形軽石層III層の間に介在する褐色～淡黄褐色粘土層で、II層下部のガラス質火山灰層とされた。柏山館跡遺跡では淡黄褐色ガラス質火山灰層（IIb層）から台形様石器、搔器、剥片、敲石などが出土している。IIb層はAT層を最下部層にもつIIa層に覆われている。本文化層は求心状剥離を基本とする厚手の幅広縦長剥片を主体としている。峰山IA遺跡ではレンズ状のガラス質火山灰層（IIb層）から求心状剥片を素材とした台形様石器と石核および剥片が出土している。IIb層は黒色～黒褐色土I層と褐色～明褐色土III層の間に介在する褐色～明褐色火山灰質粘土層で、上部にはAT層が介在し、出土石器はその下部IIb層のガラス質テフラとされた。IIa層上部～IIb層最下部から採取した木炭片の放射性炭素年代は、 $30,500 \pm 1,190$ y.B.P.と測定されている。

二の台長根遺跡でも同様な層準のガラス質火山灰層で遺物が出土している。ナイフ形石器は上萩森遺跡出土のものより大きめであるが、腹面の剥離方向に対して背面の剥離方向が斜交する特徴が類似する。また、一部に原石面を残す寸詰まりの剥片など、3遺跡から出土している剥片の大きさや形態も類似する。

これらのことより、二の台長根遺跡で出土している石器群は、上記の3遺跡から出土しているものと同様な時期に属するものと考えられる。

4 線刻状跡について

本遺跡内石器集中区縁付近で、表裏面に円形～楕円形状の線刻状のキズがある小円碟が出土した。出土当初は穿孔途中のものであることを考えたが、近隣の岬山ⅠA遺跡出土の装飾品や北海道柏台1遺跡出土の琥珀玉では穿孔痕が明瞭に観察されること、この線刻状跡が穿孔途中としても一個体しか確認されなかつたことなどから考えると穿孔ではなく、むしろなんらかの意味を持つ線刻である可能性が高いと判断した。しかしながら、線刻幅が0.5mmと細く精巧であるが、それ以上のことを観察・分析できない状況にあっては、人工的か自然の作用によりできたのかは判断できない。今後の発掘例や新しい分析方法に期待したい。

引用・参考文献

- 阿部義平 1993 「上黒岩の線刻理」『考古ジャーナル』358 pp.25-27
- 阿部祥人 1995 「お仲間林遺跡の研究」慶應義塾大学
- 大上和良他 1984 「北上川中流域、胆沢原状地における火山灰層序」岩手大学工学部研究報告37 pp.69-81
- 菊池強一 1988 「上秋森遺跡調査報告書」埋蔵文化財調査報告書第19集 岩手県胆沢町教育委員会
- 菊池強一他 1996 「柏山原跡発掘調査報告書」岩文振報告書第242集（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 高橋義介他 1999 「岬山牧場Ⅰ遺跡A地区発掘調査調査報告書」岩文振報告書第291集（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 寺崎康史 「旧石器時代の垂飾と玉」『季刊考古学』 pp.47
- 長沼 孝 1993 「北海道の垂飾と玉」『考古ジャーナル』358 pp.9-14
- 深沢卓司他 2003 「蛭山Ⅱ遺跡」埋蔵文化財調査報告書第5集 岩手県深沢内村教育委員会
- 松沢雅生 1993 「旧石器時代の線刻縫」『考古ジャーナル』358 pp.2-8

第12表 石器観察表(1)

通報 番号	カタマ 名	種類	石種 分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	座標値(半歩)			種類	備考	図版 写真
								X(m)	Y(m)	Z(m)			
2/1/10	使用痕のある削片	直角	石質	C 29.0	23.0	10.0	4.90	-0.695	5.934	146.563			第169回 第259回
10/1/10	直角	直角	石質	F 14.9	7.8	3.3	0.25	0.677	6.259	146.558			
10/1/16	破片	直角	石質	C 11.5	7.8	3.0	0.25	0.677	6.259	146.558			
13/1/8	削片	直角	石質	C 8.5	7.8	1.6	0.08	1.657	10.077	146.558			
14/1/8	削片	直角	石質	A 55.0	31.0	21.0	26.97	1.784	10.054	146.529	○	JpNo.266	21, 27
15/1/7	削片	直角	石質	A 20.7	19.2	9.7	2.72	3.476	7.668	146.563			17, 26
17/1/17	破片	直角	石質	G 8.7	7.1	1.6	0.09	3.188	8.221	146.565			焼痕斑
18/1/17	破片	直角	石質	E 5.0	3.0	5.0	28.97	2.626	8.528	146.569			
20/1/17	削片	直角	石質	D 14.8	19.1	2.9	0.44	3.172	10.257	146.576			
21/1/17	削片	直角	石質	A 68.0	36.0	17.0	24.47	1.738	10.387	146.562			焼痕斑
22/1/17	削片	直角	石質	B 27.5	21.0	7.5	2.77	3.467	13.983	146.583			台形様
23/1/17	破片	直角	石質	A 8.1	6.7	1.5	0.08	2.794	14.396	146.539			
24/1/17	削片	直角	石質	A 20.5	17.5	9.0	1.15	2.958	14.557	146.587			
25/1/17	破片	直角	石質	A 12.0	6.8	2.4	0.14	2.225	14.569	146.582			
26/1/17	削片	直角	石質	F 17.9	8.5	4.6	0.69	2.203	14.523	146.580			
27/1/17	削片	直角	石質	A 69.0	43.0	24.0	39.66	3.719	14.821	146.584			22, 27
28/1/17	削片	直角	石質	A 18.0	34.0	17.0	22.57	3.722	14.843	146.586	○	JpNo.274	22, 28
29/1/16	削片	直角	石質	A 53.0	29.0	17.0	19.24	4.047	16.122	146.590			21, 27
30/1/16	削片	直角	石質	F 34.0	36.0	17.0	11.98	4.306	16.078	146.575			夏石面模
31/1/16	削片	直角	石質	A 20.5	11.0	3.0	0.57	4.451	16.197	146.567			14, 24
32/1/16	破片	直角	石質	A 11.7	11.0	3.2	0.29	5.446	16.085	146.589			
33/1/16	削片	直角	石質	C 17.6	13.5	6.7	1.19	5.339	14.745	146.586			
34/1/16	削片	直角	石質	D 16.0	15.5	8.5	1.13	5.316	14.468	146.598			16, 26
35/1/16	削片	直角	石質	A 18.0	17.0	7.0	1.95	5.326	14.604	146.594			23, 28
36/1/16	直角剥離のある削片	直角	石質	D 25.0	18.0	7.0	1.00	4.461	15.635	146.602			16, 25
37/1/16	削片	直角	石質	A 24.6	17.2	11.6	3.12	5.208	12.832	146.602			
38/1/16	使用痕のある削片	直角	石質	C 24.0	17.5	9.0	2.57	5.312	12.788	146.603			16, 25
40/1/16	直角剥離のある削片	直角	石質	E 31.0	25.5	9.0	5.66	4.032	12.512	146.597			
41/1/16	直角剥離のある削片	直角	石質	D 13.0	13.5	4.3	0.43	4.16	11.724	146.595			
42/1/16	削片	直角	石質	D 10.5	6.1	2.5	0.13	4.275	11.364	146.607	○	JpNo.302	13, 23
43/1/16	削片	直角	石質	A 22.0	18.0	7.0	1.64	4.18	10.474	146.592			
45/1/16	削片	直角	石質	A 29.0	17.0	7.0	2.19	5.052	9.416	146.590			
46/1/6	直角剥離のある削片	直角	石質	E 30.0	15.0	9.0	4.52	4.938	9.388	146.571			17, 26
47/1/6	削片	直角	石質	C 21.1	12.5	8.0	1.72	4.745	8.762	146.541			
48/1/6	合成立	直角	石質	— 189	173.0	199	47.00	5.679	8.647	146.612			17, 26
50/1/15	削片	直角	石質	A 10.0	14.8	2.7	0.32	6.748	14.587	146.559			
55/1/15	破片	直角	石質	B 20.0	20.5	7.0	3.20	6.854	14.449	146.562	○	JpNo.35 無石面地	23, 28
57/1/15	破片	直角	石質	D 10.6	6.5	1.9	0.09	5.674	11.919	146.569			焼痕斑
59/1/15	削片	直角	石質	D 31.0	41.0	16.0	9.57	7.558	8.648	146.499			16, 26
63/1/15	削片	直角	石質	A 44.0	49.5	11.0	22.16	6.916	7.727	146.495			夏石面模
65/1/15	削片	直角	石質	A 32.5	36.0	9.5	9.88	6.312	7.413	146.443	○	JpNo.334	23, 28
65/1/15	削片	直角	石質	A 18.5	12.0	4.0	0.56	7.412	7.316	146.423			焼痕斑
69/1/14	使用痕のある削片	直角	石質	G 18.0	11.5	4.0	0.47	7.742	16.286	146.422	○	JpNo.167	14, 24
71/1/14	使用痕のある削片	直角	石質	D 36.0	28.5	13.0	4.13	8.815	9.645	146.450			
75/1/13	削片	直角	石質	A 25.0	16.0	7.5	1.85	10.874	10.293	146.381			14, 24
78/1/13	削片	直角	石質	A 27.0	14.1	5.1	1.37	10.811	9.593	146.416			
80/1/13	削片	直角	石質	B 17.2	7.2	2.0	0.25	10.314	9.309	146.384			
81/1/12	削片	直角	石質	D 20.5	21.4	13.4	3.11	12.542	9.742	146.435			
83/1/13	アノマ形石器	直角	石質	C 38.0	15.0	6.0	2.01	12.416	9.473	146.302			16, 25
86/1/17	削片	直角	石質	A 14.0	13.5	2.8	0.30	11.623	9.475	146.454			
87/1/16	削片	直角	石質	A 26.0	10.5	3.0	0.78	3.093	14.865	146.545			13, 24
88/1/16	削片	直角	石質	G 28.2	22.9	13.6	7.02	7.702	13.871	146.539			
89/1/16	削片	直角	石質	A 15.0	10.5	6.5	0.99	1.471	14.814	146.554	○	JpNo.92	
90/1/16	削片	直角	石質	A 14.4	11.1	3.0	0.27	1.159	14.98	146.564			
91/1/16	削片	直角	石質	A 14.0	9.3	5.5	0.49	1.682	15.057	146.580			
91/1/16	削片	直角	石質	A 8.0	10.5	3.5	0.79	2.117	14.255	146.525	○	JpNo.88	
93/1/17	削片	直角	石質	A 17.0	11.0	3.0	0.89	2.417	14.065	146.544			13, 24
94/1/17	削片	直角	石質	G 19.5	6.7	3.9	0.55	2.951	11.167	146.569			
97/1/18	削片	直角	石質	A 17.3	6.8	4.9	0.60	1.44	12.01	146.518			
98/1/18	アイフ形石器	直角	石質	C 18.0	15.0	4.5	1.13	1.53	11.882	146.498			16, 25
104/1/17	削片	直角	石質	A 21.5	29.0	10.0	4.35	3.519	14.573	146.564			
106/1/17	削片	直角	石質	D 20.7	13.1	7.8	1.85	3.403	14.518	146.559			
111/1/13	直角	直角	石質	A 19.3	11.9	4.5	1.18	11.773	10.126	146.451			
112/1/13	直角	直角	石質	A 19.0	13.4	5.0	1.20	11.723	10.152	146.452			
113/1/13	削片	直角	石質	A 16.5	16.7	4.7	0.49	16.32	8.774	146.373			
116/1/13	使用痕のある削片	直角	石質	C 27.0	26.0	9.0	4.95	12.741	4.668	146.362			
117/1/14	削片	直角	石質	A 17.1	17.7	6.3	1.66	9.138	14.676	146.515			16, 25
124/1/17	削片	直角	石質	A 10.9	7.7	5.6	0.26	2.717	14.338	146.514			
125/1/17	削片	直角	石質	D 22.7	24.6	12.5	4.71	3.798	8.496	146.584			
126/1/17	削片	直角	石質	A 15.0	20.0	5.5	1.41	3.659	14.338	146.529			
127/1/16	削片	直角	石質	B 11.5	8.0	7.6	0.45	5.355	8.812	146.516			
131/1/16	破片	直角	石質	A 7.6	10.8	3.5	0.21	4.516	12.771	146.570			
132/1/16	破片	直角	石質	B 8.8	6.3	3.0	0.10	4.119	11.147	146.550			
133/1/16	破片	直角	石質	D 9.6	8.8	5.5	0.39	4.270	11.688	146.557			
134/1/16	微細剥離のある削片	直角	石質	G 22.5	15.5	4.0	0.81	4.037	12.496	146.599			17, 26
135/1/16	微細剥離のある削片	直角	石質	D 25.0	25.0	5.5	3.95	4.506	13.522	146.557			16, 26
137/1/16	削片	直角	石質	A 8.8	7.5	3.1	0.58	3.987	13.379	146.605			
138/1/16	削片	直角	石質	G 15.0	11.5	7.2	1.68	3.21	15.263	146.533	○	JpNo.202	
139/1/16	削片	直角	石質	F 9.8	9.6	2.6	0.14	4.419	11.975	146.542			
139/1/16	削片	直角	石質	A 12.5	7.7	4.5	0.28	3.207	9.943	146.491			
140/1/14	破片	直角	石質	B 5.2	10.1	1.1	0.06	8.406	9.299	146.413			
142/1/15	削片	直角	石質	G 17.1	13.2	4.6	0.99	7.707	7.164	146.399			
143/1/12	使用痕のある削片	直角	石質	A 17.0	15.0	3.0	0.38	12.249	10.83	146.260			14, 24
144/1/19	破片	直角	石質	B 14.2	6.7	2.6	0.18	6.097	16.811	146.520			
145/1/19	削片	直角	石質	A 29.0	23.0	13.0	3.70	7.408	16.019	146.513			14, 24
146/1/19	削片	直角	石質	C 32.0	24.0	14.0	4.28	5.855	16.242	146.512			15, 25
150/1/17	微細剥離のある削片	直角	石質	F 21.0	19.5	6.6	0.49	2.031	16.148	146.567			17, 26
151/1/17	破片	直角	石質	A 8.7	7.2	1.6	0.08	2.137	15.648	146.558			
152/1/16	削片	直角	石質	E 21.7	14.5	4.3	1.02	4.999	14.961	146.542	○	馬色付植物	

第13表 石器觀察表(2)

器種 番号	種類	石材			厚さ (mm)	重量 (g)	座標値 (半歩間)			組合	備考	図版	写真
		石片	分類	X(m)			X(m)	Y(m)	Z(mm)				
150 <small>e17</small>	刮削	頁岩	S	11.0	3.0	5.0	0.26	3.647	9.711	146.545	○ 接No.261
156 <small>e15</small>	刮削	頁岩	D	16.8	11.9	2.8	0.39	6.063	11.916	146.553
157 <small>f16</small>	刮削	頁岩	A	18.0	19.0	9.0	1.73	4.537	9.929	146.545	17	26
158 <small>f17</small>	破片	頁岩	A	12.6	12.3	1.8	0.19	3.378	10.771	146.545
159 <small>f17</small>	刮削	頁岩	A	22.3	15.7	14.8	3.35	1.944	10.291	146.558
161 <small>d17</small>	刮削	頁岩	A	18.0	16.5	5.0	0.97	2.134	14.589	146.499	14	24
162 <small>e14</small>	刮削	頁岩	B	13.6	12.6	10.0	1.38	2.139	12.467	146.526
163 <small>e16</small>	刮削	頁岩	B	27.2	19.5	11.5	2.88	4.188	12.451	146.524	○ 接No.267	23	28
167 <small>e17</small>	使用痕のある刮削	頁岩	F	20.7	21.5	4.1	1.10	3.674	12.893	146.577
171 <small>d18</small>	破片	頁岩	A	9.3	5.5	2.4	0.06	1.763	14.961	146.526
172 <small>d18</small>	破片	頁岩	A	14.4	9.7	4.1	0.25	1.667	14.879	146.534
173 <small>d18</small>	破片	頁岩	A	4.3	6.0	1.8	0.04	1.423	14.838	146.517
174 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	17.2	12.9	4.0	0.52	3.328	14.847	146.530
175 <small>d18</small>	刮削	頁岩	G	20.0	19.0	10.0	3.89	5.969	14.865	146.529
177 <small>d16</small>	刮削	頁岩	G	1.2	6.0	0.3	0.37	1.131	14.475	146.535	○ 接No.212
178 <small>d18</small>	破片	頁岩	G	12.2	5.7	4.8	0.26	1.322	14.932	146.528	○ 接No.219
180 <small>d18</small>	破片	頁岩	A	8.0	5.0	1.4	0.03	1.721	13.851	146.514
181 <small>d18</small>	破片	頁岩	G	9.2	8.7	2.0	0.16	5.449	13.629	146.505
183 <small>c16</small>	刮削	頁岩	C	10.7	14.1	5.1	0.56	5.646	15.369	146.553
184 <small>c16</small>	刮削	頁岩	D	15.6	12.8	2.6	0.21	5.214	15.391	146.551
186 <small>e16</small>	刮削	頁岩	E	16.0	6.5	1.0	0.15	4.35	19.829	146.474
191 <small>d18</small>	破片	頁岩	G	10.2	6.2	1.9	0.10	0.992	14.575	146.512
194 <small>c17</small>	破片	頁岩	B	13.5	4.1	1.3	0.07	2.161	16.2	146.578
195 <small>c17</small>	刮削	頁岩	A	13.5	11.4	3.5	0.36	2.133	15.737	146.551
196 <small>c17</small>	破片	頁岩	E	11.1	7.1	5.0	0.31	3.437	16.192	146.551
197 <small>c17</small>	破片	頁岩	F	8.1	4.1	1.8	0.06	2.415	16.572	146.542
199 <small>h14</small>	刮削	頁岩	G	17.3	9.1	6.0	1.26	6.636	5.983	146.356
200 <small>c16</small>	刮削	頁岩	B	22.9	25.2	9.0	1.78	4.687	16.509	146.483	○ 接No.138
201 <small>c16</small>	刮削	頁岩	A	11.2	8.8	1.1	0.04	1.645	14.991	146.491
207 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	12.5	6.0	5.0	0.34	1.473	14.893	146.508	○ 接No.244
208 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	16.9	18.8	4.9	1.50	1.593	14.584	146.550
209 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	49.5	33.5	30.5	32.56	1.248	14.538	146.507	12	23	
210 <small>d18</small>	破片	頁岩	G	6.5	5.5	1.5	0.05	1.199	14.809	146.505	○ 接No.177
211 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	9.7	15.6	7.1	0.68	8.181	14.806	146.501
212 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	21.5	17.1	6.0	0.23	3.399	14.895	146.505	○ 接No.178
213	円形剥離状跡	頁岩	頁岩	2.1	11.0	1.0	0.03	2.168	8.650	146.508	17	26
216 <small>d16</small>	微細剥離のある刮削	頁岩	D	15.6	16.3	3.2	0.74	3.519	14.449	146.428	16	26
216 <small>d16</small>	微細剥離のある刮削	頁岩	D	16.5	12.5	4.5	0.83	4.702	14.583	146.437	20	27
219 <small>d18</small>	破片	頁岩	A	9.5	7.5	3.0	0.17	1.156	14.007	146.503	14	24
221 <small>d17</small>	刮削	頁岩	A	20.0	13.5	4.5	0.83	3.568	13.929	146.545	○ 接No.239
222 <small>d17</small>	破片	頁岩	D	13.0	9.2	2.1	0.18	3.518	14.45	146.430
224 <small>d16</small>	刮削	頁岩	D	18.8	15.6	5.3	0.38	5.231	11.337	146.533
226 <small>e16</small>	微細剥離のある刮削	頁岩	G	8.7	6.2	3.6	0.10	4.766	12.577	146.567
226 <small>e16</small>	微細剥離のある刮削	頁岩	B	22.0	29.0	8.0	2.73	4.48	12.561	146.479	19	29	
227	A	6.5	6.2	2.7	0.02
228 <small>e16</small>	刮削	頁岩	A	19.7	13.6	3.6	0.53	5.569	12.365	146.473
229 <small>c16</small>	刮削	頁岩	A	32.5	47.5	7.0	4.89	4.77	15.598	146.452	○ 接No.221	20	27
240 <small>c16</small>	刮削	頁岩	A	15.0	17.4	3.5	0.70	4.682	15.743	146.442
243 <small>c17</small>	岱形堆石遺跡	頁岩	B	29.0	24.6	9.5	3.74	2.059	15.701	146.502	15	25
245 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	29.0	28.0	8.5	0.30	4.477	14.849	146.497
246 <small>d18</small>	刮削	頁岩	A	9.4	4.6	2.0	0.07	1.433	14.852	146.479
247 <small>c16</small>	刮削	頁岩	G	18.2	11.9	6.2	1.00	1.536	14.892	146.490
247 <small>c16</small>	刮削	頁岩	A	25.0	15.0	8.0	1.90	4.772	15.651	146.431	14	24	
249 <small>f17</small>	刮削	頁岩	C	22.6	13.6	5.8	2.02	2.831	9.835	146.539
250 <small>e16</small>	刮削	頁岩	A	28.0	12.5	3.0	0.48	6.827	12.729	146.499	14	24	
252 <small>e17</small>	刮削	頁岩	A	18.0	25.0	5.0	1.26	3.566	12.76	146.523
253 <small>e17</small>	刮削	頁岩	A	19.0	19.9	6.0	0.99	3.566	12.736	146.528
254 <small>e17</small>	刮削	頁岩	A	19.0	19.9	6.0	0.99	3.566	12.736	146.528
255 <small>e16</small>	微細剥離のある刮削	頁岩	B	22.0	28.5	7.6	2.52	8.943	9.900	146.445	16	26
257 <small>t15</small>	ナノ形石器	頁岩	G	29.0	12.0	6.5	2.29	5.466	9.585	146.459	17	25	
261 <small>d17</small>	使用痕のある刮削	頁岩	A	30.0	28.0	8.0	4.18	2.433	14.999	146.522	13	23	
262 <small>d17</small>	破片	頁岩	A	10.0	5.8	1.3	0.06	2.25	15.058	146.511
266 <small>e16</small>	刮削	頁岩	A	21.79	1.124	15.080	146.526	21	27
267 <small>d18</small>	刮削	頁岩	B	25.0	17.0	13.0	2.71	1.938	14.826	146.585	○ 接No.267	23	28
269 <small>c16</small>	刮削	頁岩	A	15.5	19.2	3.3	0.39	3.897	14.913	146.565
270 <small>c16</small>	刮削	頁岩	A	12.0	24.0	4.0	0.17	1.703	14.913	146.565
274 <small>e16</small>	刮削	頁岩	B	22.0	24.0	17.0	4.74	1.838	16.099	146.569
275 <small>c18</small>	刮削	頁岩	A	21.0	31.5	6.5	2.89	1.796	15.982	146.569
276 <small>f16</small>	刮削	頁岩	A	27.0	21.5	9.5	3.21	4.143	10.534	146.549
277 <small>f16</small>	刮削	頁岩	A	29.0	22.0	6.0	1.89	5.209	10.271	146.522	13	23	
280 <small>d16</small>	刮削	頁岩	A	18.2	12.0	2.3	0.33	7.015	14.423	146.474
281 <small>d16</small>	刮削	頁岩	A	14.9	19.7	6.4	0.25	7.083	14.556	146.454
285 <small>d16</small>	刮削	頁岩	A	19.9	17.4	6.0	0.29	5.671	12.712	146.447
287 <small>d16</small>	刮削	頁岩	G	22.0	12.3	4.6	0.22	5.767	12.711	146.447
288 <small>f14</small>	使田廻のある刮削	頁岩	B	15.5	20.0	4.0	0.56	8.388	10.721	146.373	15	25	
292 <small>e15</small>	刮削	頁岩	D	22.6	13.2	10.6	3.28	7.499	11.575	146.437
293 <small>f16</small>	刮削	頁岩	D	27.9	16.5	8.0	2.80	4.32	10.178	146.423
294 <small>f17</small>	破片	頁岩	A	14.6	8.5	4.4	0.35	2.566	10.387	146.494
298 <small>a15</small>	刮削	頁岩	G	22.0	22.5	6.0	2.22	7.301	8.417	146.373
302 <small>a10</small>	石核	頁岩	A	7.7	7.7	2.5	0.16	6.432	10.886	146.415
303 <small>a09</small>	石核	頁岩	C	15.6	16.5	5.0	1.18	19.151	20.668	146.599
301 <small>a09</small>	石核	頁岩	B	38.0	34.0	20.5	2.33	16.25	19.436	146.671	15	25	
302 <small>c09</small>	石核	頁岩	A	26.5	51.5	34.5	50.95	18.302	16.74	146.487	15	24
303 <small>c09</small>	屋根形剥離のある刮削	頁岩	C	44.0	18.0	9.0	5.49	19.281	16.415	146.472	16	25	
304 <small>e10</small>	微細剥離のある刮削	頁岩	C	32.5	32.5	9.0	6.83	16.899	11.771	146.357	16	25	
305 <small>e11</small>	圓形剥離	頁岩	A	36.0	24.0	20.5	14.98	14.595	12.703	146.519	13	23	
307 <small>e11</small>	ナノ形石器	頁岩	A	26.0	25.5	5.5	2.98	10.153	8.474	146.389	13	23	
310 <small>e11</small>	使田廻のある刮削	頁岩	A	36.0	36.0	8.5	10.83	14.354	9.051	146.247	12	23	
311 <small>a10</small>	ナノ形石器	頁岩	C	42.0	19.5	7.0	6.93	17.706	20.68	146.515	16	25	
314 <small>d17</small>	刮削	頁岩	D	18.6	7.2	2.3	0.24	3.841	13.857	146.509	16	25	
317 <small>d17</small>	刮削	頁岩	A	29.0	17.0	10.0	3.56	3.851	14.153	146.480
318 <small>d17</small>	刮削	頁岩	A	19.0	15.5	8.0	2.44	3.658	14.788	146.488	15	24

第14表 石器観察表(3)

記載番号	メッシュ名	器種	石材					座標値(参考座標)			総合	備考	図版	写真		
			石種	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	X(m)	Y(m)	Z(m)					
319.c17	剥片	貝殻	F		20.0	14.5	4.9	1.17	9.91	15.146	146.534			16	26	
320.c16	剥片	貝殻	C		33.5	17.0	6.2	5.25	4.033	15.807	146.514					
321.e16	剥片	貝殻	A		14.7	11.4	5.4	0.47	4.419	15.790	146.391					
322.c16	剥片	貝殻	B		22.0	9.0	3.0	0.40	4.612	16.362	146.405			15	25	
323.d16	剥片	貝殻	A		20.5	17.5	7.0	2.04	4.635	14.364	146.444					
324.e16	剥片	貝殻	A		17.0	9.1	3.0	0.20	4.609	14.500	146.414					
331.e17	剥片	貝殻	A		14.5	10.5	4.6	0.54	3.831	11.584	146.428					
332.e17	剥片	貝殻	A		16.5	18.5	4.0	1.00	3.664	12.476	146.426	○ 標No.346		21	27	
334.d12	剥片	貝殻	A		22.5	15.0	5.0	1.10	12.08	7.987	146.333	○ 標No.65		23	28	
338.j16	台形地石器	貝殻	B		23.0	20.0	7.0	2.00	12.299	2.99	146.208			15	25	
339.f12	剥片	貝殻	A		26.0	33.0	2.5	18.48	13.056	9.231	146.395			13	23	
340.h13	剥片、使用痕の ある剥片	貝殻	A		45.0	48.0	14.0	18.47	10.96	5.118	146.348			13	23	
342.h11	剥片	貝殻	A		32.0	15.0	13.5	4.77	14.318	5.138	146.300			13	24	
344.f17	剥片	貝殻	A		18.3	17.5	6.1	1.05	3.850	9.034	146.482					
345.e17	剥片	貝殻	A		30.0	28.5	19.0	3.37	3.695	11.747	146.492					
346.d15	剥片	貝殻	A		13.5	27.0	12.0	3.21	7.227	13.082	146.522	○ 標No.332		21	27	
346.i5	ツブ形石器	貝殻	A		47.0	16.0	7.5	3.53	7.567	9.029	146.395			12	23	
346.l5	ツブ形石器	貝殻	A		43.5	19.0	6.2	2.87	7.097	7.842	146.396					
352.h16	破片	貝殻	G		11.0	5.0	5.5	0.40	4.307	9.41	146.555			12	23	
353.c7	破片	貝殻	A		7.0	6.2	2.5	0.68	2.91	14.235	146.555					
354.f17	破片	貝殻	A		8.4	6.6	2.2	0.11	2.67	10.89	146.564					
356.g14	剥片	貝殻	B		18.9	10.4	2.4	0.30	3.93	8.645	146.407			1	4	24
357.	石核	貝殻	A		35.0	47.0	45.0	61.20	-	-	-					
358.	剥片	貝殻	A		21.3	13.1	6.9	1.58	-	-	-					
359.	剥片	貝殻	G		13.0	11.8	3.2	0.44	-	-	-					
361.	剥片	貝殻	G		17.0	10.0	4.0	0.57	-	-	-					
362.	剥片	貝殻	G		21.1	21.4	10.7	2.29	-	-	-					
364.	剥片	貝殻	A		29.0	45.0	13.0	19.51	-	-	-			1	2	23
365.	剥片	貝殻	D		14.4	14.6	4.2	0.53	-	-	-					
366.	剥片	貝殻	B		26.0	29.0	8.0	5.45	-	-	-			1	5	25
367.	破片	貝殻	G		11.5	7.7	2.5	0.23	-	-	-					
368.	剥片	貝殻	D		24.9	21.3	13.1	3.83	-	-	-					

第15表 炭化物片出土位置一覧表

採取番号	メッシュ名	座標値(参考座標)																	
		X(m)	Y(m)	Z(m)															
11	f16	11.72	10.42	146.590	405	d16	3.332	13.35	146.485	508	e16	4.602	11.55	146.567	523	d17	3.748	14.47	146.497
51	j5.7	12.07	14.43	146.578	406	d16	3.461	13.47	146.521	509	e15	7.113	12.15	146.512	524	d17	3.096	13.9	146.492
74	f13	10.72	10.46	146.494	407	d16	4.044	13.68	146.436	510	d15	7.517	14.43	146.575	525	d17	3.103	13.8	146.522
77	f13	11.28	9.928	146.384	408	d15	5.181	14.01	146.487	511	d16	5.744	13.85	146.490	526	d17	2.668	14.24	146.454
79	f13	10.97	9.509	146.352	409	d16	5.639	13.72	146.527	512	d16	5.731	13.91	146.493	527	d17	2.796	13.58	146.538
85	g13	11.82	8.217	146.411	410	d16	5.59	13.9	146.522	513	d16	5.642	13.73	146.536	528	d17	3.462	13.49	146.531
114	q13	11.83	8.214	146.409	411	d16	5.734	13.91	146.489	514	d16	5.605	13.9	146.531	529	d17	3.338	13.35	146.496
164	d17	3.464	13.48	146.534	500	g17	3.054	8.844	146.555	515	d16	5.180	14.03	146.496	530	d18	1.127	14.69	146.542
165	d17	3.098	13.82	146.528	501	g16	4.233	7.066	146.518	516	d16	5.204	14.73	146.485	531	d18	1.708	13.79	146.517
165	d17	3.098	13.82	146.003	502	g16	4.741	8.861	146.516	517	d16	4.922	14.89	146.479	532	c17	3.22	16.79	146.548
400	d16	1.568	13.63	146.448	503	g16	5.279	8.321	146.481	518	d16	4.806	14.92	146.534	533	c16	5.4	16.04	146.559
401	d16	2.225	13.23	146.511	504	f16	5.316	9.03	146.502	519	d16	4.802	14.91	146.538	534	c16	5.231	15.67	146.504
402	d16	2.802	13.57	146.528	505	g15	6.614	8.851	146.438	520	d16	4.821	14.91	146.535	535	c16	5.251	15.58	146.503
403	d16	3.097	13.89	146.481	506	e16	5.385	11.15	146.580	521	d16	4.804	14.84	146.526	536	c16	5.633	14.58	146.499
404	d16	3.094	13.81	146.517	507	e16	4.607	11.47	146.541	522	d16	4.808	14.82	146.527	537	e18	1.605	12.23	146.500

*・石器のX・Y座標値はB II r05区からの距離を示す。世界座標値はB II r05区の座標値を加えて算出する。B II r05(X=-102968, Y=18784)

・メッシュ名は旧石器時代遺物集中区内での位置を示す(第24図参照)。

・石器357~368は捨土採取等である。

・炭化物片は測定できなかつたものもある。

附編 自然科学分析

1 二の台長根遺跡の火山灰分析

(株) 京都フィッショングループ

(1) 試 料

分析試料は、旧石器遺物集中区外南側に設定されたトレンチ内断面から採取された3試料（試料①）と、集中区内のグリッド側壁（境界帯）より採取されたブロック状試料（23kg、試料②）である。試料②は弊社へ搬送され、多くの角度からのデジタル写真撮影の後、南面部において幅5cmで縦方向に上部より10cmと下部より10cmの2試料を削り取った。試料①、②について以下に述べる分析を行った。

(2) 分 析 方 法

1) 前 処 理

まず半湿状態の生試料を適宜採取秤量し、50°Cで15時間乾燥させる。乾燥重量測定後、21ピーカー中で数回水替えしながら水洗し、そのち超音波洗浄を行う。この際、中性のヘキサメタリン酸ナトリウムの溶液を濃度1～2%程度となるよう適宜加え、懸濁がなくなるまで先淨水の交換を繰り返す。乾燥後、篩別時の汚染を防ぐため使い捨てのフルイ用メッシュ・クロスを用い、3段階の篩別(60,120,250mesh)を行い、各段階の秤量をする。こうして得られた120～250mesh (1/8-1/16mm) 粒径試料を比重分別処理を加えることなく、封入剤 (Nd=1.54) を用いて岩石薄片を作成した。

2) 全鉱物組成分析

前述の封入薄片を用い、火山ガラス・軽鉱物・重鉱物・岩片・その他の5項目について、1薄片中の各粒子を無作為に200個まで計数し含有粒子数の量比粒子数の量比百分率を測定した。

3) 重 鉱 物 分 析

主要鉱物であるカンラン石(Ol)・斜方輝石(Opx)・单斜輝石(Cpx)・褐色普通角閃石(Cum)・ジルコン(Zr)・黒雲母(Bt)・アバタイト(Ap)を鏡下で識別し、ポイント・カウンターを用いて無作為に200個体を計数してその量比を百分率で示した。なお、試料により重鉱物含有の少ないものは結果的に総数200個に満たないことをお断りしておきたい。この際、一般に重鉱物含有の少ない試料は重液処理による重鉱物の濃集を行うことが多いが、特に火山ガラスに包埋された重鉱物はみかけ比重が減少するため重液処理過程で除外される危険性がある。さらに風化による比重変化や粒径の違いが分析結果に影響を与える懸念があるため、今回の分析では重液処理は行っていない。

4) 火山ガラス形態分類

前処理で作成した検鏡用薄片中に含まれる火山ガラス形態を、吉川(1976)*1に準拠してH：偏平型(Ha, Hb)、C：中間型(Ca,Cb)、T：多孔質型(Ta,Tb)に分類した。またこれらの形態に属さないものを、It：不規則型として一括し示した。なお含有率を測定するため200個の粒子を測定した。その過程で着色したものやスコリア質のものおよび亀の甲型と呼ばれる特異な形態をもつ火山ガラスの有無もチェックした。さらに火山ガラスの水和現象を観察し、山下・壇原(1995)*2に基づき水和(hydration)やスーパーハイドレーション(superhydration)の程度についても可能な限り半定量的に記載した。

5) 火山ガラスの屈折率測定

前処理により調製された120～250mesh (1/8-1/16mm) 粒径試料を対象に、温度変化型屈折率測定装置(RIMS)*3,4を用い火山ガラスの屈折率を測定した。測定に際しては、精度を高めるため原則として1試料あたり30個の火山ガラス片を測定するが、火山ガラスの含有の低い試料ではそれ以下の個

数となる場合もある。

温度変化型屈折率測定法^{*5}は火山ガラスと浸透の屈折率が合致した温度を測定することにより、各浸液ごとに決められた浸液温度と屈折率の換算温度から火山ガラスの屈折率を計算して求める方法である。

6) 鉱物の屈折率測定

基本的には火山ガラスの屈折率と同様な操作を経て測定作業を行うが、鉱物の屈折率測定は工学的方位をチェックする必要がある点で大きく異なっている。今回の測定は、屈折率値の精度を高めるため30結晶の測定を目指しているが、含有結晶量が少ない場合にはそれ以下になる場合もある。対象鉱物は斜方輝石(Opx)で、鎌田・壇原(1994)^{*6}に準じ対象鉱物片の屈折率を測定した。

(3) 結果と考察

今回のテフラ試料2点の分析結果は、テフラ分析結果表および屈折率測定結果一覧表・同データシート(不掲載)などに詳しく示されている。これらの測定結果をもとに、以下には二の台長根遺跡周辺地点における弊社内資料および新編火山灰アトラスと対照しつつ、分析結果の検討と検出テフラの対比を考察する(図1参照)。

まず分析試料の全般的な測定結果についてまとめておきたい。今回分析した5資料はともに多くの軽鉱物や重鉱物を含み、テフラ対比の有力な要素となる火山ガラスも數%程度含まれる。ただし火山ガラスは5種類以上の屈折率頻度ピークをもち、斜方輝石にも同様に4~5種類以上の屈折率頻度ピークが認められることから、5種類以上のテフラが混入していることが明らかである。したがってこのような場合には、層準決定を目指す試料の分析のみを行っても所期の目的は達せられない。すなわち、まずは下位層準からの連続的な分析結果から目的層準のみに固有なテフラ情報を洗い出し、次に調査地点周辺に降灰した可能性のあるテフラと比較することにより、目的層準に狭在するテフラ情報を見定めることが必要である。

さて図1に示される火山ガラスと斜方輝石(Opx)の屈折率頻度分布図に注目する。火山ガラスについては、サンプルAとブロック下部10cm試料が良く似ており、上下層と比較してもよそn=1.500~1.510付近の相対的含有率が高いことが明らかである。一方斜方輝石(Opx)については、サンプルAにおいて $\gamma = 1.705 - 1.709$ 付近のピークが相対的に最も大きく、上に減衰するよう見える。これらのピークがテフラの降灰によりもたらされたものと考えると、十和田八戸テフラ(To-H, 15Ka)の可能性が高いと判断される。サンプルBについては、火山ガラスの頻度分布においてn=1.500~1.505付近に新たな軽石質の火山ガラスが付加するのが認められるため、サンプルCの再堆積に焼石山形(Yk-Y, 50~60Ka?)が混入したものと推定される。いずれにしてもテフラ純層が検出されないため明快な層準決定情報は少ないが、今回得られた測定結果から上記の解釈が可能となった。

(参考文献) *1 吉川周作(1976):大阪層群中の火山灰層について。地質学雑誌,82(8), 479-515.

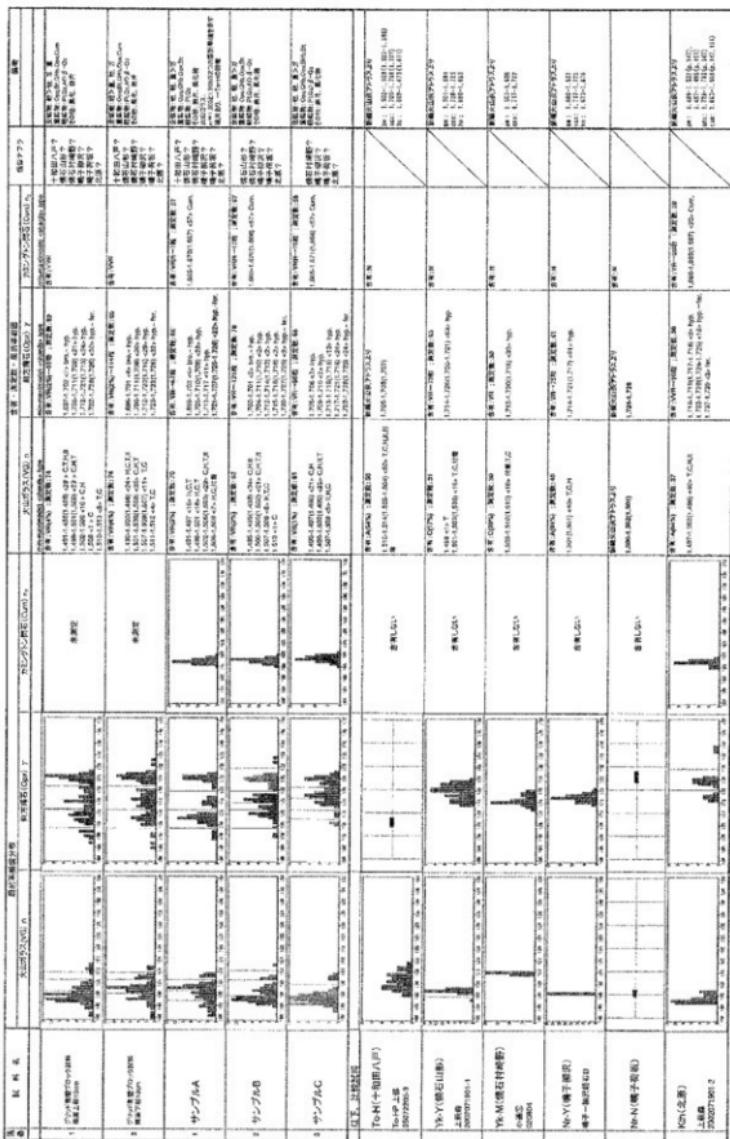
*2 山下透・壇原徹(1995):火山ガラスのhydrationとsuper hydration-日本の広域テフラについて-,フィッシャン・ト ラックニュースレター第8号, 41-46.

*3 横山卓雄・壇原徹・山下透(1986):温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定。第四紀研究, 25(1), 21-30.

*4 Danhara T., Yamashita T., Iwano H. and Kasuya M. (1992): An improved system for measuring refractive index using the thermal immersion method. Quarternary International, 13/14, 89-91.

*5 壇原徹(1993):温度変化型屈折率測定法。日本第四紀学会編。第四紀試料分析法2. 研究対象別分析法。149-157。東京大学出版会。

図1-2.の位置線上におけるテフラ分類結果



保存用試料一覧表

No.	試料名	処理生試料 乾燥重量 (g)	箇別試料重量(g)			色調 判定	備考
			>1/4mm	1/4-1/8mm	1/8-1/16mm		
1	二の台長根遺跡 グリッド側壁 ブロック試料 南面上部 10cm	30.0	1.25	0.50	0.49		試料②
2	二の台長根遺跡 グリッド側壁 ブロック試料 南面下部 10cm	30.0	1.08	0.49	0.50		試料②
1	サンプル B	30.5	1.24	9.66	0.67		試料①
2	サンプル C	30.1	1.73	0.54	0.49		試料①

注：※(1) 標柱の数字は保存試料の重量を示す。

- (2) 1/8-1/16段階の保存試料は、一部岩石薄片作成に使用したため実際よりわずかに少なくなっている。
- (3) 色調判定は、新版標準土色帳（農林省農林水産技術会議事務局監修、1970）による。

（p62の参考文献続き）

※ 6 鎌田浩毅・塙原徹・林田明・星住英夫・山下透（1994）：中部九州の今市火碎流堆積物と類似
火碎流堆積物の対比および噴出起源の推定。地質学雑誌。100(4)、279-291

※ 7 町田洋・新井房夫(2003)：新福火山灰アトラス。東京大学出版会。

テ フ ラ 分 析 結 果 表

分析試料名: 1 サンプルA

全 鉱 物 組 成

火山 ガラス	軽 鉱物	重 鉱物	岩片	その 他	合計	備 考				
10	96	18	10	66	200	火山gl:珪長質 pm型主。It型、bw型も含む。 軽鉱物:pl-Qz主。Kf, β -Qz含む。				
5.0	48.0	9.0	5.0	33.0	100.0	重鉱物:Opx-Opx-Ghb-Bt-Cpx主。Cum-Zr含む。 岩片:gl質で火砕物起源が主。その他:風化粒子。				

bw:バブルウォーム、pm:軽石、sco:スコリア、pl:斜長石、Qz:石英、Kf:カリ長石、chal:カルセドニ-

重 鉱 物 分 析

OI	Pyroxene		Amphibole		Opx	Cum	Zr	Bt	Ap	total	備 考
	Opx	Cpx	BHb	GHb							
-	54	6		39	86	2	2	11	-	200	
0.0	27.0	3.0	0.0	19.5	43.0	1.0	1.0	5.5	0.0	100.0	

Ol:カラン石、Opx、Cpx:斜方、單斜輝石、BHb、GHb:緑色・褐色角閃石、Opx:不透明鉱物、

Cum:カミングトン閃石、Zr:ジルコン、Bt:黒雲母、Ap:アバタイト

火山ガラス形態分類

Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	It	合計	色付gl	備 考	
2	30	37	7	12	36	54	178	+	珪長質pm型を主とするが、microiteを含み、dustyなブロック状のIt型、およびbw型も含む。	
1.1	16.9	20.8	3.9	6.7	20.2	30.4	100.0			

H:扁平、C:中間型、T:多孔質、It:不規則型、Incl:インクルージョン、devt:失透化、RT:屈折率

火山ガラス屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	火山ガラス形態 (glass type)
最小	最大				
1.4911	1.4972	1.4945	16	-	H,C,T
1.4976	1.5010	1.4996	18	-	H,C,T
1.5016	1.5057	1.5034	29	1.503	C,H,T,It
1.5075	1.5088	1.5082	7	-	H,C,鉱物に付着

鉱物の屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	鉱物の種類 (Opx)
最小	最大				
1.699	1.702	1.701	4	-	アソリ"イト~ハイハーツン
1.705	1.710	1.728	28	1.708	ハイハーツン
1.713	1.717	1.715	11	-	ハイハーツン
1.721	1.727	1.725	22	1.725~1.726	ハイハーツン~フローハーツン

斜方輝石:劈開片上で最大屈折率 $n_2 \approx \gamma$ 、角閃石 $n_2 (\beta < n_1 < \gamma)$ 、斜長石:劈開片上で最小屈折率 $n_1 (\alpha < n_1 < \beta)$

テ フ ラ 分 析 結 果 表

分析試料名: 1 サンプルB

全 鉱 物 組 成

火山 ガラス	軽 鉱物	重 鉱物	岩片	その 他	合計	備 考					
4	117	15	5	59	200	火山gl:珪長質It,pm型主。bw型含む。 軽鉱物:Qz,pl主。Kf,β-Qz含む。 重鉱物:Opx,Ghb,Opx,Bt,Cpx主。Cum少量。 岩片:gl質で火碎片起源が主。その他:風化粒子。					
2.0	58.5	7.5	2.5	29.5	100.0						

bw:ハブルウォール、pm:軽石、sco:スコリア、pl:斜長石、Qz:石英、Kf:カリ長石、cha:カルセトニ-

重 鉱 物 分 析

OI	Pyroxene		Amphibole		Opx	Cum	Zr	Bt	Ap	total	備 考
	Opx	Cpx	BHb	Ghb							
-	40	6	-	41	105	1	-	7	-	200	
0.0	20.0	3.0	0.0	20.5	52.5	0.5	0.0	3.5	0.0	100.0	

OI:カラン石、Opx,Cpx:斜方、单斜辉石、BHb,Ghb:緑色・褐色角閃石、Opx:不透明鉱物、

Cum:ミントン閃石、Zr:ジルコン、Bt:黒雲母、Ap:アパタイト

火山ガラス形態分類

Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	It	合計	色付gl	備 考	
2	21	32	7	5	8	53	128	+/-	珪長質It型(軽石型ブロック状を呈し microliteやincl.を含む)や発泡のよい pm型を主とする。その他bw型glも含む。	
1.6	18.4	25.0	5.5	3.9	6.3	41.4	100.0			

H:扁平、C:中間型、T:多孔質、It:不規則型、Incl:インクーリション、Devit:失透化、Rt:屈折率

火山ガラス屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	火山ガラス形態 (glass type)
最小	最大				
1.4949	1.4994	1.4977	34	1.498	C,H,It,
1.4995	1.5040	1.5021	21	1.502	C,H,T,It,
1.5066	1.5078	1.5071	6	1.507	H,C,T,
1.5127	1.5127	1.5127	1	-	Ca

鉱物の屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	鉱物の種類 (Opx)
最小	最大				
1.700	1.701	1.700	2	-	ブロナイト～ハイバーン
1.704	1.711	1.709	17	1.710	ハイバーン
1.712	1.714	1.713	8	1.713	ハイバーン
1.715	1.718	1.716	21	1.716	ハイバーン
1.720	1.727	1.724	28	1.725	ハイバーン～フェロハイバーン
1.732	1.734	1.733	2	-	フェロハイバーン

斜方輝石:劈開面上での最大屈折率n₂とγ、角閃石n₂(β < n₂ < γ)。斜長石:劈開面上での最小屈折率n₁(α < n₁ < β)

テ フ ラ 分 析 結 果 表

分析試料名：2. サンプルC

全 鉱 物 組 成

火山 ガラス	軽 鉱物	重 鉱物	岩片	その 他	合計	備 考					
3	105	50	6	36	200	火山gl:珪長質lt型主。pm,bw型も含む。焼石山形テフラで矛盾せず。軽鉱物:Qz,pl主。Kf,β-Qz少量含む。					
1.5	52.5	25.0	3.0	18.0	100.0	重鉱物:Opx,Ghb,Opx,Bt主。Cpx,Cum少量含む。岩片:gl質で火碎物起源。その他:風化粒子。					

bw:ハブルクホール、pm:軽石、sc:スコリア、pl:斜長石、Qz:石英、Kf:カリ長石、chalc:カルセドニー

重 鉱 物 分 析

OI	Pyroxene		Amphibole		Opq	Cum	Zr	Bt	Ap	total	備 考
	Opx	Cpx	BHb	GHb							
	-	23	2	-	57	99	2	0+	17	-	200
0.0	11.5	1.0	0.0	28.5	49.5	1.0	tr	8.5	0.0	100.0	

OI:カンラン石、Opx:Cpx:斜方・单斜輝石、BHb,Ghb:緑色・褐色角閃石、Opq:不透明鉱物、

Cum:カシグラン閃石、Zr:ジルコン、Bt:黑雲母、Ap:アパタイト

火山ガラス形態分類

Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	It	合計	色付gl	備 考	
-	7	20	1	-	i	32	61	+/-	珪長質lt型(incl.を多く含む)軽石型あるいはブロック状gl)が主。	
0.0	11.5	32.8	1.8	0.0	1.6	52.5	100.0		pm型,bw型glも含む。	

H:扁平、C:中間型、T:多孔質、It:不規則型、incl:インクルージョン、devt:失透化、Rt:屈折率

火山ガラス屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	火山ガラス形態 (glass type)
最小	最大				

鉱物の屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	鉱物の種類
最小	最大				

斜方輝石:劈開片上での最大屈折率 $n_1 = \gamma$ 、角閃石 $n_2 = \beta < n_1 < \gamma$ 、斜長石:劈開片上での最小屈折率 $n_1 = \alpha < n_1 < \beta$

テフラ分析結果表

分析試料名: 1二の台長根遺跡 グリッド側壁ブロック試料 南面上部10cm

全鉱物組成

火山 ガラス	珪 鉱物	重 鉱物	岩片	その 他	合計	備考					
9	99	35	45	12	200	火山gl:珪長質pm,lt,bw型gl混在。 珪鉱物:Qz,pl,β-Oz含,Kf。 重鉱物:Opx,Ghb,Opx,Bt主,Cpx,Cum,Zr。 岩片:Qz質が主,gl質も少許含む。その他:風化粒子。					
4.5	49.5	17.5	22.5	6.0	100.0						

bw:バブルホール, pm: 軽石, sco:スコリア, pl:斜長石, Qz:石英, Kf:長石, chal:カルセドニー

重鉱物分析

Ol	Pyroxene		Amphibole		Opx	Cum	Zr	Bt	Ap	total	備考
	Opx	Cpx	BHb	GHb							
-	38	3	-	44	80	1	1	33	-	200	
0.0	19.0	1.5	0.0	22.0	40.0	0.5	0.5	16.5	0.0	100.0	

Ol:カンラン石, Opx:Cpx:斜方, 単斜輝石, BHb,Ghb:緑色・褐色角閃石, Opx:不透明鉱物、

Cum:ガシグレン閃石, Zr:ジルコン, Bt:黑雲母, Ap:アパタイト

火山ガラス形態分類

Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	It	合計	色付gl	備考	
-	36	68	11	13	10	62	200			
0.0	18.0	34.0	5.5	6.5	5.0	31.0	100.0	+	少量の珪長質glを含むが、それらは數種類の起源テフラから由来するか? 全体に肉厚でpm型主。It型はinclを含むpm型。	

Ha:扁平, C:中間型, T:多孔質, It:不規則型, incl:インクルージョン, devt:失透化, RT:屈折率

火山ガラス屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最高値 (mode)	火山ガラス形態 (glass type)
最小	最大				
1.4910	1.4984	1.4966	27	1.498	C,T,H,It,
1.4985	1.5013	1.4998	23	1.500	C,H,T,
1.5016	1.5057	1.5034	16	-	C,H,
1.5089	1.5089	1.5089	1	-	C,
1.5099	1.5129	1.5112	5	-	T,C,

鉱物の屈折率測定

屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最高値 (mode)	鉱物の種類 (Opx)
最小	最大				
1.697	1.702	1.700	7	-	ブロンザイト～ハイバーサン
1.705	1.711	1.708	21	1.709	ハイバーサン
1.512	1.721	1.716	24	1.715	ハイバーサン
1.722	1.728	1.725	30	1.726	ハイバーサン～フェロハイバーサン

斜方輝石:劈開片上での最大屈折率 $n_2 > \gamma$ 、角閃石 $n_2 < \beta < n_2 < \gamma$ 、

斜長石:劈開片上での最小屈折率 $n_1 < \alpha < n_1 < \beta$

テ フ ラ 分 析 結 果 表

分析試料名: 2 二の台長根遺跡 グリッド側壁ブロック試料 南面下部10cm

全 鉱 物 組 成

火山 ガラス	軽 鉱物	重 鉱物	岩片	その 他	合計	備 考				
7	106	26	40	21	200	火山gl:珪長質肉厚pm,bw,lt型混在。 軽鉱物:Qz,pl,Kf, β -Qz。 重鉱物:Opx,Bt,Ghb,Opx主。Opx,Zr,Cum少量含む。 岩片:Qzが主。gl質少量。その他:風化粒子。				
3.5	53.0	13.0	20.0	10.5	100.0					

bw:ブルウォール、pm:輕石、sc:スコリア、pl:斜長石、Qz:石英、Kf:カリ長石、cha:カルセドニー

重 鉱 物 分 析

Ol	Pyroxene		Amphibole		Opx	Cum	Zr	Bt	Ap	total	備 考
	Opx	Cpx	BHb	Ghb							
-	34	2	-	42	75	1	1	45	-	200	
0.0	17.0	1.0	0.0	21.0	37.5	0.5	0.5	22.5	0.0	100.0	

Ol:カンラン石、Opx:Cpx:斜方・单斜輝石、BHb,Ghb:緑色・褐色角閃石、Opx:不透明鉱物。

Cum:カシグン石、Zr:ジルコン、Bt:黒雲母、Ap:アパタイト

火山ガラス形態分類

Ha	Hb	Ca	Cb	Ta	Tb	It	合計	色付gl	備 考	
4	38	72	8	12	37	29	200	-	珪長質肉厚pm,bw,lt型混在。lt型は incl.を含むpm型ブロック状が主。 β -Qzを包埋するpm型glあり。	
2.0	19.0	36.0	4.0	6.0	18.5	14.5	100.0			

H:扁平、C:中間型、T:多孔質、It:不規則型、Incl:インクレージョン、Devit:失透化、Rt:屈折率

火山ガラス屈折率測定

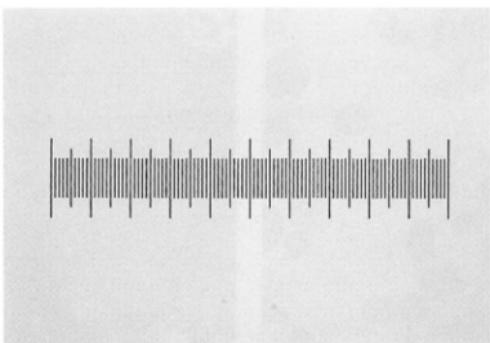
屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	火山ガラス形態 (glass type)
最小	最大				
1.4903	1.5001	1.4968	24	1.498	H,C,T,It,
1.5005	1.5062	1.5026	35	1.503	C,H,T,C,
1.5068	1.5093	1.5078	11	-	T,C,
1.5106	1.5124	1.5114	4	-	T,C,

鉱物の屈折率測定

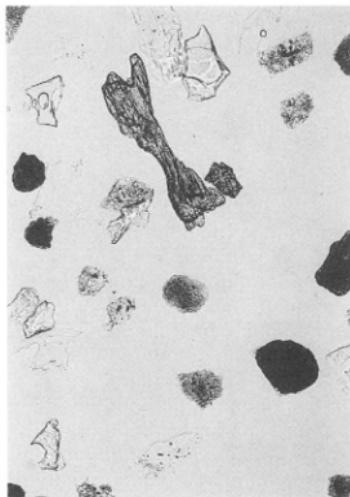
屈折率範囲 (range)		屈折率 平均値 (mean)	測定 個体数 (個)	屈折率最頻値 (mode)	鉱物の種類 (Opx)
最小	最大				
1.695	1.701	1.698	4	-	ブロサイト～ハイバーサン
1.705	1.711	1.708	20	1.708	ハイバーサン
1.712	1.720	1.716	29	1.716	ハイバーサン
1.723	1.733	1.726	32	1.726	ハイバーサン～フェロハイバーサン

斜方輝石:劈開片上での最大屈折率 n_3 と γ 、角閃石 n_2 ($\beta < n_2 < \gamma$)、斜長石:劈開片上での最小屈折率 n_1 ($\alpha < n_1 < \beta$)

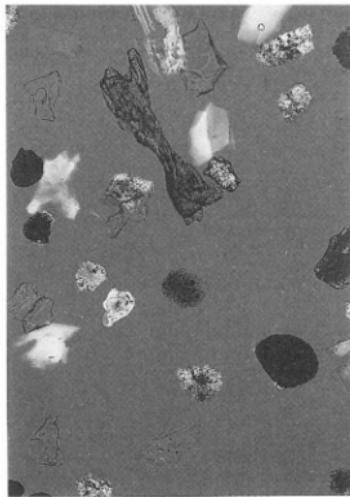
顯微鏡寫真



Scale $\times 100$, 最少目盛=0.01mm



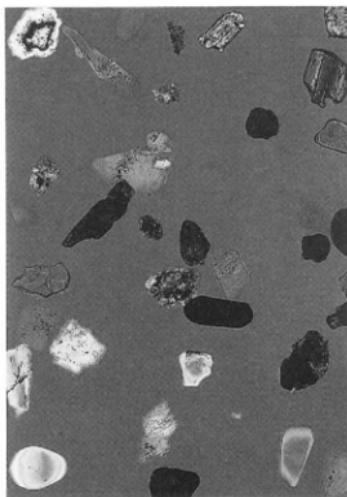
サンプルB



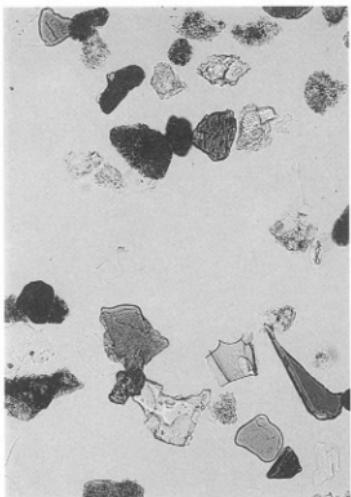
同 左



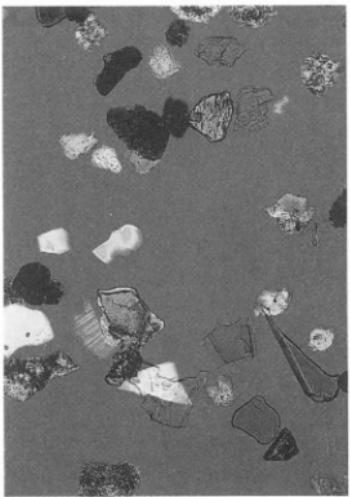
サンプルC



同 左



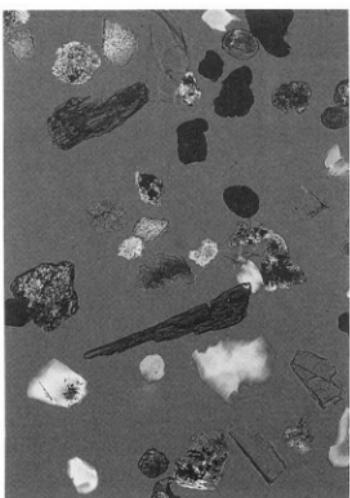
二の台長根遺跡 ブロック南壁上部10cm



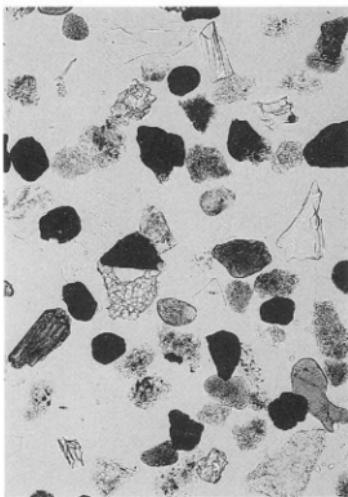
同 左



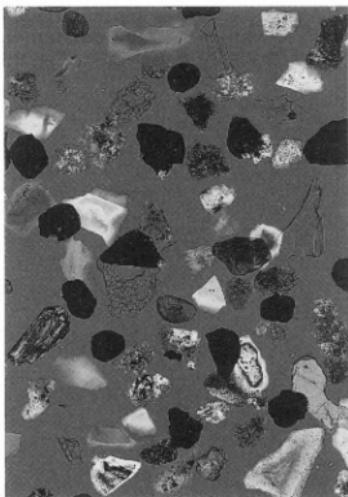
二の台長根遺跡 ブロック南壁上部10cm



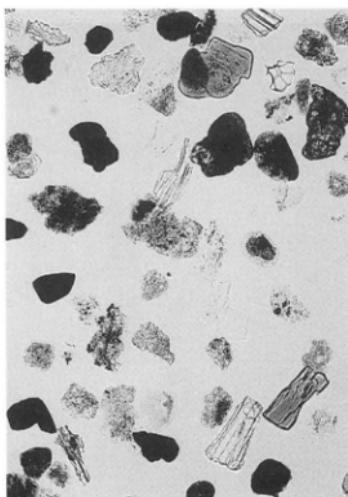
同 左



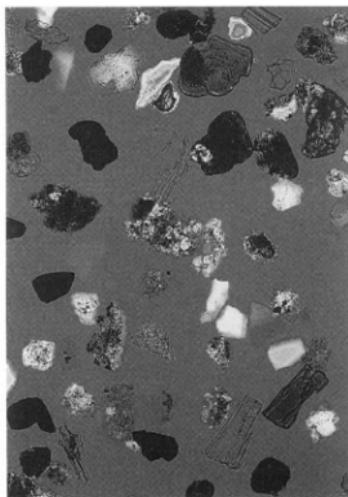
二の台長根遺跡 ブロック南壁 下部10cm



同 左



二の台長根遺跡 ブロック南壁 下部10cm



同 左

2 二の台長根遺跡の年代測定

加速器分析研究所

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。
- (2) BP年代値は、1950年からさかのばること何年前かを表しています。
- (3) 付記した誤差は、次のように算出されます。

複数回（通常は4回）の測定値について χ^2 検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。

(4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{14}\text{C}$ の値を用いることもあります。 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{As} - {}^{13}\text{AR}) / {}^{13}\text{AR}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{As} - {}^{13}\text{APDB}) / {}^{13}\text{APDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{13}\text{As}$ ：試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度： $({}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C})_s$ または $({}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ${}^{13}\text{C}$ 濃度 $({}^{13}\text{As} = {}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C})$ を測定し、PDB（白亜紀ペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、IAAでは加速器により測定中に同時に ${}^{13}\text{C} / {}^{14}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{14}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に「[加速器]」と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの ${}^{14}\text{C}$ 濃度 $({}^{14}\text{AN})$ に換算した上で計算した値です。（1）式の ${}^{13}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$${}^{14}\text{AN} = {}^{13}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \times 1000 \quad ({}^{14}\text{As} \text{として } {}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$${}^{14}\text{AN} = {}^{13}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \times 1000 \quad ({}^{14}\text{As} \text{として } {}^{13}\text{C} / {}^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{AN} - {}^{14}\text{AR}) / {}^{14}\text{AR}] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的よくその下位と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

${}^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) が良く使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようにになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age : yrBP) が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln [\Delta^{14}\text{C} / 1000] + 1$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

測定一覧表

Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
I AAA-40280 # 599-1	試料採取場所：岩手県胆沢郡胆沢町 小山字二の台長根131-2他 試料形態：炭化物 試料名(番号)：S040716-1 (参考) δ ¹³ Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 7,770±50 δ ¹³ C (%)、(加速器) = -24.89±0.78 Δ ¹⁴ C (%) = -619.8±2.3 pMC (%) = 38.02±0.23 δ ¹⁴ C (%) = -619.7±2.2 pMC (%) = 38.03±0.22 Age(yrBP) : 7,770±50
I AAA-41380 # 705-1	試料採取場所：岩手県胆沢郡胆沢町 小山字二の台長根110-4ほか 試料形態：炭化物 試料名(番号)：040911-No.401 (参考) δ ¹³ Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 3,540±40 δ ¹³ C (%)、(加速器) = -27.13±0.65 Δ ¹⁴ C (%) = -356.6±3.4 pMC (%) = 64.34±0.34 δ ¹⁴ C (%) = -359.4±3.3 pMC (%) = 64.06±0.33 Age(yrBP) : 3,580±40
I AAA-41381 # 705-2	試料採取場所：岩手県胆沢郡胆沢町 小山字二の台長根110-4ほか 試料形態：炭化物 試料名(番号)：040911-No.407 (参考) δ ¹³ Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 2,180±40 δ ¹³ C (%)、(加速器) = -27.94±0.61 Δ ¹⁴ C (%) = -237.6±3.9 pMC (%) = 76.24±0.39 δ ¹⁴ C (%) = -242.2±3.8 pMC (%) = 75.78±0.38 Age(yrBP) : 2,230±40

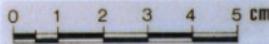
写 真 図 版



線刻状の礫



ナイフ形石器と線刻状の礫



写真図版1 ナイフ形石器と線刻状礫



遺跡遠景（北東から）

○：遺跡位置



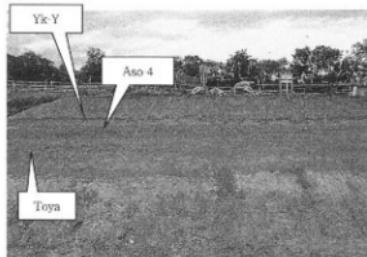
遺跡近景（東から）

○：石器集中区

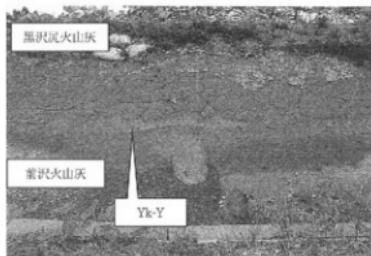
写真図版2 空中写真



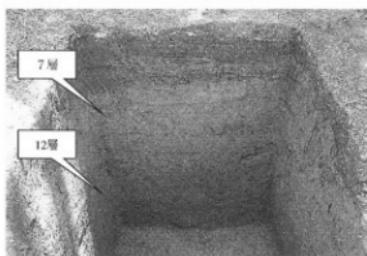
上萩森（東から）



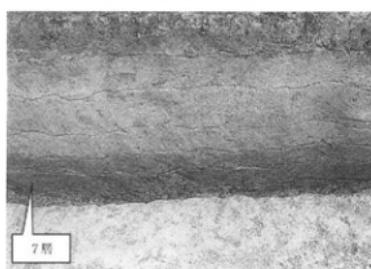
慶存（上萩森より1km西方、南から）



二の台小田切（南から）



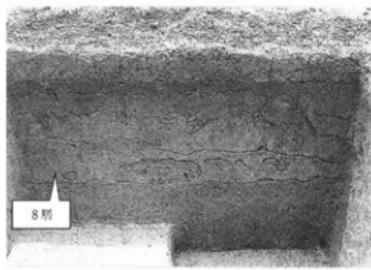
A区南東端（北から）



E区南壁（北から）



B北区水田南壁（北から）



D東区南壁（北から）

※

- ・上萩森、二の台小田切の位置は第5図参照
- ・土層名は第3図及び第1表参照

写真図版3 土層断面（1）



D区東端東西断面（北から）



D区西端東西断面（南から）

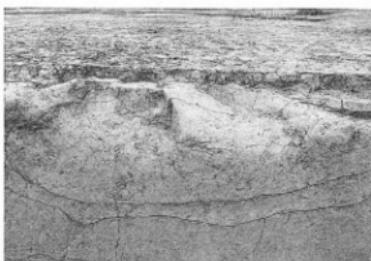


C区南端東西断面（北から）

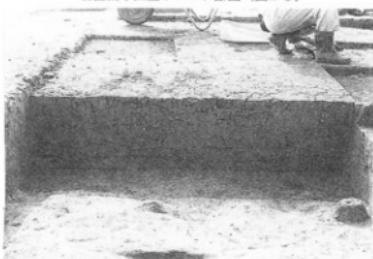
写真図版4 土層断面（2）



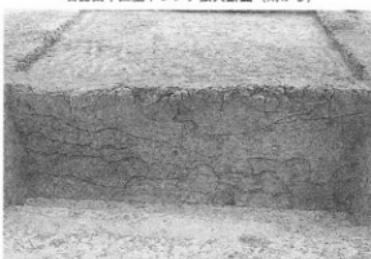
石器集中区竪トレンチ断面（西から）



石器集中区竪トレンチ拡大断面（南から）



石器集中区 h 18西断面（東から）



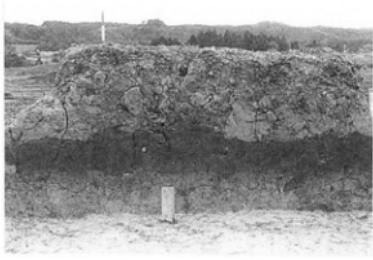
石器集中区 b 15東断面（西から）



D 17-18ベルト南断面（北から）



石器集中区 C-D・18東断面（西から）



石器集中区西道路西断面（東から）

※ グリッドは石器集中区内区画
(第24図参照)

写真図版 5 土層断面 (3)



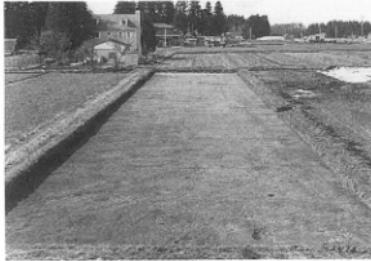
A区調査前（北から）



A区完掘（西から）



B北区西水田調査前（北西から）



B北区西水田完掘（南東から）



C区調査前（南から）



C区完掘（南から）



D区調査前（北から）



D区完掘（北から）

写真図版6 調査前・完掘（1）



E区完掘（北から）



B南区調査前（南から）



B南区精査中1（南西から）

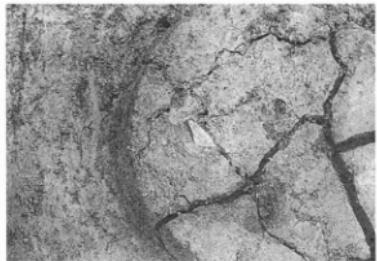


B南区精査中2（南西から）



B南区完掘（北東から）

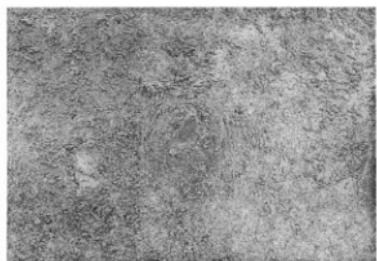
写真図版7 調査前・完掘（2）



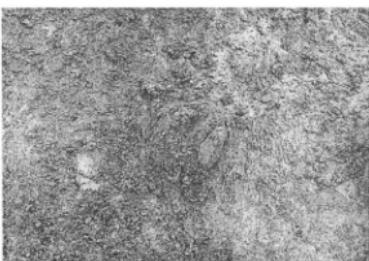
No. 307 出土状況（ナイフ形石器、北東から）



裏面とインプリント



No. 311 出土状況（ナイフ形石器、東から）



裏面とインプリント



No. 257 出土状況（ナイフ形石器、北東から）



裏面とインプリント



No. 243 出土状況（台形様石器、西から）



裏面とインプリント

写真図版 8 石器出土状況 (1)



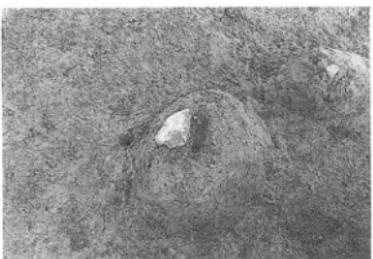
No. 303 出土状況（北から）



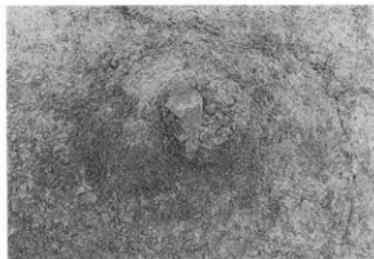
裏面とインプレント



No. 65 出土状況（北西から）



裏面とインプレント



No. 71 出土状況（西から）



裏面とインプレント

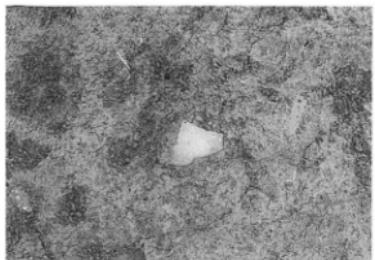


No. 266 出土状況（南から）

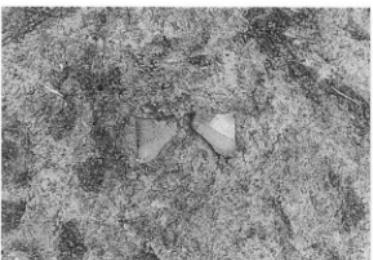


裏面とインプレント

写真図版 9 石器出土状況（2）



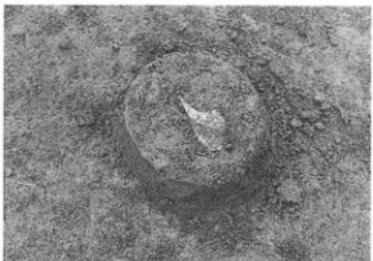
No. 304 出土状況（西から）



裏面とインプリント



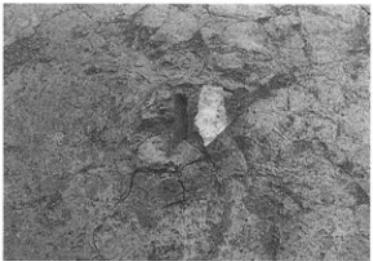
No. 239 出土状況（南から）



裏面とインプリント



No. 21 出土状況（西から）



裏面とインプリント

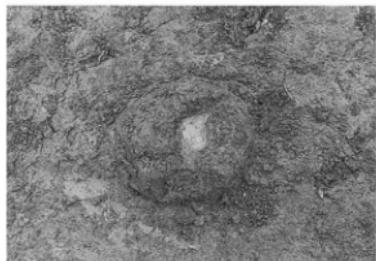


No. 301 出土状況（南から）



裏面とインプリント

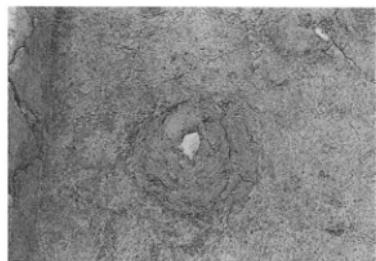
写真図版10 石器出土状況（3）



No. 310 出土状況（東から）



裏面とインプリント



No. 37 出土状況（西から）



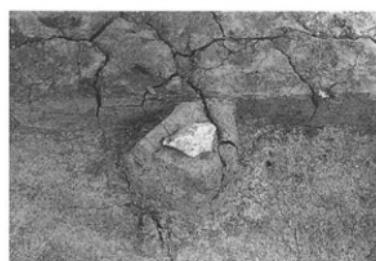
裏面とインプリント



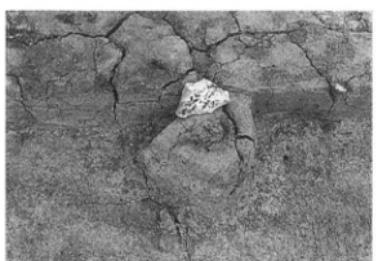
No. 40 出土状況（西から）



裏面とインプリント



No. 27 出土状況（東から）



裏面とインプリント

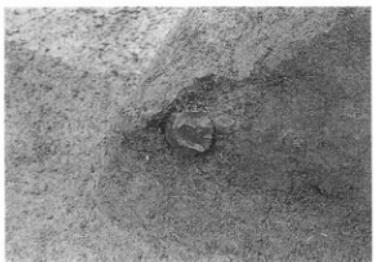
写真図版11 石器出土状況（4）



No. 13 出土状況（南から）



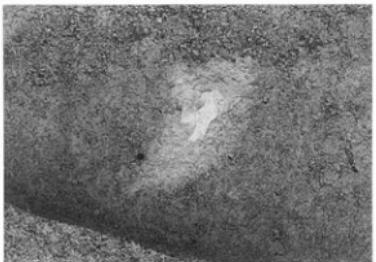
裏面とインプレント



No. 301 出土状況（残核、南から）



裏面とインプレント



No. 302 出土状況（東から）



裏面とインプレント



No. 213 出土状況（縫割状の礫、南から）

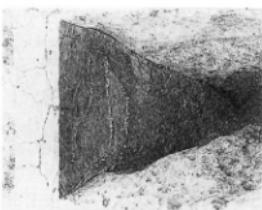


裏面とインプレント

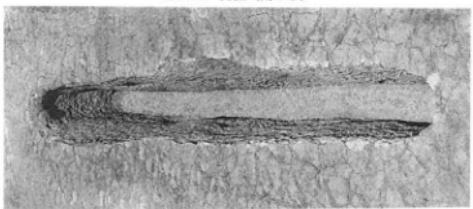
写真図版12 石器出土状況（5）



SKT4 完掘（南から）



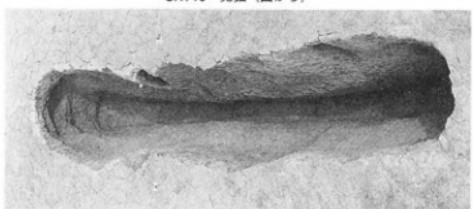
断面（北から）



SKT10 完掘（西から）



断面（東から）



SKT12 完掘（南東から）



断面（北西から）



SKT13 完掘（北から）



断面（南から）



SKT14 完掘（西から）



断面（東から）

写真図版13 陥し穴状造構（1）



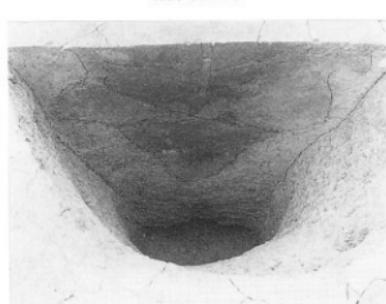
SKT15 完掘（北から）



断面（東から）



SKT18 完掘（西から）



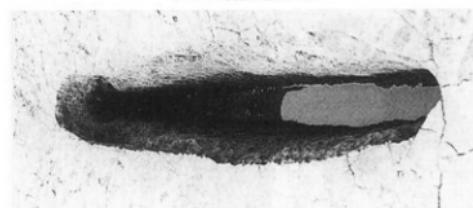
断面（東から）



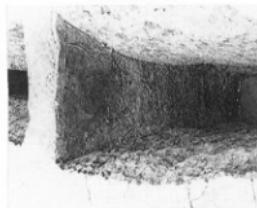
SKT16 完掘（東から）



断面（西から）



SKT17 完掘（南から）



断面（南から）

写真図版14 陥し穴状遺構（2）



SKT19 完掘（北西から）



断面（北西から）



SKT20 完掘（西から）



断面（西から）



SKT21 完掘（西から）



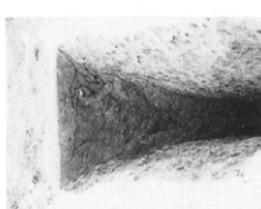
断面（西から）



SKT21 焙土平面（西から）

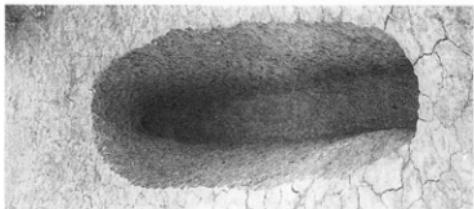


SKT22 完掘（南西から）



断面（北西から）

写真図版15 陥し穴状遺構 (3)



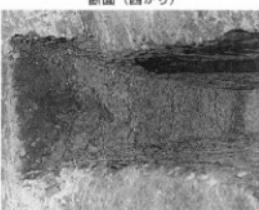
SKT23 完掘（西から）



断面（西から）



SKT24 完掘（西から）



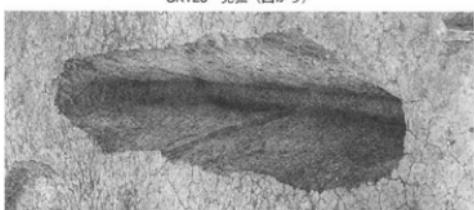
断面（西から）



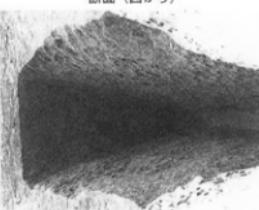
SKT25 完掘（西から）



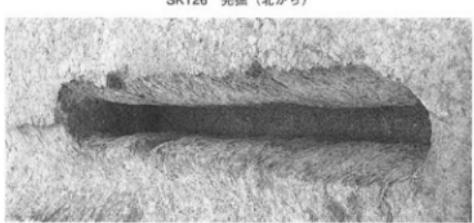
断面（西から）



SKT26 完掘（北から）



断面（北から）

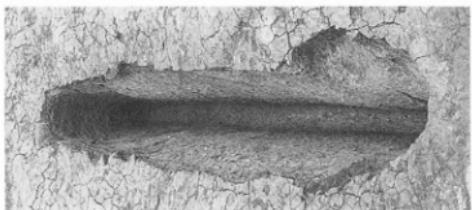


SKT27 完掘（西から）

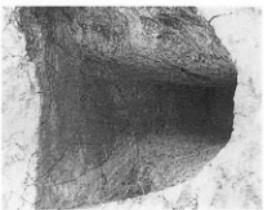


断面（西から）

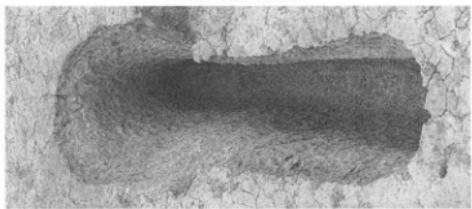
写真図版16 陥し穴状遺構 (4)



SKT28 完掘（北から）



断面（西から）



SKT29 完掘（西から）



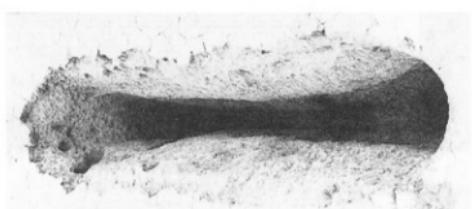
断面（西から）



SKT501 完掘（南東から）



断面（北東から）



SKT502 完掘（東から）



断面（東から）

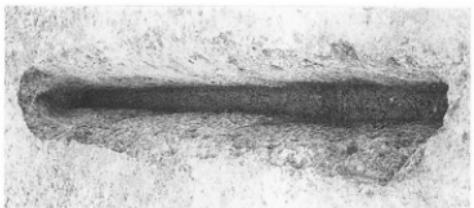


SKT503 完掘（南東から）

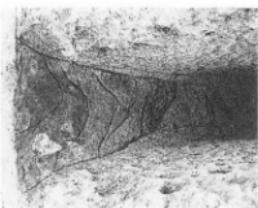


断面（南東から）

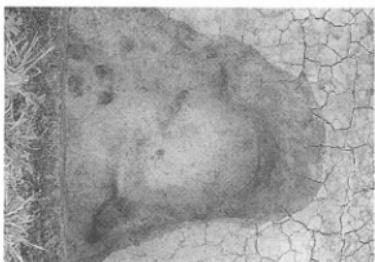
写真図版17 陥し穴状遺構 (5)



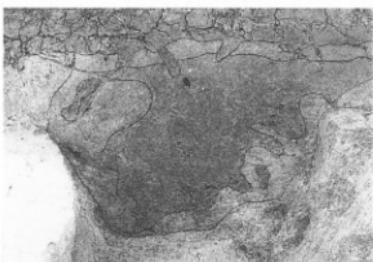
SKT507 完掘（東から）



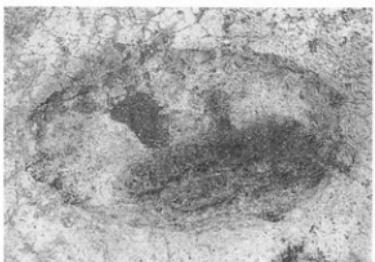
断面（東から）



SKT10 完掘（南から）



断面（東から）



SK501 完掘（南東から）



断面（南東から）



SK502 完掘（北東から）



断面（北東から）

写真図版18 陥し穴状遺構（6）・土坑（1）



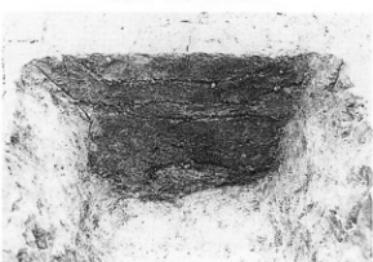
SK504 完掘（北東から）



SK504 断面（南東から）



SD501断面aa'（東から）



SD502断面bb'（東から）



SD502断面cc'（南から）



SD502断面ee'（南から）



SD502断面ff'（南から）



SD503断面gg'（南から）

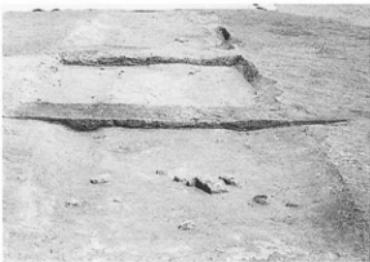
写真図版19 土坑（2）・溝跡（1）



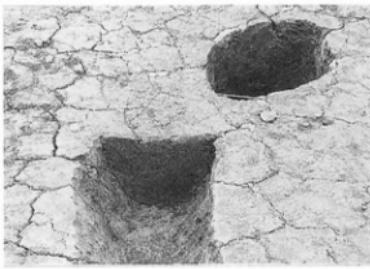
SD06 完掘（北から）



SD05 完掘（北西から）



SD05 断面（北西から）

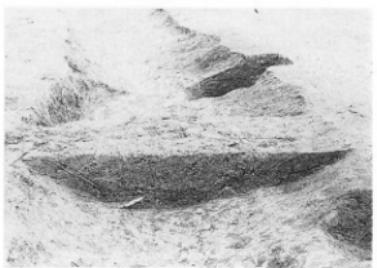


SD06 断面（南から）

写真図版20 溝跡（2）



SD07 断面 (西から)



SD08 断面 (北西から)



SD08 完掘 (西から)

写真図版21 溝跡 (3)



P 4 捜立柱建物跡 (SB01) 実掘 (北から)



P 4 断面 (南から)



P 5 断面 (東から)



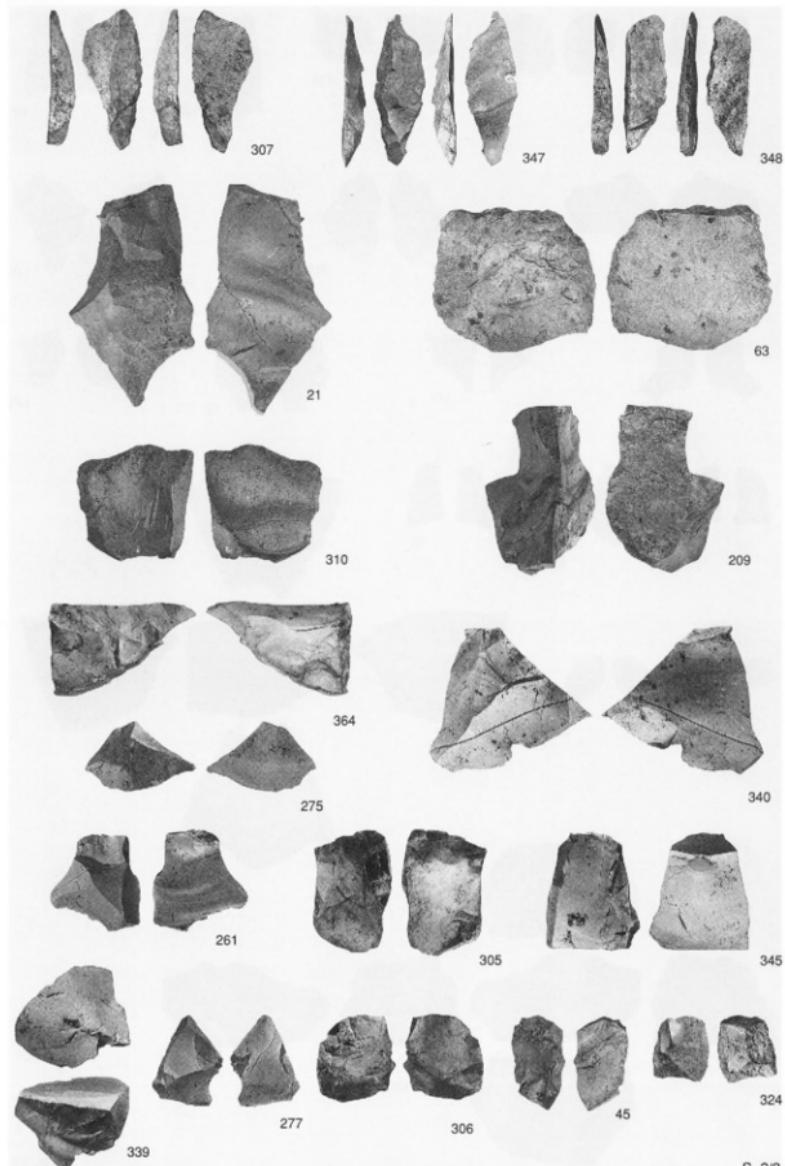
P 6 断面 (東から)



P 7 断面 (南から)

写真図版22 捜立柱建物跡

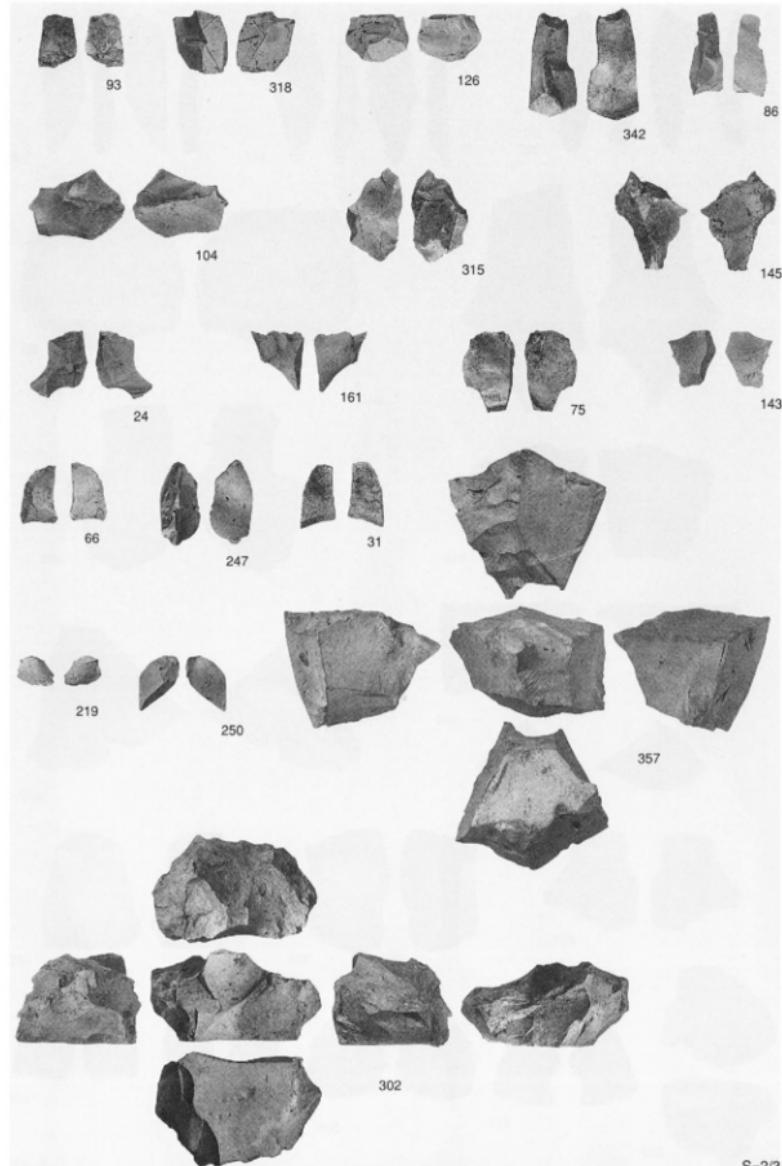
石質A



写真図版23 旧石器時代出土遺物（1）

S=2/3

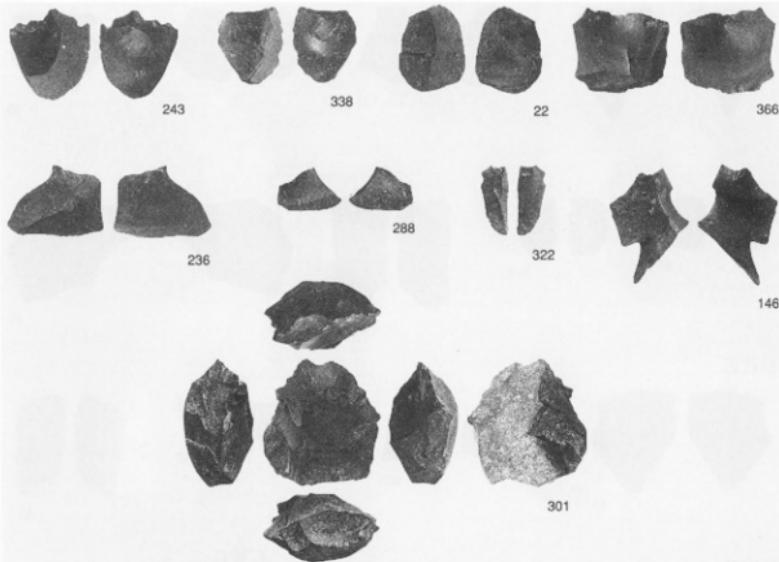
石質A



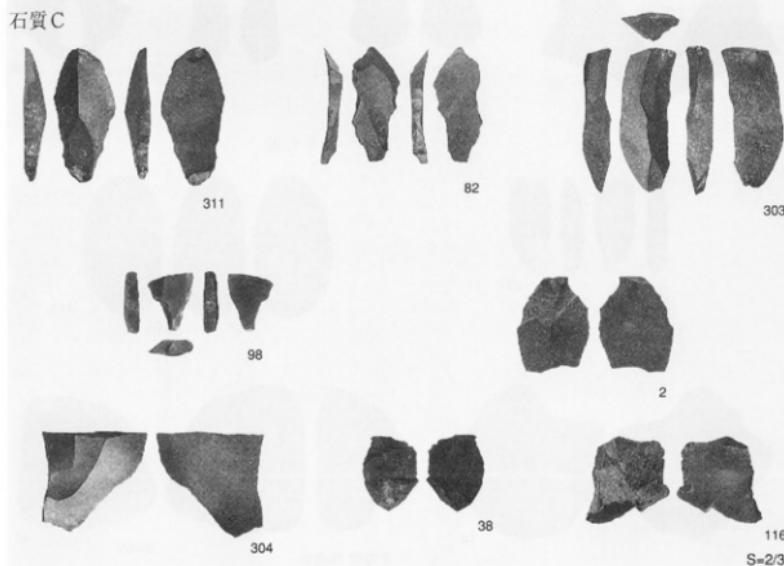
S=2/3

写真図版24 旧石器時代出土遺物（2）

石質B



石質C



写真図版25 旧石器時代出土遺物（3）

石質D



石質E



石質F



石質G



その他



写真図版26 旧石器時代出土遺物 (4)

石質 A

接合 16



接合 4



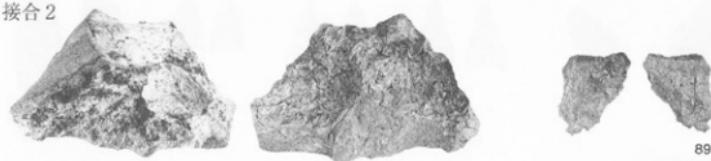
接合 1



接合 17



接合 2



写真図版27 旧石器時代出土遺物 (5)

接合 3



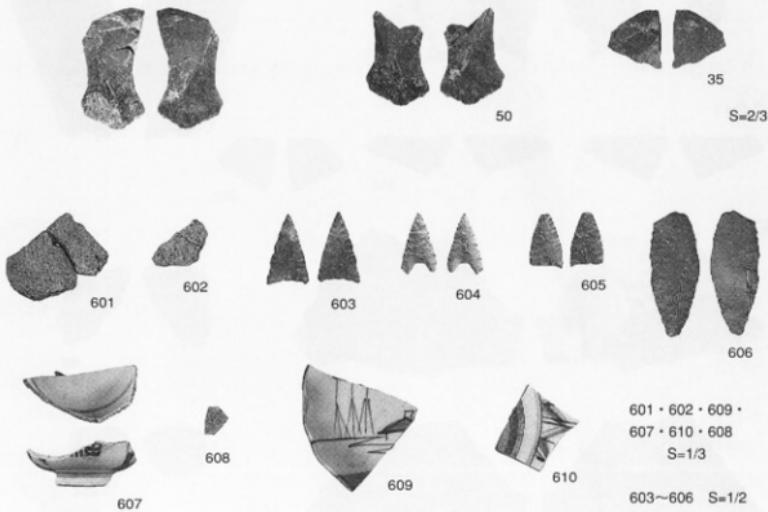
接合 12



接合 7



接合 5



写真図版28 旧石器時代出土遺物（6）・遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にのだいながねいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	二の台長根遺跡発掘調査報告書							
副書名	国営いさわ南部農地整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第476集							
編著者名	吉田 充							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019)638-9001							
発行年月日	2006年2月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	。	。			
二の台長根遺跡	岩手県胆沢郡胆沢町小山字二の台長根110-4他	03383	NE44-1312	39度04分10秒	141度03分16秒	2004.04.14～2004.09.10	17,764m ²	国営いさわ南部農地整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
二の台長根遺跡	石器集中区	後期旧石器時代	石器集中区	1ヶ所	ナイフ形石器 台形様石器 台石 縞刻状の蝶 剥片・破片	7点 3点 1点 1点 207点		
	狩り場	縄文時代	陥し穴状造構 土坑	24基 4基				
		近世？	掘立柱建物跡 溝跡 柱穴状土坑	1棟 7条 70個				

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第476集

二の台長根遺跡発掘調査報告書

国営いさわ南部農地整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成18年2月22日

発 行 平成18年2月28日

発 行 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電 話 (019) 638-9001

F A X (019) 638-8563

印 刷 (有) 橋本印刷

〒020-0015 岩手県盛岡市本町通1丁目15-29

電 話 (019) 652-1354

